

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第24集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 23

HAKE SITE
ハケ遺跡第24地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第99地点

KOMABAYASHI SITE
駒林遺跡第35・37地点

HIGASHIKUBOBINAMI SITE
東久保南遺跡第43地点

NISHINOHARA SITE
西ノ原遺跡第158地点

2019年3月

ふじみ野市教育委員会

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告 第24集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 23

HAKÉ SITE
ハケ遺跡第24地点

MATSUYAMA SITE
松山遺跡第99地点

KOMABAYASHI SITE
駒林遺跡第35・37地点

HIGASHIKUBOBINAMI SITE
東久保南遺跡第43地点

NISHINOHARA SITE
西ノ原遺跡第158地点

2019年3月

ふじみ野市教育委員会



西ノ原遺跡第158地点A区全景1



西ノ原遺跡第158地点A区全景2



西ノ原遺跡第158地点A区全景3



西ノ原遺跡第158地点B区全景



西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡



西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡完掘 1



西ノ原遺跡第158地点61号住居跡



西ノ原遺跡第158地点197号住居跡

はじめに

ふじみ野市は平成17年10月に旧上福岡市と旧大井町が合併し、平成27年に10周年を迎え、今また新しい時代を歩みはじめています。

ふじみ野市は、都心から30km圏内という立地条件にあるため、昭和30年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施されました。さらに、ふじみ野市となってからは、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

新たな歴史を歩みはじめたふじみ野市内には、權現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場庁舎など、多くの文化財が存在し、2万数千年前の旧石器時代から現代までの長い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることができました。その成果は、店舗や住宅建設など、近年の開発ラッシュに伴い発掘されたものです。長い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部を、「夢のある心豊かな学びのまちづくり」のため、貴重な文化財を将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会文化資源課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会

教育長 朝倉 孝

例　　言

1. 本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の、試掘調査・発掘調査6件の報告書である。
2. 本発掘調査に先立ち行った2017(平成29)年度の試掘調査と発掘調査および整理作業は、総経費8,434,167円に対し国庫補助金4,215,000円と県費2,107,000円の補助金の交付を受け、2017(平成29)年4月1日から2018(平成30)年3月30日まで実施、2018(平成30)年度が総経費7,201,485円に対し国庫補助金3,600,000円と県費1,800,000円の補助金の交付を受け、2018(平成30)年4月1日から2019(平成31)年3月31日まで実施したもののが一部である。民間開発を原因として行った6件の本調査は、開発原因者から委託を受け、ふじみ野市教育委員会が主体となって行った。開発原因者・委託者は次のとおりで、各発掘調査及び整理作業に伴う費用は各開発原因者・委託者からの委託費により行った。

遺跡名・地点名	委託者	契約期間
西ノ原遺跡第158地点	高野 喜好	平成29年 3月16日～平成31年 3月31日
ハケ遺跡第24地点	株式会社ダイソーホーム	平成29年 7月28日～平成31年 3月31日
松山遺跡第99地点	有限会社プレミアムホーム	平成31年 1月18日～平成31年 3月31日
駒林遺跡第35地点	株式会社エヌテクトコスモ	平成29年 8月23日～平成31年 3月31日
駒林遺跡第37地点	有限会社小坂部産業	平成30年 3月 8日～平成31年 3月31日
東久保南遺跡第43地点	大和ハウス工業株式会社埼玉支社	平成29年 11月14日～平成31年 3月31日

3. 調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会	文化財保護係調査担当者	
担当課	社会教育課文化財保護係	高崎 直成	(2005.4.1～2018.3.31)
教　育　長	朝倉 孝 (2014.4.1～)	鍋島 直久	(2005.4.1～2017.3.31)
部　　長	中野 则之 (2015.4.1～2017.3.31)	長谷川 義行	(2017.4.1～)
	土屋 浩 (2017.4.1～)	岡崎 裕子	(2015.4.1～)
課　　長	佐藤 龍司 (2016.4.1～2018.3.31) 庶務担当	橋本 祐可子	(2015.4.1～)
	高崎 直成 (2018.4.1～)	発掘調査員補	鍛田 邦 (2015.11.2～2018.3.31)
副　課　長	佐藤 龍司 (2015.4.1～2016.3.31)	坪田 幹男	(2018.7.1～)
社会教育課副課長兼文化財保護係長	(2016.4.1から兼務)	高橋 京子	(2005.4.1～)
	高崎 直成 (2013.4.1～2018.3.31)		
	小林 久美 (2018.4.1～)		

4. 本書作成にあたっての作業分担は、第3章を坪田、第6章を鍛田、それ以外を岡崎が行った。石器の観察表作成を鍛田が担当した。整理作業の分担は次のとおりである。遺物接合・復元：中田藤子、川中ひろみ。石器実測：岩城英子、鍛田翔。土器実測・拓本：齊藤有紀、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、松平静、山内康代。遺構・遺物図トレス：小林登喜江。図版作成：青山奈保美、齊藤有紀、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。遺構写真：岡崎裕子、鍛田翔。レイアウト・遺物写真：大久保美子、岡崎裕子。

発掘調査から整理作業、報告書刊行までの業務委託は次のとおりである。ハケ遺跡第24地点の石器実測・トレス、遺構図版作成の一部と遺物写真は有限会社アルケーリサーチに業務委託した。西ノ原遺跡第158地点の石器実測は有限会社アルケーリサーチ及び株式会社東京航業研究所に業務委託した。駒林遺跡第35地点及び第37地点の土壤サンプル分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に業務委託した。

5. 各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。(敬称略)

天ヶ嶋岱、上田寛、越前谷理、大久保淳、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、隈本健介、酒井智晴、荒森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塙野敏和、清水理史、鈴木清、高木文夫、田中信、坪田幹男、中村愛、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、三上栄一、水口由紀子、柳井章宏、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部文化資源課、上福岡歴史民俗資料館、大井郷土資料館

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、壹岐久子、井上麻美子、岩城英子、臼井孝、大久保明子、岡良子、小口広、金澤とみ江、川中ひろみ、小林登喜江、坂本民子、桜井英史、佐竹里佳、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、野岡由紀子、長谷川雅之、比嘉洋子、深谷和江、深谷美奈子、福田美枝子、増澤勝実、松平静、山内康代、矢作梓、米田昇三、若林紀美代

凡 例

1. 本書の遺構・遺物抑図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として、遺構配置図 1:300、遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30、炉などの詳細図 1:30、土器実測図 1:4、土器拓影図 1:4、石器実測図 1:4、2:3、銭 1:1 である。

(2) 遺構断面図の水系高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、

撲乱 地山(ローム) 焼土 煤・炭化物範囲

撲糸文 赤色塗彩 黒色塗彩

土器 ● 石器 ★ 黒曜石・チャート ▲ 磁 ○ 土製品 ☆ である。

(4) 土器断面図は、■が織維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

(6) 土器：陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180 度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。

埼玉県ふじみ野市
市内遺跡群 23 目次

はじめに	1
例　　言	ii
凡　　例	iii
目　　次	iv
挿図目次	v
表　　目次	vi
写真図版目次	vi
第1章 ふじみ野市の遺跡	1
I ふじみ野市の立地と環境	1
II 市内の遺跡	2
第2章 ハケ遺跡第24地点の調査	5
I 遺跡の立地と環境	5
II 調査に至る経過と概要	5
III 遺構と遺物	7
第3章 松山遺跡第99地点の調査	22
I 遺跡の立地と環境	22
II 調査に至る経過と概要	26
III 遺構と遺物	26
第4章 駒林遺跡第35地点の調査	29
I 遺跡の立地と環境	29
II 調査に至る経過と概要	29
III 遺構と遺物	32
第5章 駒林遺跡第37地点の調査	37
I 調査に至る経過と概要	37
II 遺構と遺物	38
第6章 東久保南遺跡第43地点の調査	44
I 遺跡の立地と環境	44
II 調査に至る経過と概要	44
III 遺構と遺物	47
第7章 西ノ原遺跡第158地点の調査	50
I 遺跡の立地と環境	50
II 調査に至る経過と概要	50
III 遺構と遺物	55
第8章 まとめ	124
附　　編	130
写真図版	135
抄　　録	181

挿図目次

第 1 図	ふじみ野市の位置と周辺の地形	1
第 2 図	ふじみ野市遺跡分布図(1/30,000)	3
第 3 図	ハケ遺跡の地形と調査区(1/4,000)	5
第 4 図	ハケ遺跡遺構分布図(1/2,000)	7
第 5 図	ハケ遺跡第 24 地点遺構配置図(1/400)	8
第 6 図	ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡(1/60)	9
第 7 図	ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡炉・集石土坑・掘方・遺物出土状況(1/30)	10
第 8 図	ハケ遺跡第 24 地点 J36 号住居跡埋甕・掘方(1/30) ····	11
第 9 図	ハケ遺跡第 24 地点堅穴遺構・遺物出土状況・土坑・ピット(1/60) ····	12
第 10 図	ハケ遺跡第 24 地点集石土坑 1(1/30) ····	13
第 11 図	ハケ遺跡第 24 地点出土遺物①(1/4) ····	14
第 12 図	ハケ遺跡第 24 地点出土遺物②(1/4) ····	15
第 13 図	ハケ遺跡第 24 地点出土遺物③(1/4) ····	16
第 14 図	ハケ遺跡第 24 地点出土遺物④(1/4) ····	17
第 15 図	ハケ遺跡第 24 地点出土遺物⑤(1/4) ····	18
第 16 図	松山遺跡の地形と調査区(1/4,000) ····	22
第 17 図	松山遺跡遺構分布図(1/3,000) ····	25
第 18 図	松山遺跡第 99 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60) ····	26
第 19 図	松山遺跡第 99 地点堅穴遺構・ピット(1/60) ····	27
第 20 図	松山遺跡第 99 地点出土遺物(1/4) ····	28
第 21 図	駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000) ····	29
第 22 図	駒林遺跡遺構分布図(1/2,000) ····	31
第 23 図	駒林遺跡第 35 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150) ····	33
第 24 図	駒林遺跡第 35 地点土坑・溝(1/60) ····	34
第 25 図	駒林遺跡第 35 地点矢張跡(1/120) ····	35
第 26 図	駒林遺跡第 35 地点出土遺物(1/4) ····	36
第 27 図	駒林遺跡第 37 地点遺構配置図(1/400)、土層(1/150)、溝(1/60) ····	37
第 28 図	駒林遺跡第 37 地点ピット群(1/60) ····	39
第 29 図	駒林遺跡第 37 地点矢張跡・ピット群(1/60) ····	41
第 30 図	駒林遺跡第 37 地点出土遺物(1/4 ··· 1/1) ····	43
第 31 図	東久保南遺跡の地形と調査区(1/4,000) ····	44
第 32 図	東久保南遺跡遺構分布図(1/2,000) ····	46
第 33 図	東久保南遺跡第 43 地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150) ····	47
第 34 図	東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居跡・遺物出土状況(1/60)、炉・掘方(1/30) ····	48
第 35 図	東久保南遺跡第 43 地点ピット(1/60)、出土遺物(1/4) ··· 49	
第 36 図	西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000) ····	50
第 37 図	西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000) ····	54
第 38 図	西ノ原遺跡第 158 ··· 159 地点遺構配置図(1/300) ····	55
第 39 図	西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡(1/60) ····	57
第 40 図	西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡炉・掘方(1/30)、ピット(1/60) ····	58
第 41 図	西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	59
第 42 図	西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡(1/60) ····	60
第 43 図	西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	61
第 44 図	西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60) ····	62
第 45 図	西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡(1/60) ····	63
第 46 図	西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	64
第 47 図	西ノ原遺跡第 158 地点 194 号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60) ····	65
第 48 図	西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡(1/60) ····	66
第 49 図	西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	67
第 50 国	西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡炉・掘方(1/30)、ピット(1/60) ····	68
第 51 国	西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡(1/60) ····	69
第 52 国	西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	70
第 53 国	西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡炉・掘方(1/30)、ピット(1/60) ····	71
第 54 国	西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡(1/60) ····	72
第 55 国	西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	73
第 56 国	西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡炉 ··· 挖方(1/30)、ピット(1/60) ····	74
第 57 国	西ノ原遺跡第 158 地点 199 ··· 204 号住居跡(1/60) ····	75
第 58 国	西ノ原遺跡第 158 地点 199 号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60) ····	76
第 59 国	西ノ原遺跡第 158 地点 199 ··· 204 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	77
第 60 国	西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡(1/60) ····	79
第 61 国	西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡遺物出土状況(1/30) ····	80
第 62 国	西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60) ····	81
第 63 国	西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡遺物出土状況(1/60) ····	82
第 64 国	西ノ原遺跡第 158 地点 201 号住居跡炉 ··· 挖方(1/30)、ピット(1/60) ····	83
第 65 国	西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡(1/60) ····	84
第 66 国	西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡炉 ··· 挖方(1/30)、遺物出土状況(1/60) ····	85
第 67 国	西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡ピット(1/60)、変造模式図(1/120) ····	86
第 68 国	西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡 A ··· B(1/60) ····	87
第 69 国	西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡 A ··· B、掘り込み遺構遺物出土状況(1/30) ····	88
第 70 国	西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡炉(1/30)、216 号住居内ピット(1/60)、A ··· B 住居柱穴定園(1/60) ····	89
第 71 国	西ノ原遺跡第 158 地点堅穴遺構(1/60)、遺物出土状況(1/30) ····	90
第 72 国	西ノ原遺跡第 158 地点土坑 ··· ピット(1/60) ····	91
第 73 国	西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物①(1/4) ··· 92	
第 74 国	西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物②(1/4) ··· 93	
第 75 国	西ノ原遺跡第 158 地点 61 号住居跡出土遺物③(1/4) ··· 94	
第 76 国	西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡出土遺物①(1/4) ··· 95	
第 77 国	西ノ原遺跡第 158 地点 62 号住居跡出土遺物②(1/4) ··· 96	
第 78 国	西ノ原遺跡第 158 地点 62 ③ ··· 194 ①号住居跡出土遺物(1/4 ··· 2/3) ····	97
第 79 国	西ノ原遺跡第 158 地点 194 ② ··· 199 ①号住居跡出土遺物(1/4 ··· 2/3) ····	98
第 80 国	西ノ原遺跡第 158 地点 196 号住居跡出土遺物②(1/4) ··· 99	
第 81 国	西ノ原遺跡第 158 地点 196 ③ ··· 197 ①号住居跡出土遺物(1/4 ··· 1/1) ····	100
第 82 国	西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡出土遺物②(1/4) ··· 101	
第 83 国	西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡出土遺物③(1/4) ··· 102	
第 84 国	西ノ原遺跡第 158 地点 197 ④ ··· 199 ①号住居跡出土遺物(1/4 ··· 2/3) ····	103
第 85 国	西ノ原遺跡第 158 地点 198 ② ··· 199 ①号住居跡出土遺物(1/4) ····	104
第 86 国	西ノ原遺跡第 158 地点 198 ② ··· 204 号住居跡出土遺物(1/4) ····	105
第 87 国	西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物①(1/4) ··· 106	
第 88 国	西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡出土遺物②(1/4 ··· 2/3 ··· 1/1) ····	107
第 89 国	西ノ原遺跡第 158 地点 201 ··· 203 ①号住居跡出土遺物(1/4) ····	108
第 90 国	西ノ原遺跡第 158 地点 203 号住居跡出土遺物②(1/4 ··· 2/3) ····	109
第 91 国	西ノ原遺跡第 158 地点 216 号住居跡 ··· 挖り込み遺構出土遺物(1/4) ····	110
第 92 国	西ノ原遺跡第 158 地点堅穴遺構 ··· 遺構外土遺物(1/4 ··· 2/3) ····	111
第 93 国	松山遺跡第 60 地点遺構配置図(1/600)、堀 ··· 溝(1/160) ····	126
第 94 国	松山遺跡第 64 地点溝(1/160)、土層(1/300) ····	127

表 目 次

第1表	ふじみ野市遺跡一覧表	2	第27表	西ノ原遺跡住居跡一覧表	52
第2表	ハケ遺跡調査一覧表	6	第28表	縦文時代中期幅年対比表	56
第3表	ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表	6	第29表	西ノ原遺跡第158地点61号住居内ピット一覧表	58
第4表	ハケ遺跡第24地点集石土坑・出土器觀察表	10	第30表	西ノ原遺跡第48地点61号住居内ピット一覧表	58
第5表	ハケ遺跡第24地点J36号住居内ピット一覧表	11	第31表	西ノ原遺跡第158地点62号住居内ピット一覧表	62
第6表	ハケ遺跡第24地点土坑一覧表	11	第32表	西ノ原遺跡第48地点62号住居内ピット一覧表	62
第7表	ハケ遺跡第24地点堅穴遺構内ピット一覧表	11	第33表	西ノ原遺跡第158地点194号住居内ピット一覧表	65
第8表	ハケ遺跡第24地点ピット一覧表	11	第34表	西ノ原遺跡第158地点196号住居内炉体礫一覧表	68
第9表	ハケ遺跡第24地点出土遺物觀察表	19	第35表	西ノ原遺跡第158地点196号住居内ピット一覧表	68
第10表	ハケ遺跡第24地点出土石器觀察表	21	第36表	西ノ原遺跡第158地点197号住居内ピット一覧表	71
第11表	松山遺跡調査一覧表	23	第37表	西ノ原遺跡第158地点198号住居内ピット一覧表	74
第12表	松山遺跡第99地点塹状遺構内ピット一覧表	28	第38表	西ノ原遺跡第158地点199号住居内ピット一覧表	76
第13表	松山遺跡第99地点出土遺物觀察表	28	第39表	西ノ原遺跡第158地点204号住居内ピット一覧表	76
第14表	駒林遺跡調査一覧表	30	第40表	西ノ原遺跡第158地点200号住居内ピット一覧表	81
第15表	駒林遺跡第35地点塹跡内ピット一覧表	36	第41表	西ノ原遺跡第158地点201号住居内炉体礫一覧表	83
第16表	駒林遺跡第35地点土坑一覧表	36	第42表	西ノ原遺跡第158地点201号住居内ピット一覧表	83
第17表	駒林遺跡第35地点溝一覧表	36	第43表	西ノ原遺跡第158地点203号住居内炉体礫一覧表	85
第18表	駒林遺跡第35地点出土遺物觀察表	36	第44表	西ノ原遺跡第158地点203号住居内ピット一覧表	86
第19表	駒林遺跡第37地点ピット一覧表	38	第45表	西ノ原遺跡第158地点掘り込み遺構内ピット一覧表	87
第20表	駒林遺跡第37地点出土遺物觀察表	43	第46表	西ノ原遺跡第158地点216号住居内ピット一覧表	89
第21表	東久保南遺跡調査一覧表	45	第47表	西ノ原遺跡第158地点堅穴遺構内ピット一覧表	90
第22表	東久保南遺跡縄文時代住居跡一覧表	47	第48表	西ノ原遺跡第158地点土坑一覧表	91
第23表	東久保南遺跡第43地点J3号住居内ピット一覧表	49	第49表	西ノ原遺跡第158地点ピット一覧表	91
第24表	東久保南遺跡第43地点ピット一覧表	49	第50表	西ノ原遺跡第158地点出土遺物觀察表	112
第25表	東久保南遺跡第43地点出土遺物觀察表	49	第51表	松山遺跡第64地点溝一覧表	127
第26表	西ノ原遺跡調査一覧表	51			

写真図版目次

写真図版 1	ハケ遺跡第24地点(1)	135	写真図版 24	西ノ原遺跡第158地点(6)	158
写真図版 2	ハケ遺跡第24地点(2)	136	写真図版 25	西ノ原遺跡第158地点(7)	159
写真図版 3	ハケ遺跡第24地点(3)	137	写真図版 26	西ノ原遺跡第158地点(8)	160
写真図版 4	ハケ遺跡第24地点(4)	138	写真図版 27	西ノ原遺跡第158地点(9)	161
写真図版 5	ハケ遺跡第24地点(5)	139	写真図版 28	西ノ原遺跡第158地点(10)	162
写真図版 6	ハケ遺跡第24地点(6)	140	写真図版 29	西ノ原遺跡第158地点(11)	163
写真図版 7	ハケ遺跡第24地点(7)	141	写真図版 30	西ノ原遺跡第158地点(12)	164
写真図版 8	ハケ遺跡第24地点(8)	142	写真図版 31	西ノ原遺跡第158地点(13)	165
写真図版 9	松山遺跡第99地点(1)	143	写真図版 32	西ノ原遺跡第158地点(14)	166
写真図版 10	松山遺跡第99地点(2)	144	写真図版 33	西ノ原遺跡第158地点(15)	167
写真図版 11	駒林遺跡第35地点(1)	145	写真図版 34	西ノ原遺跡第158地点(16)	168
写真図版 12	駒林遺跡第35地点(2)	146	写真図版 35	西ノ原遺跡第158地点(17)	169
写真図版 13	駒林遺跡第35地点(3)	147	写真図版 36	西ノ原遺跡第158地点(18)	170
写真図版 14	駒林遺跡第37地点(1)	148	写真図版 37	西ノ原遺跡第158地点(19)	171
写真図版 15	駒林遺跡第37地点(2)	149	写真図版 38	西ノ原遺跡第158地点(20)	172
写真図版 16	駒林遺跡第37地点(3)	150	写真図版 39	西ノ原遺跡第158地点(21)	173
写真図版 17	東久保南遺跡第43地点(1)	151	写真図版 40	西ノ原遺跡第158地点(22)	174
写真図版 18	東久保南遺跡第43地点(2)	152	写真図版 41	西ノ原遺跡第158地点(23)	175
写真図版 19	西ノ原遺跡第158地点(1)	153	写真図版 42	西ノ原遺跡第158地点(24)	176
写真図版 20	西ノ原遺跡第158地点(2)	154	写真図版 43	西ノ原遺跡第158地点(25)	177
写真図版 21	西ノ原遺跡第158地点(3)	155	写真図版 44	西ノ原遺跡第158地点(26)	178
写真図版 22	西ノ原遺跡第158地点(4)	156	写真図版 45	西ノ原遺跡第158地点(27)	179
写真図版 23	西ノ原遺跡第158地点(5)	157	写真図版 46	西ノ原遺跡第158地点(28)	180

第1章 ふじみ野市の遺跡

1 ふじみ野市の立地と環境

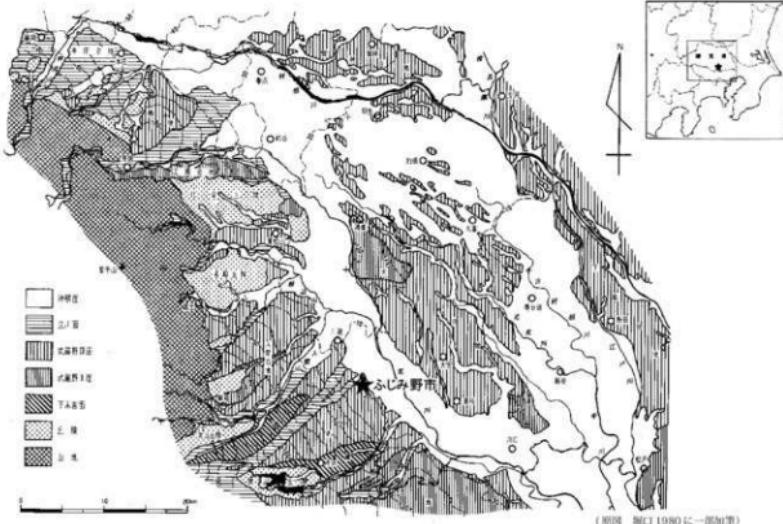
ふじみ野市は埼玉県の南西部に位置し、市内には国道254号バイパス、東武東上線、川越街道（国道254号線）、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市の開発は、こうした幹線沿いや東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畠地や田園風景も多くみられる。

ふじみ野市を地形的にみると、武藏野台地縁辺部と荒川低地の沖積地に大きく分かれ、旧大井町域は武藏野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武藏野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高180m、扇端部は標高15～20mで比高差10m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で

見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地（大井台）がある。この大井台の中を3本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、淨禪寺川などの小河川は、市内に湧水源をもつ。湧水源は深い窪地から発しており、こうした窪地の形成は從来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発し、その流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武藏野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫できた旧河道（埋没河川）、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。



第1図 ふじみ野市の位置と周辺の地形

Ⅱ 市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

【旧石器時代・縄文時代】 市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ヶ岡外遺跡、鶴ヶ岡遺跡、八幡神社遺跡（川越市）が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ヶ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れれる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名

称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手（北側）を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期閑山期の集落跡が確認されている。

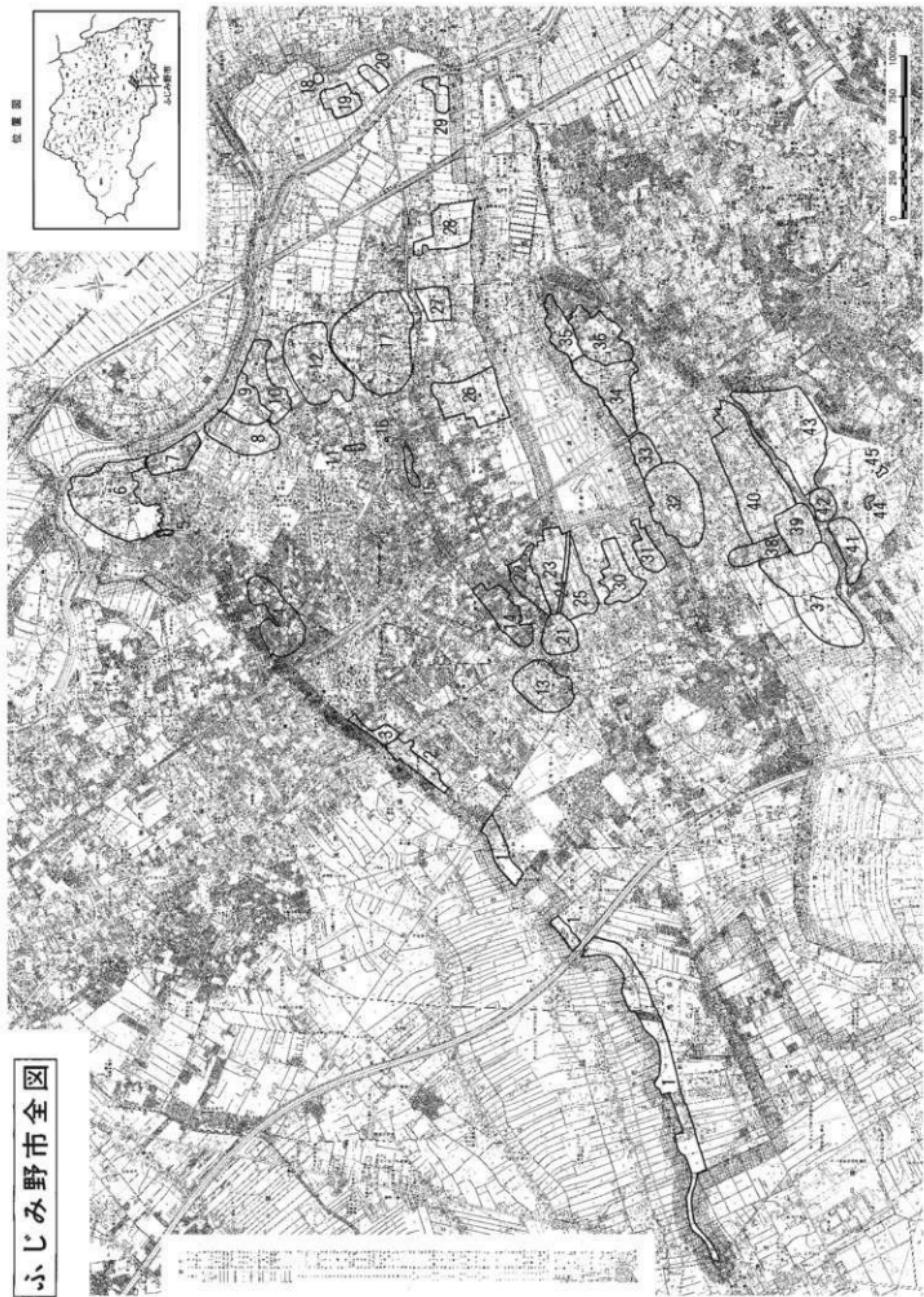
川越江川の1km南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この2遺跡と鶴ヶ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第IV層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保塙跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の900m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、3km下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中

第1表 ふじみ野市遺跡一覧表

№	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ヶ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ヶ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡	25-005
8	上福岡貝塚	古墳前期・中期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡、古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落跡	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期・中期・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ヶ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神堀遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期・中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期・近世の集落跡	30-009
24	亀久保塙跡遺跡	中世の塙跡	30-006

№	遺跡名	主な時代	遺跡番号
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の塙跡、中世の塙跡	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鶯森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文中期～後期	30-020
36	淨寺寺跡遺跡	旧石器、縄文中期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文中期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏蛇跡遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸遺跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔塙	中世の散布地	30-027



第2図 ふじみ野市道路分布図 (1/30,000)

沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡（富士見市）で立川ロームⅢ層～X層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の800m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく3ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狹山丘陵部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあと再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり5～6mの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連綿と続く。一方、砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるAT降灰前（立川ローム第VII層）の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群（埼玉県指定史跡権現山古墳群）は、方墳11基の他に古墳時代初期の前方後方墳（2号墳）1基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群（通称権現山北古墳群）3基がある。ハケ遺跡第16地点の調査（2014）で、古墳の周溝から、6世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第19地点の調査（2015）では6世紀代の円墳3基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約1.5kmの台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は10世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は9世紀後半ごろま

で続く。

8世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8世紀中葉から9世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに9世紀以降10世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは鍔帶金具が、川崎遺跡からは瓦片と布目瓦などが出土しており注目される。

【中世】 脊林遺跡では14世紀代に造立された板碑の下に、藏骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む壙跡状の溝覆土層中から、茶毬跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは13～16世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16世紀後半から17世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、淨禪寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に壙跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、脊林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な壙跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である淨禪寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所（通称造兵廠「火工廠」）の跡地で、防爆土壁・防空壕・水溜・消防栓・排水沟などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。

第2章 ハケ遺跡第24地点の調査

I 遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武藏野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武藏野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差2m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷に入る。標高は14~16mで、遺跡の範囲は南北360m、東西160m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畠が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳~奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晚期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2018年3月現在31ヶ所で調査が行われている。

主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構（旧福田屋跡）と、2014年に第16地点の発掘調査で、古墳の周溝から6世紀中頃の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土した。さらに2015年

度の調査で6世紀代の円墳3基が新たに確認、検出された。

本遺跡は、かつてハケ遺跡A、ハケ遺跡B、ハケ遺跡Cと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。

II 調査に至る経過と概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2017年7月7日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、7月19日~27日まで試掘調査を実施した。幅約1.5~2mのトレーン9本を設定し、重機による表土除去後人力による精査を行ったところ、縄文時代住居跡、竪穴造構、土坑、ピット等を確認した。現地表面から遺構確認面までの深さは30~40cmで遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を行った。

本調査は7月28日~8月7日まで実施した。調査



第2表 ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 (社会試験調査)	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
A-1次	大字中郷町字通見1228~2021	1976.9.11~16	306	個人住宅	古墳埋蔵跡、竪穴状遺構3、縄文土器	上福岡市通見調査報告書
C-1次	大字中郷町字通見1480	1977.8.2~27	1,794	宅地造成	縄文住居跡5、奈良平安住居跡2、竪穴状遺構、土坑、炉跡	ハヤ連跡調査合会ハヤ連C地区
B-1次	中福岡128-40	1978.8.28~9.10	165	個人住宅	道溝なし、縄文土器	埋蔵文化財の調査(1)
B-2次	中福岡1181-2	1978.9.11~25	360	貸家建設	土坑4、炉跡1、土器	埋蔵文化財の調査(6)
B-3次	中福岡1228-37	1979.7.20~31	166		土坑3、縄文土器	埋蔵文化財の調査(V)
B-5次	大字中郷町字通見1228-46	1982.5.10~17	165		土坑1、縄文土器	埋蔵文化財の調査(V)
C-2次	福岡3-206B-1, 2	1987.4.16~5.29	1,900	鹿屋市付住宅改築	福岡中郷住居跡1、奈良平安住居4、厨立1	埋蔵文化財の調査(X)
C-3次	福岡3-2-1	1988.8.15~20	627	駐車場	福岡中郷住居跡4、奈良平安住居2	埋蔵文化財の調査(X)
C-4次	福岡3-4-2	1988.10.24~28	60	施設改修工事	福岡中郷住居跡1	埋蔵文化財の調査(11)
C-4次	旧福岡歴敷地内	1990.6.20~9.6 H3.1月末~最終調査予定	500		旧福岡城柱石跡、御治屋建物跡、(礎石、火炎3・物置跡、粘土丸リヤド円形小穴6)・江戸前期~中期の窯跡、奈良平安住居3、縄文中期住居跡2、縄文土器	平成2年度教資費要旨市史資料編
C-6次	福岡3-1189、2065-2	1993.5.6~18	141.91	個人住宅	福岡中郷土坑跡	埋蔵文化財の調査(16)
C-4次	福岡3-2069-1の一部	1994.6.10~1.31	54	河原記念館新棟 ・既成工事	福岡中郷住居跡8、土坑30	埋蔵文化財の調査(17)
C-5次	福岡3-1884-8	2000.1.26	100	個人住宅	道溝遺物なし	埋蔵文化財の調査(22)
C-7次	福岡3-2	(2006.7.10~22)	666	宅地造成	福岡・奈良平安遣構出	市内遺跡群3
C-8次	福岡3-2069-9	(2009.3.17)	99	個人住宅	住居跡跡	市内遺跡群6
C-8次	福岡3-1257-7, 1259-1	(2010.2.2~4)	120	個人住宅	土坑1、風炉1	市内遺跡群8
10	福岡3-1363-14	(2011.4.22)	122.1	個人住宅	時期不明1	市内遺跡群14
11	福岡3-1363-11	(2011.4.21~22)	157.7	分譲住宅	縄文時代屋外埋蔵1、土器	市内遺跡群14
12	福岡3-1472-1	(2012.9.24)	122	個人住宅	ビット1、土器	市内遺跡群15
13	福岡3-1484-1	(2013.10.2~3)	183	個人住宅	道溝遺物なし	市内遺跡群18
14	福岡3-1363-15	(2013.11.22)	144	個人住宅	道溝遺物なし	市内遺跡群18
15	福岡3-1228-19	(2014.4.8~9)	184.09	共同住宅	道溝遺物なし	市内遺跡群20
16	福岡3-1254-7, 14, 17	(2014.8.11~9.29)3~9	68	焼造住宅	古墳1、人骨、円錐埴輪等、縄文土器	市内遺跡群21
17	福岡3-1219-1, 2	(2014.9.26~30)	98.58	個人住宅	現代の3穴式、近堂~近代陶器、ガラス製品	市内遺跡群20
18	福岡3-1182-2, 2066-5	(2014.12.4~10)	510.67	個人住宅	縄文時代中古住居跡1、土坑2、満2、縄文土器	市内遺跡群16
19	福岡3-1222-1, 1223~1225, 1255	(2015.3.17~5.11~10.13) 2015.6.2~9.19	2,296.5	宅地造成	古墳3、満2、縄文土器、土器類、埴輪	市内遺跡群21
20	福岡3-1252-1	(2015.10.14~16) 2015.10.29~30	375	分譲住宅	古代の席の痕跡1、土坑1、土器類、火工痕跡杭	市内遺跡群21
21	福岡3-1193-4, 15, 2069-10	(2016.1.15)	101	個人住宅	道溝遺物なし	市内遺跡群22
22	福岡3-2061-6の一部	(2016.12.26~2017.1.19) 2017.1.25~28	249.32	はげ台古谷集会施設	古代住居跡1016、土坑13、ビット13、縄文土器、土器類	未報告
23	福岡3-1183-1の一部	(2017.1.18)	137	個人住宅	ビット、縄文土器	未報告
24	福岡3-1178-1, 1179-1, 1180-1, 1181-1, 2066-2, 2067	(2017.7.19~27) 2017.7.28~8.7	1,702.15	宅地造成	縄文住居跡1、土坑2、近代の集石土坑1、ビット14、縄文土器、石器、消済器、陶器類	市内遺跡群23

第3表 ハケ遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査年 度	調査名	調査率 () は推定	規格	地床 庇体 石面	壁 面	圓周	主牆 方位	時 期	備 考	文献
1	1977	C地区1号住居跡	1/4 (円形)	(600)	○				加賀利E.II		ハケ遺跡C地区
2	欠										竪穴遺構に変更
3	〃	C地区5号住居跡	完掘	(方形)	400×500	○			調査		〃
4	〃	C地区6号住居跡	(完掘)		○	○			加賀利E.III	7住と審査	〃
5	〃	C地区7号住居跡			○	○			加賀利E.I		〃
6	1987	C地区2号住居跡	1/3			○			加賀利E.I		埋蔵文化財の調査X
7	〃	C地区2区2号住居跡	西1/2	萬古台形	○	○	○		加賀利E.I	縄文土器出土	〃
8	〃	C地区2区2号住居跡	完掘	椭円形	720×600	○	○		加賀利E.III	縄文土器、便利系多い	〃
9	〃	C地区2区2号住居跡	北1/2			○			加賀利E.II		〃
10	〃	C地区2区2号住居跡	ほぼ水平型	円形	620	○			加賀利E.III		〃
11	〃	C地区2号住居跡	完掘	円形	700	○			加賀利E.III		〃
12	〃	C地区2区2号住居跡	完掘	円形		○			加賀利E.III		2軒の住居の重複
13	〃	C地区2区2号住居跡	完掘	方型	(720)	○	○	○	加賀利E.III	10住と重複	〃
14	〃	C地区2区1号住居跡	完掘	円形	450×400	○			加賀利E.III		〃
15	〃	C地区2区14号住居跡	完掘	円形	660×640	○	○	○	加賀利E.III	3度建築え	〃
16	〃	C地区16号住居跡	完掘	萬古台形	670×650	○	○	○	加賀利E.III		〃
17	1988	C地区3次18号住居跡	完掘	円形	650		○		加賀利E.III	17住と重複	〃
18	〃	C地区3次19号住居跡	西2/3	円形	800×500	○	○	○	加賀利E.III	2軒の住居の重複	〃
19	〃	C地区3次21号住居跡	完掘	円形	460×480	○			加賀利E.I	滑石・新石器	〃
20	〃	C地区3次22号住居跡	西4/5	不規則形	700				加賀利E.III		〃
21	1990	C地区4次23号住居跡	1/4	(方形)					安行I	床面から土偶	市史資料編
22	〃	C地区4次24号住居跡	西半周調査	椭円形							〃
23	〃	C地区4次25号住居跡	南側張1/4	(円形)	500				加賀利E.III		〃
24	〃	C地区4次26号住居跡	北張1/4	(椭円形)	600				加賀利E.III	吉	〃
25	〃	C地区4次28号住居跡	土器片が多量に出土したため住居とした						加賀利E.III		〃
26	〃	C地区4次29号住居跡							加賀利E.III	新寺吉	〃
27	〃	C地区4次30号住居跡	土器片が多量に出土したため住居とした						加賀利E.III	新寺吉・堀之内	〃
28	〃	C地区4次31号住居跡	土器片が多量に出土したため住居とした						加賀利E.III	堀之内	〃
29	〃	C地区4次34号住居跡	一部	椭円形	560	○			加賀利E.III		〃
30	〃	C地区4次35号住居跡	一部	(円形)	(8m×7m)	○			加賀利E.III		〃
31	2013	7地点J3号住居跡	70%	椭円形	690×550	○			無壁~加賀利E.III	H17住、集石土坑3・4と重複	市内遺跡群13
32	〃	7地點J3号住居跡	完掘	円形	480×408	○			無壁 II		〃
33	〃	7地點J3号住居跡	90%		570×500	○			加賀利E.III	H16住、集石土坑1、満2と重複	〃
34	2014	18地點J34号住居跡	完掘	椭円形	726×580	○4	○	○	加賀利E.III ~Ⅲ		市内遺跡群16
35	欠									竪穴遺構に変更	
36	2017	24地點J36号住居跡	取り込み確認 できず	(椭円形) 以上	(540×480) 以上	○	○	○	加賀利E.III		市内遺跡群23

の結果、縄文時代住居跡1軒、集石土坑1基、竪穴遺構1基、土坑、ピット、近代の集石土坑1基を検出した。なお、旧石器時代の調査は行っていない。

III 遺構と遺物

(1) J36号住居跡

【位置・検出状況】調査区中央部やや南東寄りに位置する。遺構検出の段階で既に床面であり、住居の掘り込みは確認できなかった。

【形状・規模】平面形態及び規模は不明であるが、ピットの検出状況から長軸 540 × 短軸 480 cm 以上を測る楕円形を呈する住居であったと推定される。

【構造】ピットは 28 基検出した。主柱穴はやや不均

等だが 4 本と考えられる。南側にピットが集中する傾向にあり、入口施設の可能性も考えられるが判然としない。周溝は確認できなかった。住居内ピットの規模等については第 6 図及び第 5 表参照。

【炉】住居の北寄りに位置し、炉体土器を伴う埋甕炉である。平面形態は南北に長い楕円形で、東側の一部が集石土坑によって壊される。炉体土器の周囲を長軸 60 × 短軸 45 cm の範囲で掘り込んでおり、深いところで約 15 cm である。

【埋甕】住居内南側に位置する。ピット 12、26 と切り合っており、平面形態は不明。底部を欠損する深鉢を正面に埋設する。確認面径は南北 40cm 以上、東西 30 cm 以上、深さ 20 cm である。



【集石土坑】住居の北寄り、炉の東側に位置する。炉を一部壊して掘り込んでいる。出土遺物より住居に伴うものではなく、廃絶後に形成されたものと考えられる。集石土坑の詳細については第7図及び第4表参照。

【遺物出土状況】覆土がほとんどないため、出土量は多くない。集石土坑内の遺物が比較的多い。住居内からは加曾利E II～III式が大部分を占める。対して集石土坑内からは加曾利E III式以降の土器が集中する。

【時期】炉体土器より加曾利E II式期。集石土坑は加曾利E III式期以降。

(2) 穴遺構

竪穴遺構は調査区北東部に位置する。当初はJ35号住居跡として調査を開始したが、焼土や被熱の痕跡等が見受けられず、また柱穴も確認できないことから、住居跡とは考えられない。平面形態は円形を呈し、南北390×東西370cm、深さ20cmである。遺構内にピット4基を検出したが、いずれも非常に浅く、土層観察からも竪穴遺構に伴うものとは断言できない。遺物は覆土中から僅かに出土した程度である。

(3) 土坑

土坑は、2基ともに遺構への影響がないためトレン

チ内の調査に留めた。詳細については第6表に掲載した。

①土坑1

調査区北側に位置する。深さが約60cmあり、壁が垂直に立ち上がる。土層の観察から近世以降に帰属し、イモビツ等の可能性が考えられる。遺物は覆土上層に集中し、遺構に伴うものではない。

②土坑2

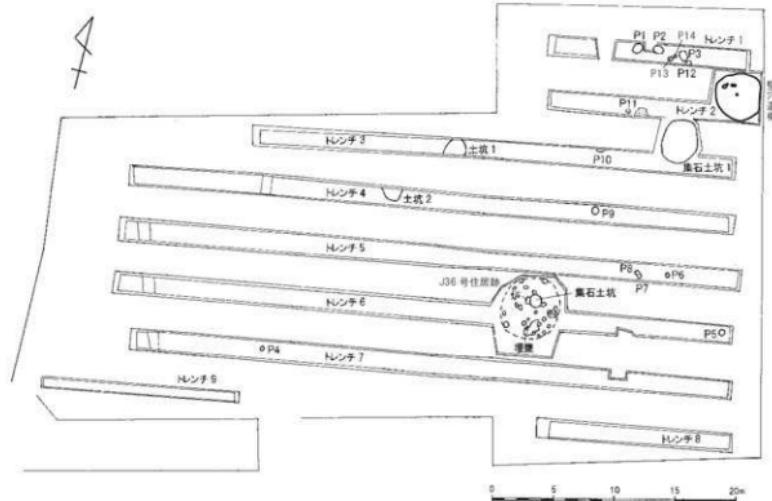
調査区北側、土坑1の南西に位置する。深さが67cmと深く、土坑1と同様に壁が垂直に立ち上がる。土層の観察から近世以降に帰属し、こちらもイモビツ等の可能性がある。遺物は覆土上層に集中し、遺構に伴うものではない。

(4) ピット

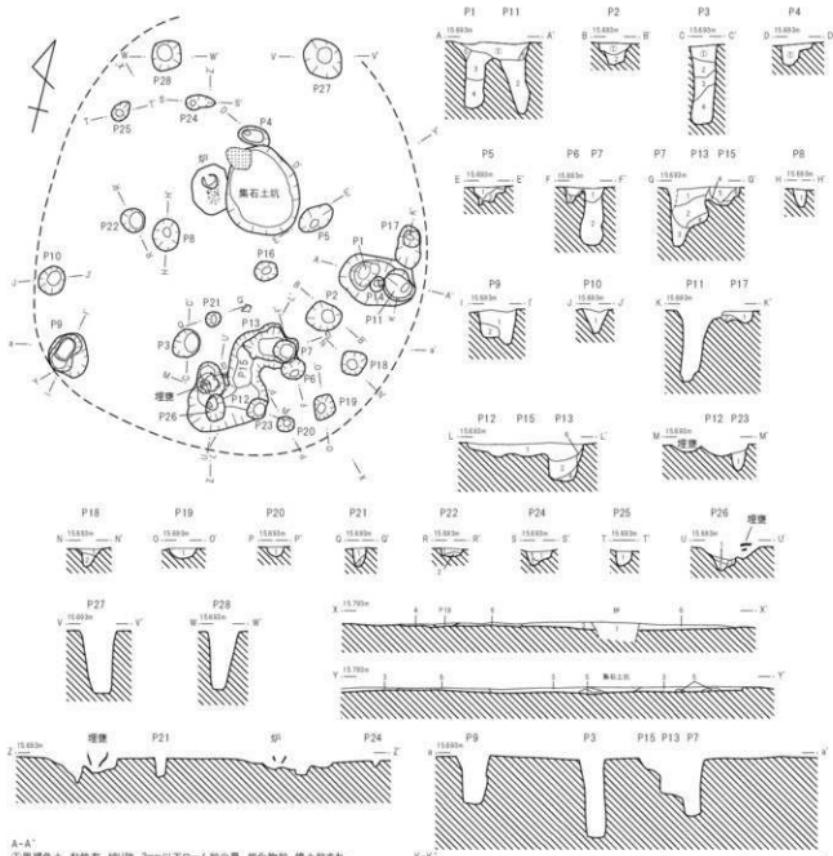
ピットの詳細については第8表に掲載した。ピット1、2、3、12からは比較的まとまって土器が出土したが、いずれも覆土上層からの出土であり、遺構の時期を確定するものではない。

(5) 集石土坑

集石土坑は調査区北東部に位置する。平面形態は梢円形を呈し、遺構の規模は長軸361cm、短軸297cm



第5図 ハケ遺跡第24地点遺構配置図(1/400)



A-A'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒、焼土粒まれ
- 黒褐色土 1cm間隔だが、練りやや弱い
- 黒褐色土 3mm以下ローム粒・炭化物・焼土粒・ロームブロックまれ
- 黒褐色土 3層よりロームブロック多く含む
- 黒褐色土 粘性有、練り極強、ロームブロック多量

B-B'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ブロック少量
- 黒褐色土 1cm間隔だが、練りやや弱い
- 黒褐色土 2層ロームブロック少量
- 黒褐色土 ロームブロック主体

C-C'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒中量、ブロックまれ
- 黒褐色土 ローム主体

D-D'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒・焼土粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒中量、ブロックまれ
- 黒褐色土 ローム主体

E-E'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒中量、ロームブロックまれ

F-F'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、ロームブロック少量

G-G'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロック少量
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、ロームブロック少量

H-H'

- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロック少量
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒まれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
- 黒褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、ロームブロックまれ
- 黒褐色土 粘性有、練り強、ロームブロック少量

I-I'

- P9の2と同じ

- K-K'
1. 黒褐色土 粘性有、練り有、3mm以下ローム粒少量
2. ロームブロック少量

- M-M'
1. 黒褐色土 粘性有、練りやや強、3mm以下ローム粒少量、焼土まれ
N-N'-O-O'
1. 黑褐色土 粘性有、練り有、3mm以下ローム粒少量
2. ロームブロック微量

- P-P'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量
Q-Q'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量
2. ローム主体

- S-S'-T-T'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・ロームブロック少量
2. 黑褐色土 粘性有、練り有、3mm以下ローム粒少量

- R-R'
1. 黑褐色土 粘性有、練り有、3mm以下ローム粒少量、炭化物・焼土粒まれ
2. ローム主体

- T-T'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物・焼土粒まれ
2. 黑褐色土 2mm以下ローム粒多量、ブロック微量

- U-U'
1. 黑褐色土 2mm以下ローム粒や多量
2. 黑褐色土 2mm以下ローム粒多量、ブロック微量

- V-V'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒少量
2. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒まれ

- W-W'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
2. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒微量

- X-X'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒少量
2. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒少量、炭化物粒まれ

- Y-Y'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
2. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒微量

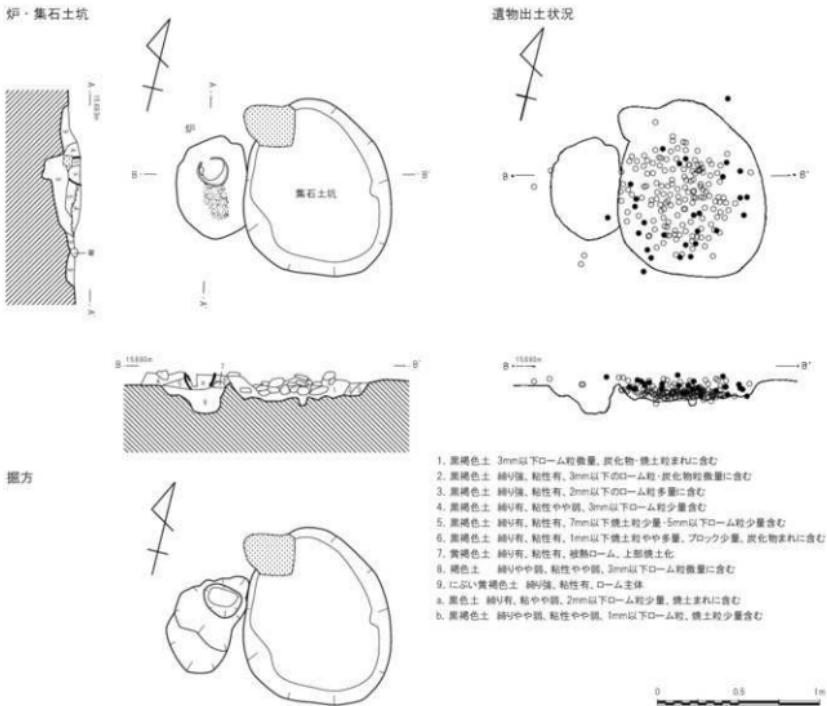
- Z-Z'
1. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒少量
2. 黑褐色土 粘性有、練り強、3mm以下ローム粒・焼土粒・炭化物粒微量

第6図 ハケ遺跡第24地点J36号住居跡(1/60)

を測る。底面は外側が低く、中央部がやや高くなる。土坑のほぼ中央に確認面径 60 × 49 cm、深さ 64 cm のピット状の落ち込みを有する。覆土中に多量の礫と共に縄文土器、石器、須恵器、陶磁器の破片が出土した。礫と遺物は比較的上層に集中している。陶磁器を含むことから縄文時代の集石土坑ではなく、近世以降に帰属する構造と考えられる。多量の礫や土器を廃棄した痕跡である可能性が高い。

(6) 出土遺物

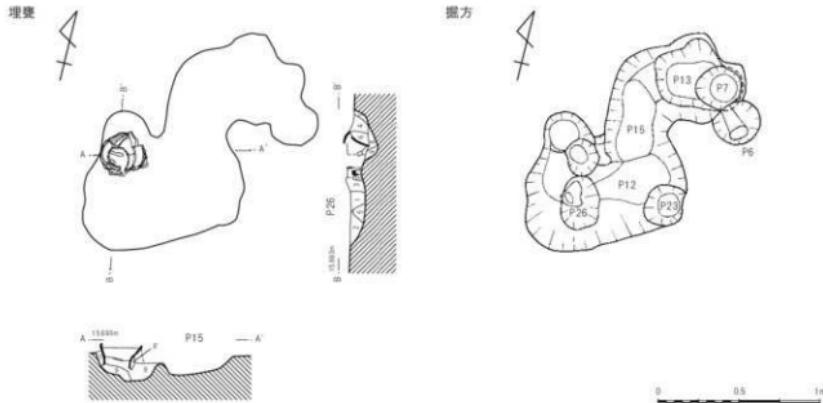
出土遺物の詳細については第9・10表に掲載した。特筆すべきは竪穴構造、集石土坑、土坑、ピットから出土した縄文土器の時期が長期に渡ることである。特に近世以降のものと考えられる集石土坑から出土した土器は中期を中心としながらも、前期から後期までバラエティに富んでいる。縄文時代における周辺の構造の分布状況も踏まえて考える必要があろう。



第7図 ハケ遺跡第24地点J36号住居跡炉・集石土坑・掘方・遺物出土状況(1/30)

第4表 ハケ遺跡第24地点集石土坑・出土礫観察表 (単位cm・個数・g(%))

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	総点数	総重量	平均重量	破損数	完形数	焼成数	未焼成数	タール・底付着数	タール・煙付着数	備考
合計	橢円形	111×92	97×71	18.1	155	29,144.17	188.03	89(57.42%)	66(42.58%)	43(27.74%)	112(72.26%)	62(40%)	93(60%)	



1. 黒色土 細かい、粘性有、1~3mm大ローム粒少、炭化物まれ
 2. 黒褐色土 細かい、粘性有、しみ状にローム、2mm以下物多、炭化物微量に含む
 3. 黑褐色土 細かい、粘性有、3mm以下ローム粒微量、炭化物粒微量に含む
 4. 黑褐色土 3層に類似、同一か
 5. 黑褐色土 細かい、粘性有、ロームブロック少、3mm以下ローム粒微量に含む
 6. 黒色土 細かい、粘性有、ロームブロック、2mm以下ローム粒微量に含む
 7. 黑褐色土 細かい、粘性有、2mm以下ローム粒多量に含む
 8. 黑褐色土 細かい、粘性有、2mm以下ローム粒少、5mm以下微量、炭化物微量に含む
 9. 黑褐色土 細かい、粘性有、8層より細い剥離
 9. 黑褐色土 細かい、粘性有、5mm以下ローム粒多量に含む

第8図 ハケ遺跡第24地点J36号住居跡埋壙・据方(1/30)

第5表 ハケ遺跡第24地点J36号住居内ピット一覧表
(単位 cm)

No.	平面面形	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	60×(40)	17×12	80.6	
2	方形	39×34	16×14	26.7	
3	円形	33×32	23×17	97.2	
4	楕円形	40×23	7×5	29.8	
5	楕円形	46×29	13×8	19.3	
6	不明	30×(23)	12×6	19.8	
7	円形	(28)×27	17×16	69.5	
8	円形	38×33	9×6	27.8	
9	円形	51×51	26×16	58.6	
10	円形	35×33	17×13	41.7	
11	不明	57×(38)	13×7	89.6	
12	不明	102×64	78×(28)	14.5	
13	不明	55×53	(28)×22	45.6	
14	円形	18×16	8×7	33.3	
15	不明	(64)×41	(49)×23	22.5	
16	円形	28×24	12×8	30.8	
17	不明	50×31	10×6	17.6	
18	方形	29×29	13×11	24.4	
19	方形	27×27	14×9	25.9	
20	円形	21×18	8×8	15.9	
21	円形	18×18	10×6	22.8	
22	円形	30×29	20×15	10.2	
23	円形	25×24	15×14	39.3	
24	ひょうたん形	35×16	7×5	19.0	
25	楕円形	26×18	9×8	18.2	
26	楕円形	32×23	8×5	21.0	
27	楕円形	52×46	18×17	78.6	
28	方形	36×35	21×17	71.1	

第6表 ハケ遺跡第24地点土坑一覧表(単位cm)

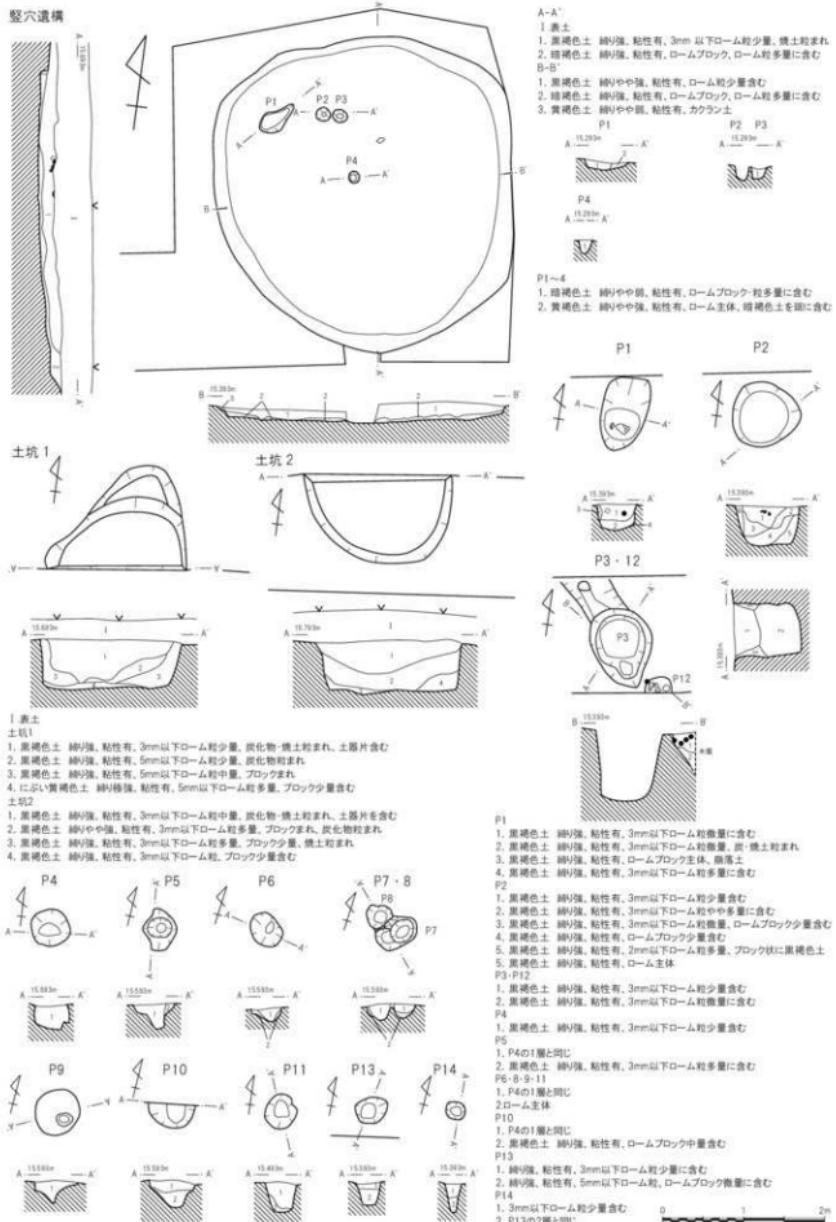
No.	平面面形	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	174×(128)	151×(67)	59.9	
2	不明	182×(109)	163×(90)	67.0	

第7表 ハケ遺跡第24地点堅穴構造内ピット一覧表(単位cm)

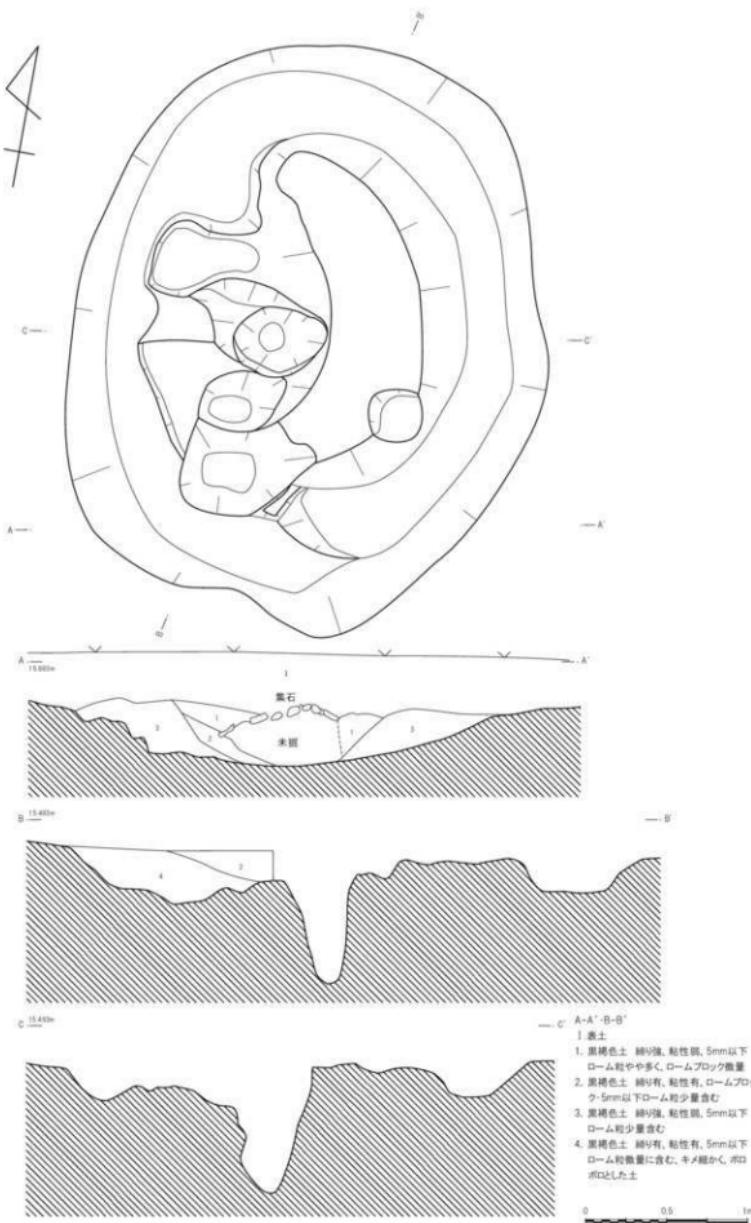
No.	平面面形	確認面径	底径	深さ	備考
1	ひょうたん形	50×27	40×16	12.1	
2	円形	18×17	6×5	20.6	
3	円形	18×16	9×5	15.9	
4	円形	15×13	8×8	15.6	

第8表 ハケ遺跡第24地点ピット一覧表(単位cm)

No.	平面面形	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	89×54	43×38	37.8	
2	円形	84×80	63×60	59.5	
3	楕円形	101×72	47×46	87.2	
4	円形	47×45	26×15	36.1	
5	楕円形	51×41	12×11	31.1	
6	楕円形	44×34	15×9	44.2	
7	不明	52×36	19×12	24.0	
8	不明	30×(28)	15×14	16.9	
9	円形	57×54	12×9	40.9	
10	不明	57×(28)	22×(22)	38.7	
11	円形	43×40	20×17	38.2	
12	不明	32×(19)	9×7	50.6	
13	楕円形	40×32	18×18	29.2	
14	円形	23×21	14×10	41.8	

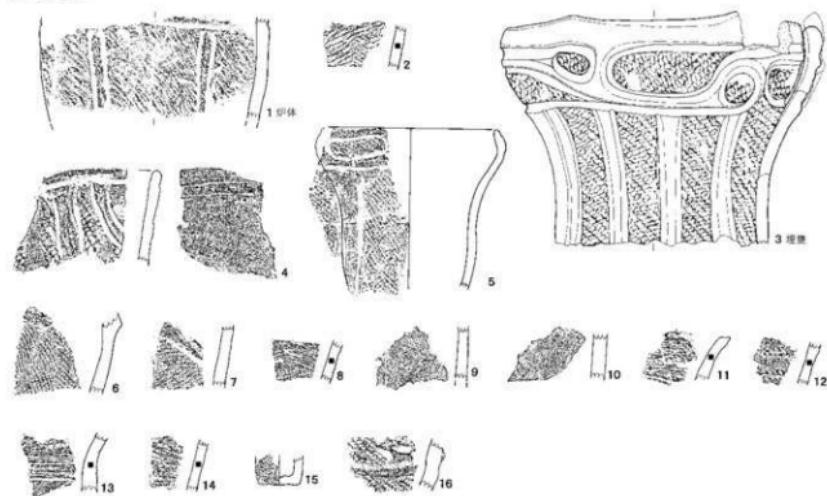


第9図 ハケ遺跡第24地点整穴遺構・遺物出土状況・土坑・ビット(1/60)

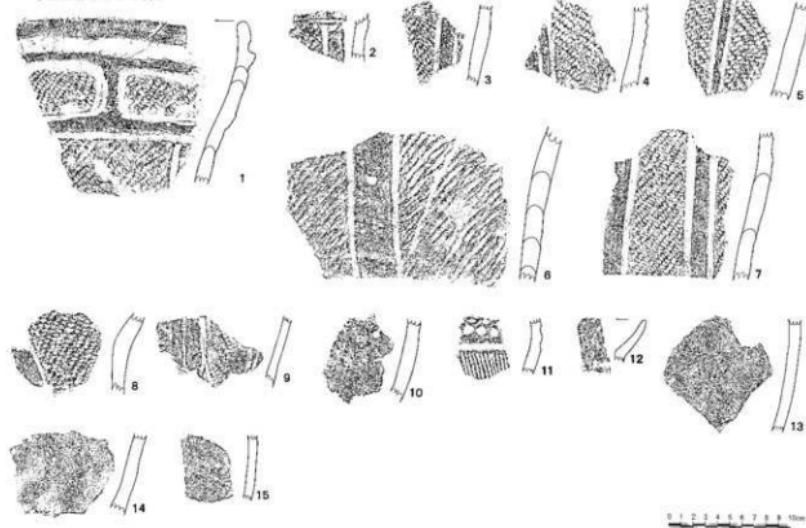


第10図 ハケ遺跡第24地点集石土坑 1(1/30)

J36号住居跡



J36号住居跡(集石土坑)



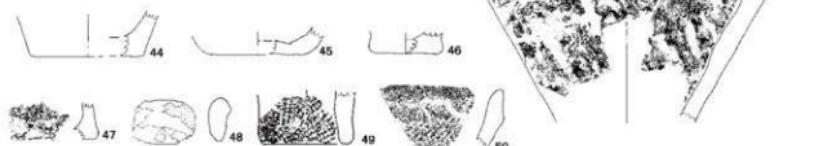
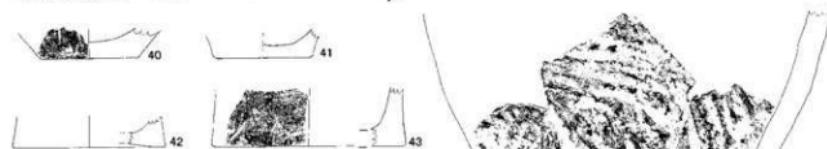
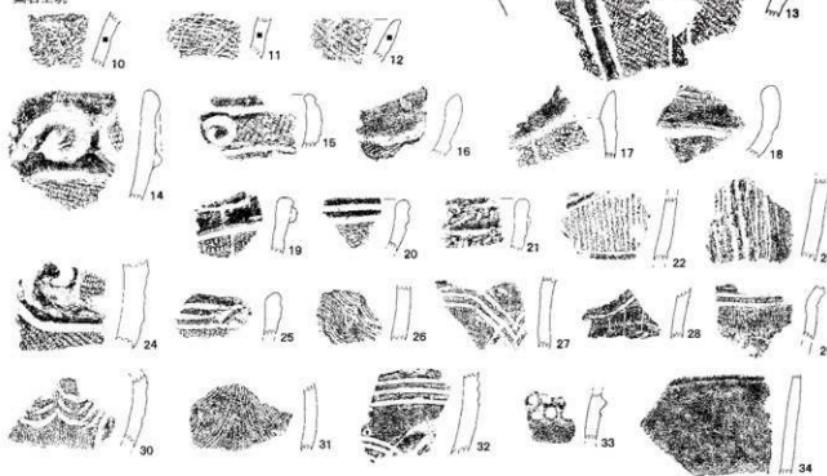
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第11図 ハケ遺跡第24地点出土遺物①(1/4)

整穴遺構



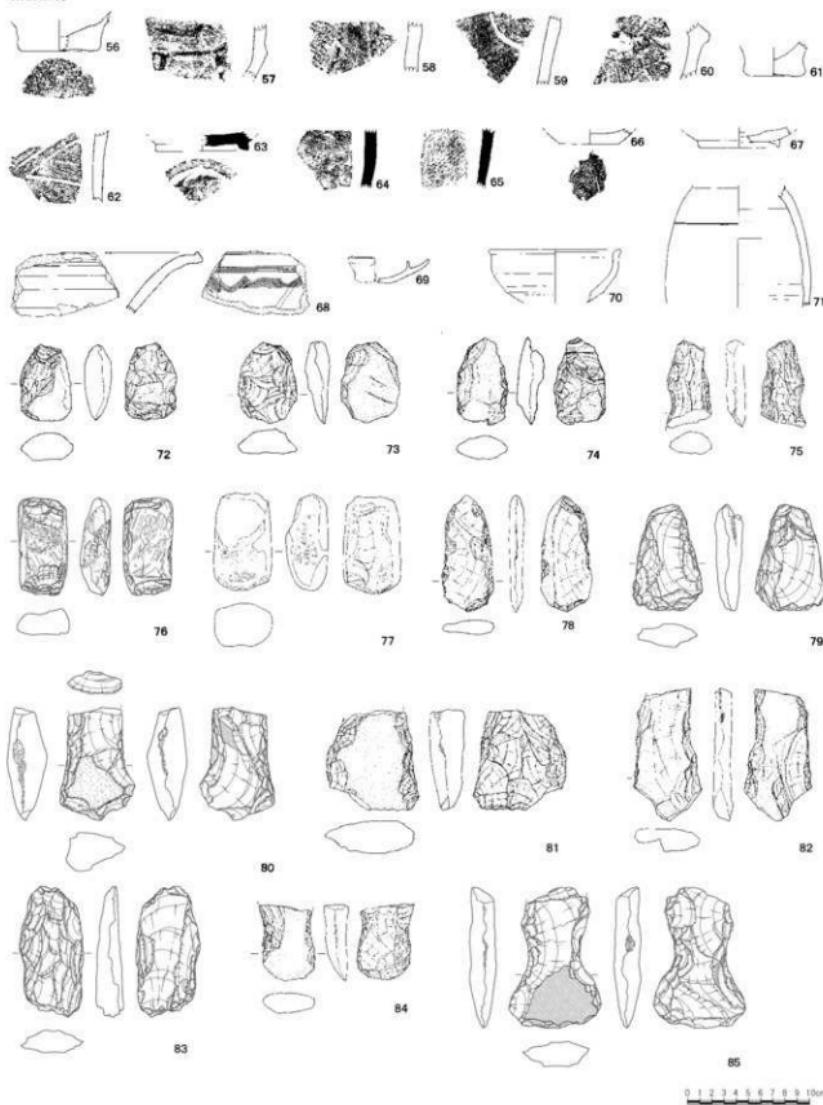
集石土坑



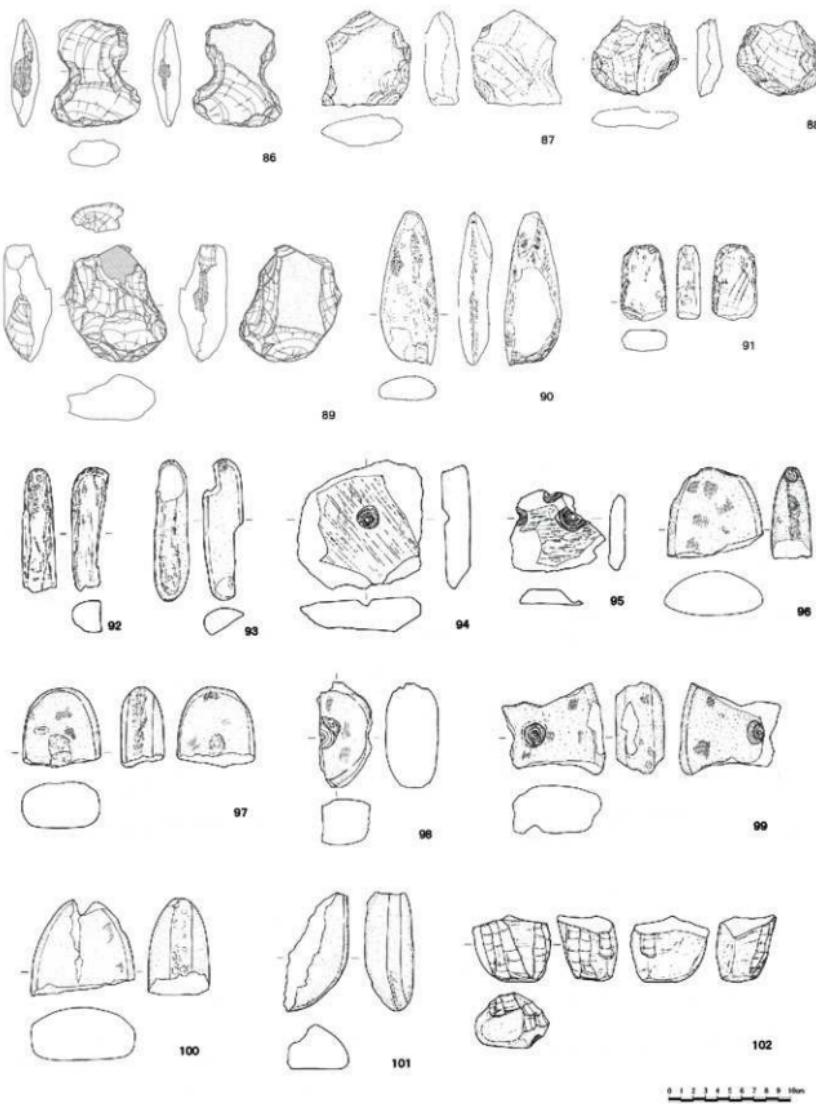
第12図 ハケ遺跡第24地点出土遺物②(1/4)

5 2 3 4 5 6 7 8 9 10m

集石土坑



第13図 ハケ遺跡第24地点出土遺物③(1/4)



第14図 ハケ遺跡第24地点出土遺物④(1/4)

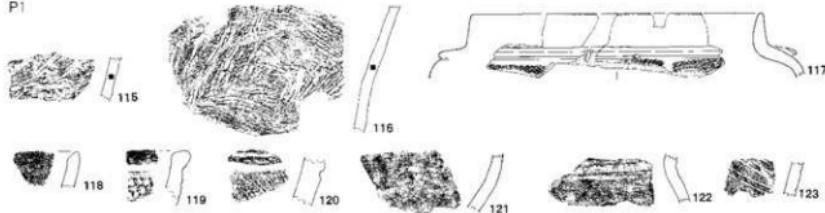
土坑1



土坑2



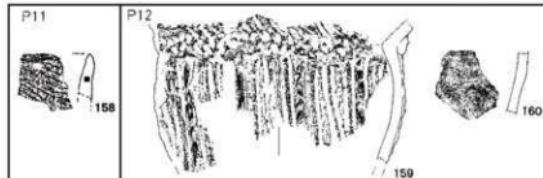
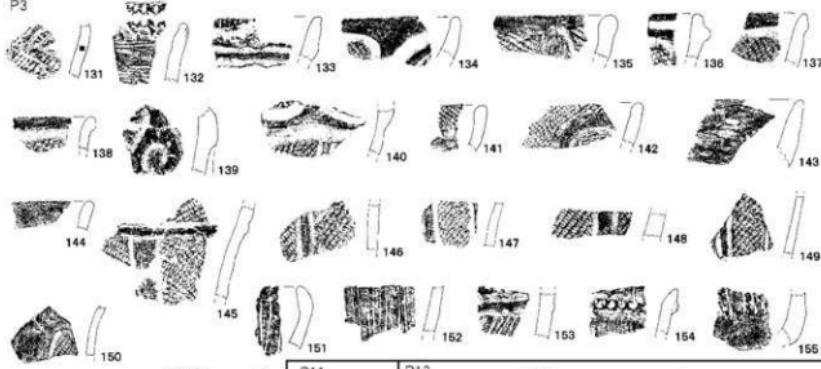
P1



P2



P3



遺物外



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10cm

第15図 ハケ遺跡第24地点出土遺物⑤(1/4)

第9表 ハケ跡歴第24地点出土遺物観察表（単位cm・g）

因番号	出土遺構	器形／部位	地文／施文／胎土／備考	時期／型式
第11回-1	J36号住居跡	深鉢／胴部	炉体土器、径18.5cm、現存高9.2cm／地文縦位RL／胴部とは横沈線で面し、平沈線による彫垂文／内面のハジケ著しい、3mm大砂粒	加曾利E II 新
第11回-2		深鉢／胴部	地文縦位Lr／縦維多／細粒砂少	黒浜
第11回-3		深鉢／口縁部／胴部	埋甕、口径17.7cm、現存高18.7cm、波頭4箇所／口縁部区画内横位LR、胴部縦位RL、2本沈線間隔消済垂文区画位／縦白色粒	加曾利E II 新
第11回-4		深鉢／口縁部	口縁部文様が失う、地文に難な模様のLR施し沈線で区画・内面にナデ痕残す／白色微粒、粗砂粒	加曾利E III
第11回-5		深鉢／口縁部／胴部	推定口径14cm、地文縦位がLRを施す。口縁部に沈線区画、沈線懸垂文／粗粒砂	加曾利E II
第11回-6		深鉢／胴部	縦位LR／白色粒／外面黒褐色	加曾利E
第11回-7		深鉢／胴部	縦位RL／沈線による区画／白色粒少	加曾利E
第11回-8		深鉢／胴部	鈎曲による平行条線／縦細粒砂多／縦維含む	諸機
第11回-9		深鉢／胴部	細い条線／粗砂粒	中期
第11回-10		深鉢／胴部	無文帯部、磨き顯著／黒色粒多	加曾利
第11回-11		深鉢／口縁部	地文Lr斜位／縦維多	黒浜
第11回-12		深鉢／胴部	附加条文種／縦維多	黒浜
第11回-13		深鉢／胴部	半竹による平行沈線上に小円形竹管文／白色砂粒少、縦維含む	諸機
第11回-14		深鉢／胴部	附加条文地文とするが施文が浅く不詳／縦維多	黒浜
第11回-15		ミニチュア／底部	底径3.2cm／手捏ね	加曾利E
第11回-16		深鉢／頸部	横位RL／白色砂粒多	加曾利E II
第11回-1	J36号住居跡 (集石土坑)	深鉢／口縁／胴部	地文Lr／口縁部横円形区画、沈線懸垂文／橙色粒、白色細粒多／明茶褐色	加曾利E II 新
第11回-2		深鉢／胴部	地文に横位LR、沈線懸垂文／橙色粒、白色細粒多	加曾利E II
第11回-3		深鉢／胴部	地文は縦位LR、沈線懸垂文／粗粒砂多／外面ハジケ著しい	加曾利E II
第11回-4		深鉢／胴部	縦位LR地文、沈線懸垂文／白色細粒多	加曾利E II
第11回-5		深鉢／胴部	地文縦位LR、沈線懸垂文／白色細粒砂多	加曾利E II
第11回-6		深鉢／胴部	縦位LR／幅広磨消垂文／白色細粒砂多	加曾利E II
第11回-7		深鉢／胴部	胴部過半が水平に欠け／地文に横位LRL、幅広磨消垂文と沈線で画す／粗砂粒多	加曾利E II
第11回-8		深鉢／胴部	横位LRL／粗砂粒多	加曾利E II
第11回-9		深鉢／胴部	横位のLR／沈線懸垂文／橙色粒多／内面に炭化物付着	加曾利E
第11回-10		深鉢／胴部下	無文帯部、中粒砂／内面に炭化物付着	加曾利E
第11回-11		深鉢／口縁部	円形列点文下に沈線／縦位の燃系／白色粒多	加曾利E II
第11回-12		小型土器／口縁部	無文帯部	加曾利E
第11回-13		深鉢／胴部	無文帯部／白色微粒、粗砂粒	加曾利E
第11回-14		深鉢／胴部下	無文帯部／白色微粒	加曾利E
第11回-15		深鉢／胴部	無文帯部／内外磨き丁寧	加曾利E
第12回-1	整穴遺構	深鉢／口縁部	縦位Lrと別の菱形彫文文、白色微粒	黒浜
第12回-2		深鉢／胴部上位	地文附加条Lr+r／縦維多／細粒砂少	黒浜
第12回-3		深鉢／口縁部	極細粘土紐と細半截竹管でなごり結節状にする／細粒砂、白色粒、金雲母	十三昔提
第12回-4		深鉢／胴部	上位に半截竹管、下位に縦位の沈線／白色粒	加曾利E
第12回-5		深鉢／胴部	縦位燃系Lr／中粒砂、白色粒	加曾利E
第12回-6		深鉢／胴部	縦位LR／細粒砂	加曾利E
第12回-7		深鉢／胴部	縦位RL／沈線による懸垂文／大粒砂少／極粗粒砂多	加曾利E
第12回-8		深鉢／口縁部	無文帯部／極粗粒砂多	加曾利E
第12回-9		深鉢／胴部	無文帯部／極粗粒砂多	中期
第12回-10	集石土坑	深鉢／胴部	横位燃系LR／縦維多	黒浜
第12回-11		深鉢／胴部	地文附加条LR+r／縦維多／細粒砂少	黒浜
第12回-12		深鉢／口縁部	縦位RL／粘土紐砂多／縦維多	黒浜
第12回-13		深鉢／口縁／胴部	横位LR／2本太い沈線懸垂文／極細粒砂	加曾利E II
第12回-14		深鉢／口縁部	口縁部、胴部共に斜位LR／沈線で渾巻文／中粒砂少	加曾利E II 新
第12回-15		深鉢／口縁部	横位LR／中粒砂多	加曾利E II
第12回-16		深鉢／口縁部	波状口縁部、縦位LR／中粒砂多	加曾利E III
第12回-17		深鉢／口縁部	波状口縁部、斜位LR／中粒砂多	加曾利E III
第12回-18		深鉢／口縁部	区画は横位の沈線／細粒砂多	加曾利E III
第12回-19		深鉢／口縁部	地文は燃系／白色粒砂中	加曾利E I
第12回-20		深鉢／口縁部	横位RL／粗粒砂少	加曾利E I
第12回-21		深鉢／口縁部	細い隆帶剥落／列点文1ヶ所	加曾利E
第12回-22		深鉢／胴部	縦位燃系Lr／粗粒砂多	加曾利E
第12回-23		深鉢／胴部	平行沈線／粗粒砂多	連弧文系？
第12回-24		深鉢／胴部	縦位RL／白色粒多、厚さ14mmと厚い	加曾利E II
第12回-25		深鉢／口縁部	竹管による平行縫／中粒砂多	加曾利E
第12回-26		深鉢／胴部	波状櫛齒狀工具文／真文／中粒砂中	加曾利E
第12回-27		深鉢／胴部	縦位櫛齒狀工具文／弧状の沈線／粗粒砂多	加曾利E II
第12回-28		深鉢／胴部	縦位櫛齒狀工具文／弧状の沈線／粗粒砂多、No.27と同一個体か	加曾利E II
第12回-29		深鉢／胴部	縦位櫛齒狀工具文／平行沈線／粗粒砂多	加曾利E II
第12回-30		深鉢／胴部	縦位燃系Lr／弧状の沈線／中粒砂中	加曾利E II
第12回-31		深鉢／胴部	櫛齒狀工具文を描く／中粒砂中	加曾利E II
第12回-32		深鉢／胴部	3本の赤線で弧を描く／細粒砂中	加曾利E II
第12回-33		深鉢／胴部	地文無文、円形刺突具／施粒砂中	加曾利
第12回-34		深鉢／胴部	無文／骨母、細粒砂中	中期
第12回-35		深鉢／胴部	無文／つまみあけ隆帶／細粒砂中	加曾利E II

因版番号	出土遺構	器形／部位	地文／施文／胎土/備考	時期／型式
第128-36		深鉢／口縁部	無文／白色粒多	中期
第128-37		深鉢／口縁部	無文／剥離著しい／白色細粒多	中期
第128-38		深鉢／底部	無文／底径10.3／細粒多	中期
第128-39		深鉢／底部	無文／底径8.5／中粒砂少	中期
第128-40		深鉢／底部	沈線による重文／底径8.5／中粒砂中	中期
第128-41		深鉢／底部	無文／赤色粒多	中期
第128-42		深鉢／底部	無文	中期
第128-43		深鉢／底部	無文／白色粒多	中期
第128-44		深鉢／底部	無文	中期
第128-45		深鉢／底部	無文	中期
第128-46		深鉢／底部	無文	中期
第128-47		深鉢／底部	無文／垂直に立ち上がる	加曾利III
第128-48		深鉢／把手	無文／中央部をなでる	中期
第128-49		器台	綴位RL／内面無文／着地平面平坦／粗粒砂少	加曾利
第128-50		深鉢／口縁部	口唇部無文／断面三角／横位LR・RL羽状	加曾利III
第128-51		深鉢／口縁部	口唇部無文／横位LR・RL羽状／粗粒砂少	加曾利III
第128-52		深鉢／面部	沈線による重文／中粒砂少	加曾利III
第128-53		深鉢／面部	沈線によるU字文／区画内細いRL／粗粒砂	加曾利III
第128-54		深鉢／面部	沈線によるU字文／区画内細い充填／粗粒砂	加曾利III
第128-55		深鉢／面部・底部	無文、△形状工具で斜位にたてる。厚さ1.9mm／褐色ないし明褐色／底径8.5	加曾利III
第138-56		深鉢／底部	垂書きに立ち上がる／無文／粗粒砂少	加曾利III
第138-57		深鉢／口縁部	微隆起輪で口唇部と画する／白色細粒多	加曾利IV
第138-58		深鉢／面部	微隆起輪記載は縦位して充填／中粒砂少	加曾利IV
第138-59		深鉢／面部	沈線によるU字文／区画内割離／微白色粒	加曾利III
第138-60		深鉢／面部	隆帯上に横位LR・地文繩状工具	加曾利
第138-61		深鉢／底部	底径4.9／沈線／中粒砂多	堀之内
第138-62		深鉢／面部	三角形の区画文を描く横位LR／中粒砂中	堀之内
第138-63		須恵器／頭頸高台付底部	縦縫成形・糸切底・底部周辺のなぞり痕／高台径8.0cm／白色針状物質少／色調灰色	
第138-64		須恵器／縫	縦縫成形／白色針状物質少／色調明灰色	
第138-65		須恵器／縫	縦縫成形・外間に平行叩き目／白色針状物質少／色調灰色	
第138-66		ガフツケ／底部	縦縫成形・系切痕／前・後斜面でひい粉色	16c
第138-67		陶器／皿底部	縦縫成形／高台貼付／瀬戸・美濃	
第138-68		陶器／水鉢	縦縫成形／縫隙流し裂け・内面刷毛目／瀬戸・美濃	
第138-69		陶器／爐火受け付皿	縦縫成形／灰地、外面釉拭き取り／瀬戸・美濃	18c
第138-70		陶器／中碗	縦縫成形・鉄輪／瀬戸・美濃「天目茶碗」	17c
第138-71		磁器／中瓶	縦縫成形・染付・透明釉・肥前	
第158-103		深鉢／口縁部	貼付微隆起上にLR押圧／中粒砂中	堀之内
第158-104		深鉢／口縁部	無文帶／中粒砂	加曾利
第158-105		深鉢／面部	横位LR／中粒砂多	加曾利
第158-106		深鉢／面部	無文帶／隆帯貼付裾部／中粒砂中	加曾利
第158-107		深鉢／頭部	横位LR・羽状／平行沈線区画／中粒砂多	加曾利
第158-108		深鉢／面部	沈線／外面部研磨／細粒砂	堀之内
第158-109		深鉢／口縁部	横位LR・中粒砂中	加曾利
第158-110		深鉢／口縁部	細かい半截竹管／粗粒砂少	諸磧
第158-111		深鉢／面部	斜位LR・沈線幅広懸垂文・粗粒砂少	加曾利II
第158-112		深鉢／面部	綴位LR・沈線／中粒砂	加曾利II
第158-113		深鉢／底部上	綴位細LR・沈線区画／赤色粒	加曾利II
第158-114		深鉢／面部	綴位LR・幅広沈線・粗粒砂	加曾利II
第158-115		深鉢／面部	地文に附加条LR+横位施文／白色粒砂	黒浜
第158-116		深鉢／面部	附加條LR／白色粒砂少・織維多	黒浜
第158-117		有孔鉗付／口縁部	地文に施文／粗粒砂・織維白色粒多	加曾利
第158-118		深鉢／口縁部	無文／粗粒砂少	中期
第158-119		深鉢／口縁部	横位LR・沈線	加曾利
第158-120		深鉢／面部	綴位LR・沈線／白色粒砂	加曾利II
第158-121		深鉢／面部	無文／内外磨きなで	中期
第158-122		深鉢／面部	横位地文／白色・黒雲母粒	中期
第158-123		深鉢／面部	平行半截竹管／金雲母末	加曾利
第158-124		深鉢／口縁部	押引手法による連続半截竹管	中期初頭
第158-125		深鉢／口縁部	口縁部は垂直／無文帶・有孔鉗付か？／粗粒砂中	中期
第158-126		深鉢／口縁部	口縁部直下に半截竹管押圧／地文に半截竹管／白色微粒	勝阪
第158-127		深鉢／口縁部	無文帶・中粒砂超多	加曾利
第158-128		深鉢／面部	弧状刻痕／中粒砂	加曾利
第158-129		深鉢／面部	半截竹管工具による平行沈線／中粒砂多	加曾利
第158-130		深鉢／面部	地文に条線・隆帯を波状に懸垂／中粒砂中	加曾利E I
第158-131		深鉢／面部	R1+LR／微白色粒砂	黒浜
第158-132		深鉢／口縁部	口唇部波状折り曲げ／中粒砂多	諸磧C
第158-133		深鉢／口縁部	口唇部刻み／微白色粒多	加曾利
第158-134		深鉢／口縁部	区画内R／微白色粒多	加曾利E II
第158-135		深鉢／口縁部	綴位LR／中粒砂中	加曾利E III
第158-136		深鉢／口縁部	LR・褐色粒砂多	加曾利E II
第158-137		深鉢／口縁部	摩滅著し・斜位LR／白色微粒	加曾利E II

図版番号	出土遺構	器形／部位	地文／施文／胎土／備考	時期／型式
第15回-138	P3	深鉢／口縁部	横位LR／中粒砂中	加曾利E II
第15回-139		深鉢／胴部	渦巻文／中粒砂多	加曾利E II
第15回-140		深鉢／胴部	口縁部・胴部を沈線で区画・横位LR／白色微粒	加曾利E II
第15回-141		深鉢／口縁部	縱位LR／粗粒砂少	加曾利E I
第15回-142		深鉢／口縁部	地文斜位LR・沈線磨消／橙色粒	加曾利E III
第15回-143		深鉢／口縁部	無文帯／白色粒	加曾利
第15回-144		深鉢／口縁部	無文帯／小粒砂多	加曾利
第15回-145		深鉢／胴部	横位LR・沈線懸垂文／中粒砂中	加曾利II
第15回-146		深鉢／胴部	横位LR・沈線懸垂文／中粒砂中	加曾利II
第15回-147		深鉢／胴部	縱位LR・沈線懸垂文	加曾利II
第15回-148		深鉢／胴部	横位LR・沈線懸垂／橙色粒砂	加曾利II
第15回-149		深鉢／胴部	縱位LR・沈線懸垂文	加曾利II
第15回-150		深鉢／胴部	横位LR・沈線区画・磨消／小粒砂	加曾利III
第15回-151		深鉢／口縁部	櫛齒状工具／中粒砂中	加曾利
第15回-152		深鉢／口縁部	縱位櫛齒状工具／微白色粒砂中	加曾利
第15回-153		深鉢／胴部	斜位櫛齒状工具・沈線区画／砂粒多	加曾利
第15回-154		深鉢／口縁部	地文櫛齒状工具・貼付隆帯上刺突／砂粒中	曾利系
第15回-155		深鉢／底部直上	櫛齒状工具／粗粒砂多	曾利系
第15回-156		深鉢／胴部	櫛齒状工具・刺突	曾利系
第15回-157		深鉢／胴部	横位LR・沈線区画・長石・小粒砂	加曾利III
第15回-158	P11	深鉢／口縁部	縱位LR	黑浜
第15回-159	P12	深鉢／頸胴部	縱位6本櫛齒状工具・頸部貼付隆帯上に交互刺突・せり上げ懸垂・頸部上斜位 歯齒／粗粒砂多	曾利系
第15回-160		深鉢／胴部	無文帯・内外面磨き／白色粒多	後期
第15回-161		深鉢／口縁部	縱位隆・微白色粒	黒浜
第15回-162	遺構外	深鉢／口縁部	沈線渦巻文／細白色粒	加曾利E II
第15回-163		深鉢／胴部	横沈線で区画・縦位櫛齒・S字沈線懸垂文／砂粒多	曾利系
第15回-164		深鉢／口縁部	沈線下縫位櫛LR／粗粒砂	堀之内

第10表 ハケ遺跡第24地点出土石器観察表（単位cm・g）

図版番号	種別/器形	長さ	幅	厚さ	重量	石材/推定生産地	残存/備考
第13回-72	小型打製石斧	6.28	4.05	2.16	73.40	ホルンフェルス	複型/完形
第13回-73	小型打製石斧	6.51	4.73	1.98	70.77	ホルンフェルス	丸みのある複型/完形
第13回-74	小型打製石斧	6.64	3.99	1.88	61.93	細粒砂岩	自然面を残す/刃部欠損
第13回-75	打製石斧	6.82	3.45	1.62	48.98	粗粒砂岩	刃部欠損
第13回-76	小型打製石斧	7.93	3.99	2.45	139.85	練泥片岩	短冊型・側面に自然面
第13回-77	打製石斧	7.91	4.93	3.54	201.60	安山岩	敲打による成形
第13回-78	打製石斧	9.45	4.26	1.16	62.46	頁岩	横長石材剖片を使用、自然面を残し、左側面陸上は刃漬し様の加工・横型石器か完成
第13回-79	打製石斧	8.73	5.56	2.09	125.46	細粒砂岩	複型/完形
第13回-80	打製石斧	9.32	6.07	3.31	192.59	練泥岩	ややくびれる複型/基部・刃部欠損
第13回-81	打製石斧	8.01	7.19	2.93	217.51	中粒砂岩	複型/基部・刃部欠損
第13回-82	打製石斧	10.45	5.64	1.47	114.20	ホルンフェルス	刃部欠損
第13回-83	打製石斧	10.06	5.25	2.21	152.35	練泥片岩	基部欠損
第13回-84	打製石斧	6.06	4.32	1.89	68.15	中粒砂岩	くびれた弱い分銅型/刃部欠損
第13回-85	打製石斧	11.54	7.48	2.09	201.29	粗粒砂岩	分銅型・刃部には摩滅が見られる/完形
第14回-86	打製石斧	8.78	7.40	2.27	145.02	中粒砂岩	分銅型・刃部には摩滅が見られる/完形
第14回-87	打製石斧	7.57	7.00	2.66	192.20	ホルンフェルス	側面に自然面を残す/下半欠損
第14回-88	打製石斧	7.14	5.76	1.62	94.32	中粒砂岩	下半欠損
第14回-89	打製石斧	9.42	7.08	4.09	349.36	ホルンフェルス	完形か
第14回-90	磨製石斧	12.43	4.70	2.33	217.46	輝斑凝灰岩	刃部の左側に使用による剥離が集中する、敲打痕が表裏・側面の上部に見られる
第14回-91	磨製石斧？	6.19	3.84	1.80	79.40	凝灰岩？	表裏面磨製、側面敲打痕/刃部欠損
第14回-92	敲石	10.06	2.69	2.65	117.76	緑色岩	端面・側面に敲打痕/一部残存
第14回-93	敲石	11.50	3.09	2.62	125.86	細粒砂岩	上下端面に敲打痕/一部欠損
第14回-94	凹石	10.23	9.83	2.18	352.28	練泥片岩	完形か
第14回-95	凹石	7.60	6.69	1.27	83.72	結晶片岩	一部残存
第14回-96	磨石	7.28	7.87	3.28	262.52	花崗岩	側面以外平滑/2分の1残存
第14回-97	磨石・凹石	6.60	6.34	3.76	253.49	花崗岩	表面中央に凹み、側面以外平滑/2分の1残存
第14回-98	磨石・凹石	4.07	8.65	4.25	234.14	花崗岩	表面に凹み、側面以外平滑/被削し一部黒化/3分の1残存
第14回-99	磨石・凹石	7.80	7.22	3.67	310.18	花崗岩	表面に凹み、側面以外やや平滑/6分の1残存
第14回-100	磨石	7.17	8.50	4.65	371.86	安山岩	接合/全面平滑/2分の1残存
第14回-101	磨石	10.43	4.61	3.99	205.75	花崗岩	裏面のみ平滑/4分の1残存
第14回-102	石核	5.41	6.09	4.37	226.13	頁岩	継長の剥離

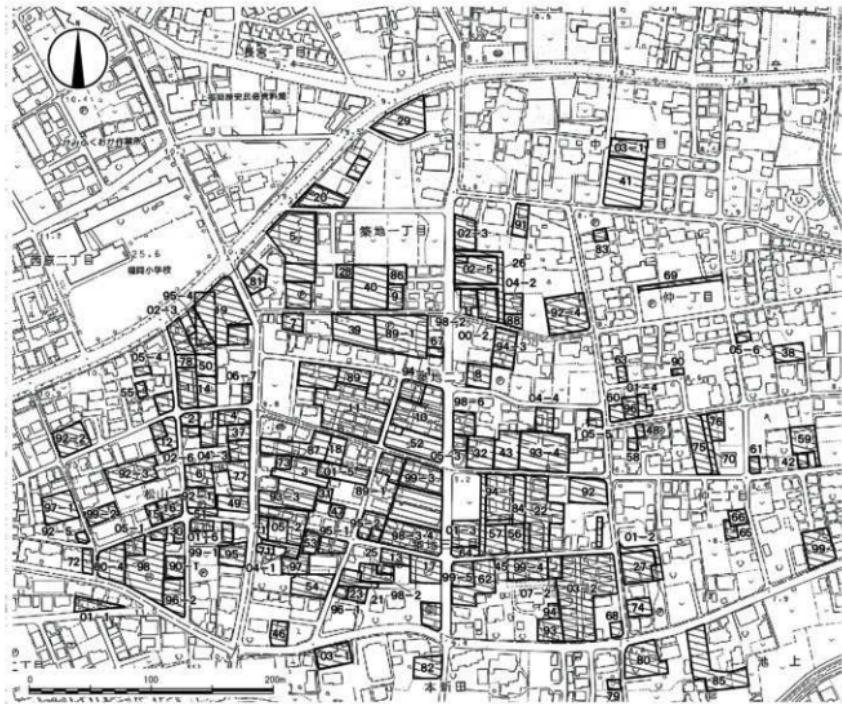
第3章 松山遺跡第99地点の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡の南西側を水源とする福岡江川の左岸に位置し、緩やかな武藏野段丘（M3面）に立地する。江川の水源は出頭と呼ばれ豊富な地下水が湧出した。背後、とりわけ水源西側の平地林の開拓が進むにつれて水流は細くなり、特に三芳町上富の多福寺の山林大伐採があつてからは江川の水量が大きく減退した。江戸時代後半には川幅15間というから27mを擁し、新河岸川の合流点から駒林まで舟運で肥料や荷物を運んだ。江川までの距離は南へ約200m。標高10~11mの範囲にあり、周辺は平坦な地であるが、遺跡から東の地形は緩やかに傾斜し、500mはなれた地点で標高7mの水田面に移行する。遺跡の主体時期は奈良時代から平安時代を経て主に平安時代に営まれた集落跡である。周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代

早期～後期、飛鳥時代および中世にわたる長宮遺跡がひろがり、西方350m前後に比高差約9mの段差をもつ武藏野台地の南東崖面には、松山・長宮遺跡に居住した人々が営みたと推察される富士見台横穴墓群が望まれる。南東に位置する仲三丁目の水天宮の南側には赤沼と呼ばれた湧水池が存在した。1965年頃には枯渇したというが、農業用水として貴重な水源であったという。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居が確認されたのを皮切りに本地点で99ヶ所目の調査が行われている。遺跡の範囲は東西240m、南北210m程度のひろがりをもつと考えられ、主たる時代と遺構は長宮遺跡と接した北よりに飛鳥時代の住居跡が、中央部に奈良～平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中世以降の溝・井戸跡などが確認されている。



第16図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第11表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間(日)	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1次	松山2-5-4	1978.10.14~16	479	住居跡2		報(1)
2次	松山2-6-7	1979.4.26~5.3	161	住居跡1, 土器群		報(2)
3次	墓地3-1-20	1979.9.7~16	733	住居跡1, 土器		報(3)
4次	松山2-6-9	1982.5.13~24	277	遺構なし、平安土器		報(4)
5次	墓地1-16	1983.4.20~28	1,461	住居跡2 なし		報(5)
6次	松山2-6-10	1984.4.13~28	330	住居跡2 なし、土器5		報(6)
7次	墓地3-3-19	1986.5.13~21	232	住居跡2 土器		報(7)
8次	松山2-4-12	1986.5.14~18	317	住居跡2 土器群		報(8)
9次	墓地1-50	1987.5.1~3	268	個人住宅 なし		報(9)
10次	墓地3-4	1989.5.9~10	370	住居跡2		報(10)
11次	墓地2-3-11	1990.4.27~30	1,342	住居跡2 なし		報(11)
12次	松山2-3-9	1990.5.7~12	304	個人住宅 なし		報(12)
13次	墓地2-2-6	1991.3.30~38	450	個人住宅 平安土器跡(部分発見)、唐1		報(13)
14次	墓地2-1-10	1991.3.30~21	2,029	宅地造成 平安土器跡(部分発見)、唐1、土器2、戸井状遺構1		報(14)
15次(1)	松山2-6-22, 23	1992.4.17~24	567	駐車場 なし		報(15)
15次(2)	松山2-4-7	(1992.5.6~11)	571	駐車場 なし		報(15)
12次	墓地3-3-11	1992.5.13~20	391	宅地造成 平安土器群1		報(15)
13次	墓地3-2-18	1992.5.18~30	234	宅地造成 平安土器群1		報(15)
14次	墓地2-5-7	(1992.5.21~30)	432	宅地造成 中井戸跡2		報(15)
15次(3)	松山2-3-31, 33	(1992.6.2.1~18)	871.9	宅地造成 なし		報(15)
16次(4)	墓地3-1-7	(1992.6.5~11)	998	共同住宅 瓦礫堆、戸井状遺構		報(15)
17次(5)	松山1-4-32	(1992.10.30)	78.4	共同住宅 なし		報(15)
18次(1)	松山2-3-1	(1993.4.5~16)	509.19	宅地造成 なし		報(16)
15次(6)	松山2-3-41	1993.4.19~28	148	個人住宅 平安土器跡1		報(16)
17次	墓地3-2-19	1993.5.10~24	597	駐車場 古墳時代住居跡1		報(16)
16次	松山2-3-43, 44	1993.7.2~15	156.76	個人住宅 平安土器跡1		報(16)
18次(3)	墓地1-17, 31	(1993.10.15~20)	994.22	共同住宅 なし		報(16)
19次(4)	松山2-5-20~25	(1993.10.22~26)	1,246.51	共同住宅 なし		報(16)
18次	墓地1-16	1993.11.1~17	290	駐車場 瓦礫堆・平安土器跡1		報(16)
19次	松山2-5-9	1994.1.17~23	1,531.18	販賣舗 平安土器跡2、清1		上酒造3集 松山2-5-9 瓦礫堆
94次(1)	墓地2-2-3	(1994.5.30)	310.48	分譲住宅 なし		報(17)
20次	墓地2-2-4	1994.6.24~7.3	598.17	共同住宅 吉備木船型六往室跡1、土器群。須磨器破片		上酒造4集 報(17)
94次(2)	墓地2-4-7	(1994.8.3~12)	532.36	宅地造成 なし		報(17)
95次(1)	墓地3-1-10	(1995.3.10~19)	303	宅地造成 なし		報(18)
95次(2)	墓地3-3-2	(1995.5.22~6.15)	542	宅地造成 吉備木船型住居跡1		報(18)
95次(3)	墓地1-2-3	(1995.5.17~20)	153.25	個人住宅 なし		報(18)
21次	墓地3-2-23	1995.5.30~17~20	378.53	赤道衣冠 古墳時代住居跡1		報(18)
95次(4)	松山2-5-16	(1995.12.2)	413	宅地造成 なし		報(18)
95次(2)	松山2-2-1	(1996.2.22~24)	489	宅地造成 清(馬糞)・明		報(19)
97次(1)	松山1-4-17	(1997.8.11~18)	591	個人住宅 なし		報(20)
22次	墓地3-4-15, 23	1997.1.15~24	419	個人住宅 平安土器跡(辺縁)、奈良末期立柱建物、鐵文集石灰土、土器群、須磨器、碳化土系、善善土系		報(20)
98次(1)	墓地3-2-13, 24	(1998.4.16)	240	宅地造成 23次査査中止		報(21)
98次(2)	墓地3-2-23外2番	(1998.4.17~5.20)	450	宅地造成 なし		報(21)
99次(1)	墓地3-3-3	(1998.4.20~5.20)	922	宅地造成 中近井溝1地		報(21)
(34)	墓地3-2-24~26の一部	1998.5.31~14	120	個人住宅 奈良末半住居跡1		報(21)
99次(5)	墓地1-1-18	(1999.2.7)	167.06	個人住宅 なし		報(21)
24次	墓地1-1-19の一部	1999.4.19~21	50	墓地造成 奈良末住居跡1		報(21)
99次(6)	墓地3-1-5, 6-2	(1999.5.1~8)	36.3	個人住宅 なし		報(21)
25次	墓地3-2-19の一部	1999.5.13~12	240	個人住宅 吉備木船型住居跡2		報(21)
99次(1)	松山1-10	(1999.4.10)	166	個人住宅 なし		報(22)
99次(2)	松山2-7-3	(1999.5.5~12)	340	宅地造成 萬葉時期不明		報(22)
26次	墓地3-3-14, 15	1999.5.22~24(6)	778.29	(分譲) なし		報(22)
99次(4)	墓地3-1-15の一部、24, 27	1999.6.3~6	745.58	なし		報(22)
99次(5)	墓地3-1-28	1999.6.3~9	313.1	個人住宅 萬葉時期不明		報(22)
26次	墓地1-3-21	2000.5.15~6~20/2000.4.27~5.12	627.9	赤道衣冠 土器2、蟹穴(住居跡)、土器群、須磨器、陶器片		報(23)
99次(2)	墓地1-3-5, 25, 27, 35	2000.5.3~7	687.1	共同住宅 土器1		報(23)
27次	中2-1-10の一部	(2000.5.22~6.8)	912	共同住宅 奈良末土器群 奈良末住居跡2、土器群、須磨器、陶器片		報(23)
99次(4)	松山2-2-5	(2000.10.30)	592	共同住宅 なし		報(23)
28次	墓地1-1-28	2001.3.28~21	165.6	個人住宅 奈良末住居跡1		報(23)
99次(5)	墓地1-3-28	(2001.2.2~13)	614	死後造成(分譲) 奈良末・奈良末住居跡1		12年定期 報(23)
99次(6)	松山2-1-17	(2001.3.21)	174.9	なし		報(24)
100次(1)	新B2-450-1	(2001.4.12~13)	204.15	個人住宅 なし		報(24)
100次(2)	松山2-1-10	(2001.5~18)	168	宅地造成 古代立溝遺跡		報(24)
100次(3)	墓地3-4-10	(2001.5.10~15)	434.59	共同住宅 なし		報(24)
100次(4)	墓地1-2-3, 3, 14	(2001.8.12)	694.68	個人住宅 なし		報(24)
100次(5)	墓地1-2-8	(2002.5.20~28)	978	廻遊所(複数) 駒門足跡1		報(25)
100次(2)	墓地3-3-15, 36	(2002.7.11)	248.09	宅地造成(分譲) なし		報(25)
29次	墓地1-2-8の一部	2002.7.2~8.9	36	個人住宅 蟹穴(住居跡1)		報(25)
100次(3)	松山2-1-5, 7	(2002.8.5)	358.57	宅地造成(分譲) なし		報(25)
100次(4)	墓地1-3-28	(2002.8.20~21)	479	共同住宅 なし		報(25)
100次(5)	墓地1-3-22, 25, 30	(2002.8.22~28)	640.68	廻遊所(複数) 駒門足跡1(出土伴存)		報(25)
100次(6)	松山2-6-5	(2002.9.9)	147	個人住宅 なし		報(25)
101次(1)	木田本村3-23	(2003.4.16~21)	1,080.45	共同住宅 なし		報(26)
101次(2)	墓地3-1-15の一部	(2003.8.19~20)	2,578.02	宅地造成 奈良末・死後造成2(土器群)		報(26)
101次(3)	墓地3-1-15の一部	(2004.1.10~16)	142.4	個人住宅 奈良末・死後造成2(土器群)		報(26)
100次(7)	墓地1-16, 32	(2004.4.22~23)	976	宅地造成 なし		報(27)
100次(8)	墓地1-3-27	(2004.4.26)	955	個人住宅 なし		報(27)
100次(9)	松山2-6-11	(2004.5.16)	309	宅地造成 なし		報(27)
100次(10)	墓地2-5-14, 25, 27	(2004.8.5)	280	個人住宅 なし		報(27)
100次(11)	墓地2-4-12の一部	(2004.8.6~8)	911	宅地造成 なし		報(27)
100次(12)	墓地3-1-32, 34, 43	(2005.4.19~21)	549	土器2 宅地造成 なし		市内
100次(13)	墓地2-5-2	(2005.4.28)	132	個人住宅 奈良末・土器群		市内
11次	墓地3-1-69	(2005.6.14~23/2005.6.9~13)	120	個人住宅 古墳時代住居跡1		市内

地名	所在地	調査期間	はい計画書	面積(m ²)	調査区段	確認された遺構と遺物	所見報告書
05(08)	篠原2-3	(2005.8.30~9.13)		567	宅地造成 個人住宅	平安時代住居跡1	所見1
32	篠原2-3の一部	(2005.8.30~9.7)2005.9.8~13		132	個人住宅	平安時代住居跡1	所見1
05(05)	篠原2-5-16	(2005.10.31)		125	個人住宅	遺構遺物なし	所見1
05(04)	松山2-4-23	(2005.10.20~21)		161	個人住宅	遺構遺物なし	所見1
05(05)	#1-4-26	(2005.11.14)		108	個人住宅	遺構遺物なし	所見1
05(07)	松山2-5-21	(2006.2.26)		100	個人住宅	遺構遺物なし	所見2
37	松山2-10、13	(2006.4.13)		228	個人住宅	遺構遺物なし	所見3
38	#1-4-3、9、12、13、24	(2006.5.29)		2176	宅地造成	遺構遺物なし	所見3
39	篠原2-10	(2007.1.10~20)		937	宅地造成	遺構遺物なし	所見3
40	篠原1-5	(2007.2.2~8)2007.2.21~3.9	1,047	宅地造成	奈良時代住居跡1、中世柱建物跡2、竪穴式住構1、時期不明の溝3、土坑、ビット	所見3	
41	中ノ森1-2-5	(2007.2.7~9)2007.2.21~3.5	1,281	宅地造成	中世柱建物跡2	所見3	
42	#2-3-15	(2007.1.23)		108	個人住宅	遺構遺物なし	所見3
43	篠原3-2-2	(2007.4.11~24)		668.13	分譲住宅	複数1、土坑1、田石塀ナイフ1	所見4
44	篠原3-2-10、14	(2008.6.9~11)		132	個人住宅	遺構遺物なし	所見6
45	篠原3-7-0の一部	(2008.9.4~30)2008.10.1~23	390	通路	奈良平安時代住居跡2、竪穴柱建物跡2、竪穴式住構1、時期不明の溝3、土坑、ビット	所見6	
46	篠原3-1-3、35の一部	(2009.2.17)		309	個人住宅	遺構遺物なし	所見6
47	篠原3-5-2	(2009.5.11~12)		121	個人住宅	ビット	所見6
48	#2-2-34	(2009.7.1)		67	個人住宅	遺構遺物なし	所見6
49	松山2-6-1、14、22の一部	(2009.10.17~22)2009.10.27~11.18	449	宅地造成	平安時代住居跡1(住居内厨井跡被出)、土坑1、溝1、ビット1	所見6	
50	松山2-5-3、17	(2009.11.27~12.1)		797	分譲住宅	溝1、ビット1	所見6
51	松山2-22、23、28の一部	(2010.5.10~13)		360	分譲住宅	遺構遺物なし	所見10
52	篠原2-2-1	(2010.8.26~9.3)	694	分譲住宅	溝1、落とし口1、工事立会	所見10	
53	篠原3-1-11	(2010.9.10~21)	209	個人住宅	近代以降の溝3、アラグラ1、鐵道工事	所見10	
54	篠原3-6、76~83	(2010.9.21~30)2010.10.10~11.5	539.83	宅地造成	奈良平安時代住居跡2個、苔無の住居は出土保存、他2件本調査	所見9	
55	松山2-24の一部	(2011.1.17)2011.1.18~31	226.37	個人住宅	奈良平安時代住居跡1、立柱柱建物1、本調査	所見10	
56	篠原3-7、8-0の一部	(2011.4.4~14)2011.4.11~15	482.53	共同住宅	奈良平安時代柱建物2軒。本調査一部(工事立会)	所見11	
57	篠原3-4-47	(2011.6.4~8)2011.6.14	241	分譲住宅	sondageする4号地かららくH34号地に亘る、遺構なし	所見14	
58	#2-2-31	(2011.6.6~8)2011.6.24	114.54	個人住宅	井戸1、溝1、ビット1、本調査	所見14	
59	92-3-6、9	(2011.8.8~9)2011.8.10~11	559.7	個人住宅	土坑2、溝1、鐵文土器、須恵器、本調査	所見14	
60	H-1-1-15	(2012.3.26~27)	165.31	個人住宅	溝1、溝2、陶器類、瓦格、工事立会	所見14	
61	#2-3-3	(2012.4.16~19)	113	個人住宅	溝1、土坑1、陶器類	所見15	
62	篠原3-15、14、79	(2012.6.11~21)2012.7.23~8.3	942	分譲住宅	確定的住居跡1、奈良平安時代住居跡1、溝6、鐵文土器、瓦片、他	所見12	
63	#1-1-55、56、57	(2012.6.5)		120	個人住宅	遺構遺物なし	所見15
64	篠原3-4-9	(2012.6.7~15)		314	分譲住宅	溝1、近世の井戸、陶器類	所見15
65	#2-1-25、36	(2013.1.23~18)2013.2.19~3.21	630	物置	奈良平安時代住居跡2、立柱柱建物3、土坑6、溝6、須恵器、田石器	所見15	
66	#2-1-53、54			179	個人住宅	井戸1、土坑1、陶器類	所見15
67	篠原3-13	(2013.2.19)		91.97	個人住宅	遺構遺物なし	所見15
68	篠原3-5-1	(2013.3.7~8)		166	個人住宅	井戸1、土坑1、ビット4、須恵器、土師器等	所見15
69	#1-51、52、55	(2013.9.10~11)2013.9.12~17	298	通路	確定的住居跡1、溝1、土坑1	所見18	
70	72-2-19、41	(2013.4.11~16)2013.4.17~23	220.41	通路	奈良平安時代住居跡1、中世山廬井1、集石土坑1、溝2、須恵器、土師器、陶器類	所見18	
71	篠原3-16、32、34	(2013.4.30~5.3)	240	分譲住宅	ビット1、古鉢、瓦器片1	所見18	
72	松山4-1	(2013.5.24)		198.86	個人住宅	遺構遺物なし	所見18
73	篠原3-1-56	(2013.8.19)2013.8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡1、法器類	所見18	
74	#2-2-17~26	(2013.12.24~26)	280.24	分譲住宅	井戸1、集石土坑1、溝2、土坑1、陶器類	所見18	
75	H-2-2-2、4	(2014.1.14~20)2014.8.5~11	606	分譲住宅	平安時代住居跡1、奈良時代住居跡1、土坑1、溝1、須恵器、土師器	所見18	
76	H-2-2-8	(2014.1.22~28)2014.9.26~10.2	120	個人住宅	土坑1、井戸1、溝1、土坑1、土師器	所見18	
77	#2-2-17(区画)	(2014.9.22~28)2014.11.12~17	120	個人住宅	奈良時代住居跡1(中世柱跡)1-2号点と同一、井戸1、溝2、土坑3、土師器、須恵器、中世陶器	所見18	
78	#2-2-37	(2014.1.22~28)		362	宅地造成	奈良時代住居跡1(中世柱跡)1-2号点と同一、井戸1、土坑1、土師器	所見18
79	篠原1-1-2	(2015.3.23)		247.49	分譲住宅	溝1、遺物1L	所見20
82	本郷田41の一部	(2015.7.30~31)		194	個人住宅	溝1、壙1、土師器	所見22
83	#1-2-22	(2015.8.31)		98	分譲住宅	溝1、土師器	所見22
84	篠原3-4-13	(2015.9.15~16)	455	宅地造成	平安時代住居跡1、井戸1、縄文土器類、陶器類	所見22	
85	東ノ森2-6-1の一部、3-6、36、366の一部	(2015.10.1~19)2015.10.20~26	1,244.47	分譲住宅	奈良平安時代住居跡2、屋外の施設1、中世柱跡1、近世の溝5、須恵器、土師器、陶器類、鉄製品、石製品	所見19	
86	篠原3-1-4	(2015.8.7~5)		294	分譲住宅	溝1、陶器類	未報告
87	篠原3-1-21~22の一部、39、40、41、84	(2016.9.14)		427	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
88	篠原3-3-6	(2016.10.13)		120	個人住宅	土坑1、ビット2、溝1、遺物なし	未報告
89	篠原3-1-11、16	(2017.3.3~4)	287.04	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告	
90	#1-1-17の一部	(2017.10.12)		120	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
91	篠原3-6-6の一部	(2017.10.12)		416	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
92	篠原3-4-3	(2017.10.31)		621	分譲住宅	土坑(前削明)2、ビット(時期不明)1、縄文土器類、陶器類	未報告
93	篠原3-5-7-2	(2017.1.27~28)		571.97	共同住宅	古代住居跡2、壙1、溝1、岩削以降土坑1、土師器、須恵器、陶器類	未報告
94	篠原3-5-4	(2018.3.23)		57.12	作業場	古代住居跡1、時期不明ビット1、土師器	未報告
95	松山2-1-12	(2018.8.1~2~9.13)	353	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告	
96	H-1-1-4	(2018.8.20)		165.43	分譲住宅	溝1、陶器片、ガラス容器	未報告
97	篠原3-1-5、7の各一部	(2018.10.30)		253	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
98	松山2-2-4	(2018.11.30)		1,291.34	日場	遺構遺物なし	未報告
99	#2-4-2	[2019.1.1~15]2019.1.21~22	673.81	分譲住宅	複数住居1、陶器類、ガラス瓶	未報告	



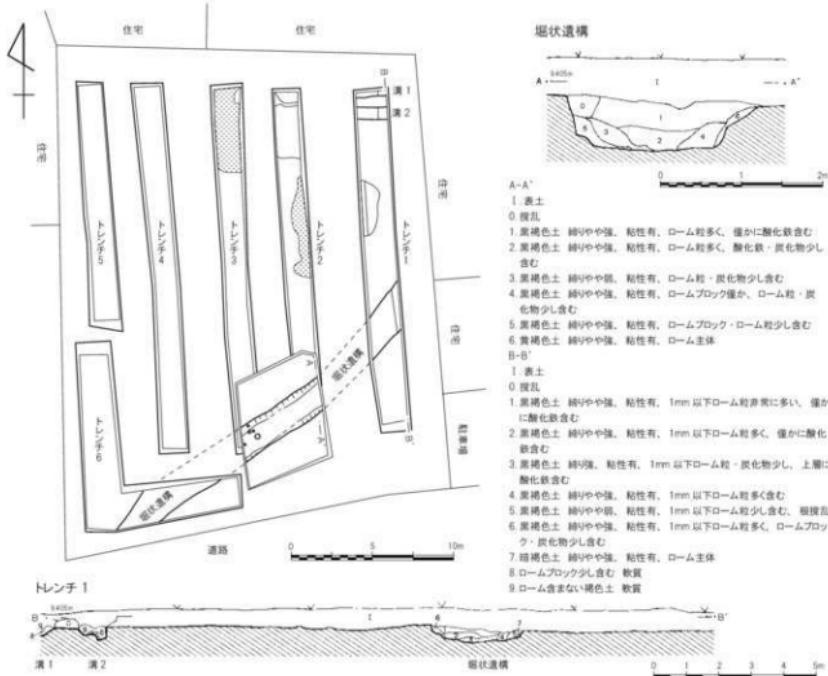
第17図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

ちなみに、古代の住居跡はこれまでに52軒が調査されてきている。

本報告する堀状遺構は遺跡南東側の低地に近い所である。

II 調査に至る経過と概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2018年12月4日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2019年1月11日～15日まで試掘調査を実施した。幅約1.5～2mのトレーニング5本を設定し、重機による表土除去後人力による精査を行ったところ、堀状遺構1本を検出した。遺構確認面までの深さは40～60cmである。開発道路築造部分において遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を行った。



第18図 松山遺跡第99地点遺構配置図(1/300)、土層(1/60・1/150)

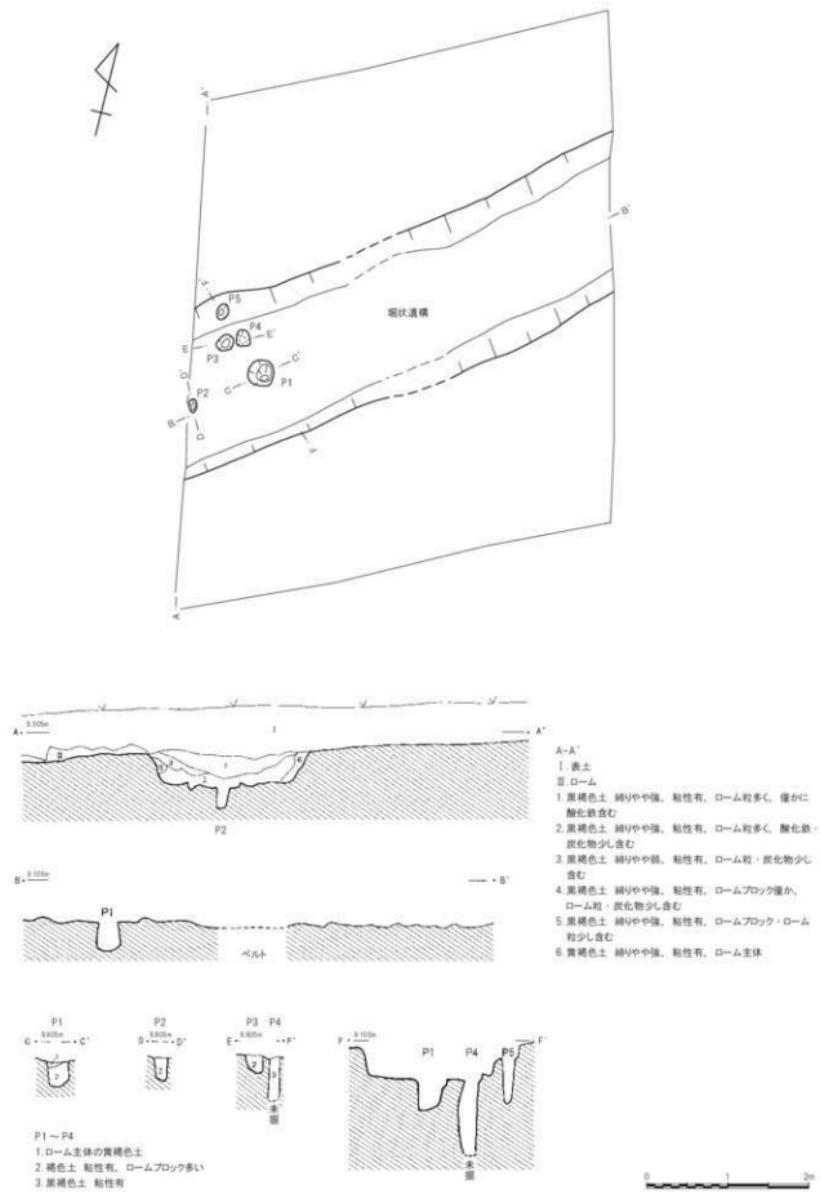
本調査は1月21日～22日に実施した。堀跡部分に調査区を設定し、重機による表土除去後人力で掘削を行った。調査の結果、堀状遺構1本とピット5基を検出した。

III 遺構と遺物

試掘調査と本調査で確認できた遺構は堀状遺構のみである。設定した最東トレーニング(トレーニング1)の北寄り側で、農業耕作関連のイモビツ的な掘り込みが確認できた程度で、遺構としては扱わない。他には現況建物の基礎部分と思われる擾乱や廐穴などが確認されたが、礫・ビニールを含む現代の擾乱が調査区北東部で目立った。

【堀状遺構】

規模から判断してここでは堀の名称を使用する。調査区の北東部から南西部にかけて、ほぼ直線に延びる幅2mの黒色落ち込みを21mにわたって確認した。方位はN-57°-Eを指す。このうち本調査区は私道部



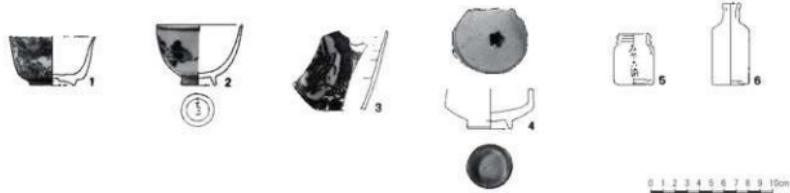
第19図 松山遺跡第99地点堀状遺構・ピット (1/60)

分にかかる長さ6mである。規模は上幅175～190cm、下幅110～140cm、確認面からの深さは最大で62cm。断面は逆台形状を呈する。底面は小起伏があり凹凸がはげしく、レヴエルは西から東に向かい若干下がる。覆土の全体色調は黒褐色を呈する。側壁からのロームの流れ込みは北側で多い。覆土の特徴として暗赤褐色の酸化鉄成分を含むことである。特に覆土の中央部に顕著に確認された。また、小ピットを調査区西側で集中して5基確認した。ピット内覆土は締まりなく粘性強い。滌水名残か。

第12表 松山遺跡第99地点壠状遺構内ピット一覧表
(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	圓丸方形	36×30	10×6	35	
2	橢円形	15×10	10×5	28	
3	圓丸方形	20×17	12×8	21	
4	圓丸方形	20×15	—	未照	
5	圓丸方形	20×15	8×5	55	

*P4は未標。100cmまで掘り上げたが下部は深すぎて底に到達できない。



第20図 松山遺跡第99地点出土遺物（1/4）

第13表 松山遺跡第99地点出土遺物観察表 (単位cm・g)

回収番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様他	備考
第20回-1	3トレンチ内	磁器・小瓶	7.0	3.6	4.0	62.6	施錫成形／側面給付／外面屋敷花鳥文、高台内無釉	
第20回-2	3トレンチ内	磁器・小瓶	7.0	2.6	5.0	55.4	施錫成形／染付／草花文／晉付無釉	底裏銘「七二」
第20回-3	3トレンチ内	磁器・磨擦利	—	—	—	13.8	施錫成形／型紙給付／内面無釉	瀬戸・美濃
第20回-4	壠状遺構	磁器・碗	—	3.7	—	54.4	施錫成形／染付／見込二重圓線・花卉文／晉付無釉	
第20回-5	3トレンチ内	ガラス製品・瓶(染料)	2.7	3.0	4.2	31.0	型吹成形(割型・前後合せ)／無色・透明、気泡有 ／みや古染・隔離脚部	充形:スクリューキャップタイプ
第20回-6	2トレンチ内	ガラス製品・瓶(筆瓶?)	1.6	3.0	6.7	33.2	型吹成形(割型・前後合せ)／緑色・透明、気泡有	充形:コルク栓

第4章 駒林遺跡第35地点の調査

I 遺跡の立地と環境

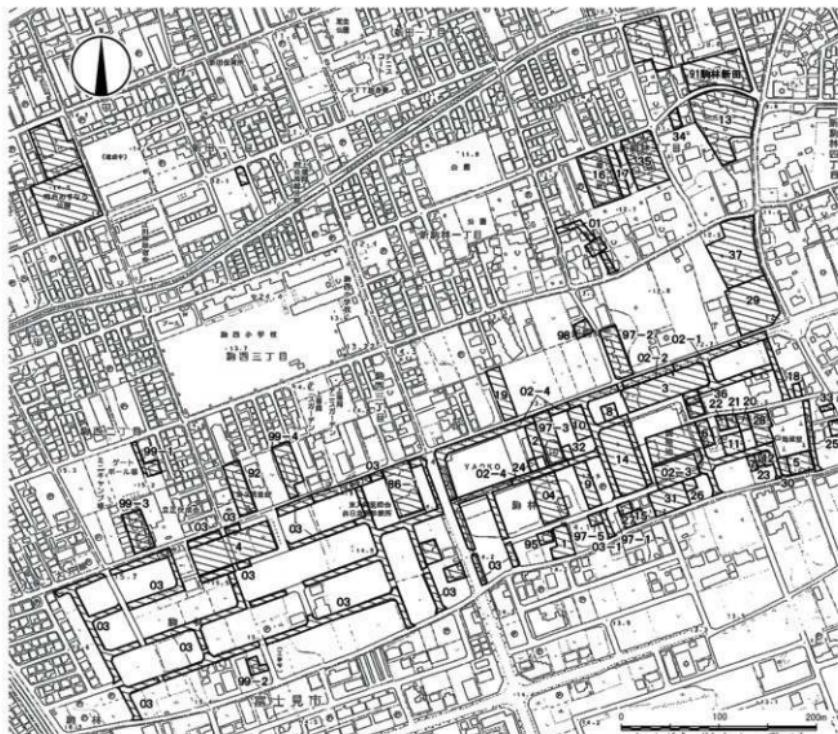
駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武藏野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高12~15m前後の平坦地を形成する。そもそも遺跡の範囲は南北300m、東西800mの範囲であったが、2002年~2004年に実施した駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北160m、東西80mの範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として2004年3月に追加した。しかし、第3地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺140~160mの台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008年2月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板

碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畠が残っている。

周辺の遺跡は500m下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稻荷久保北遺跡がある。2002年以降の試掘調査の結果、幅5m、深さ2mの大溝や茶毬跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。

II 調査に至る経過と概要

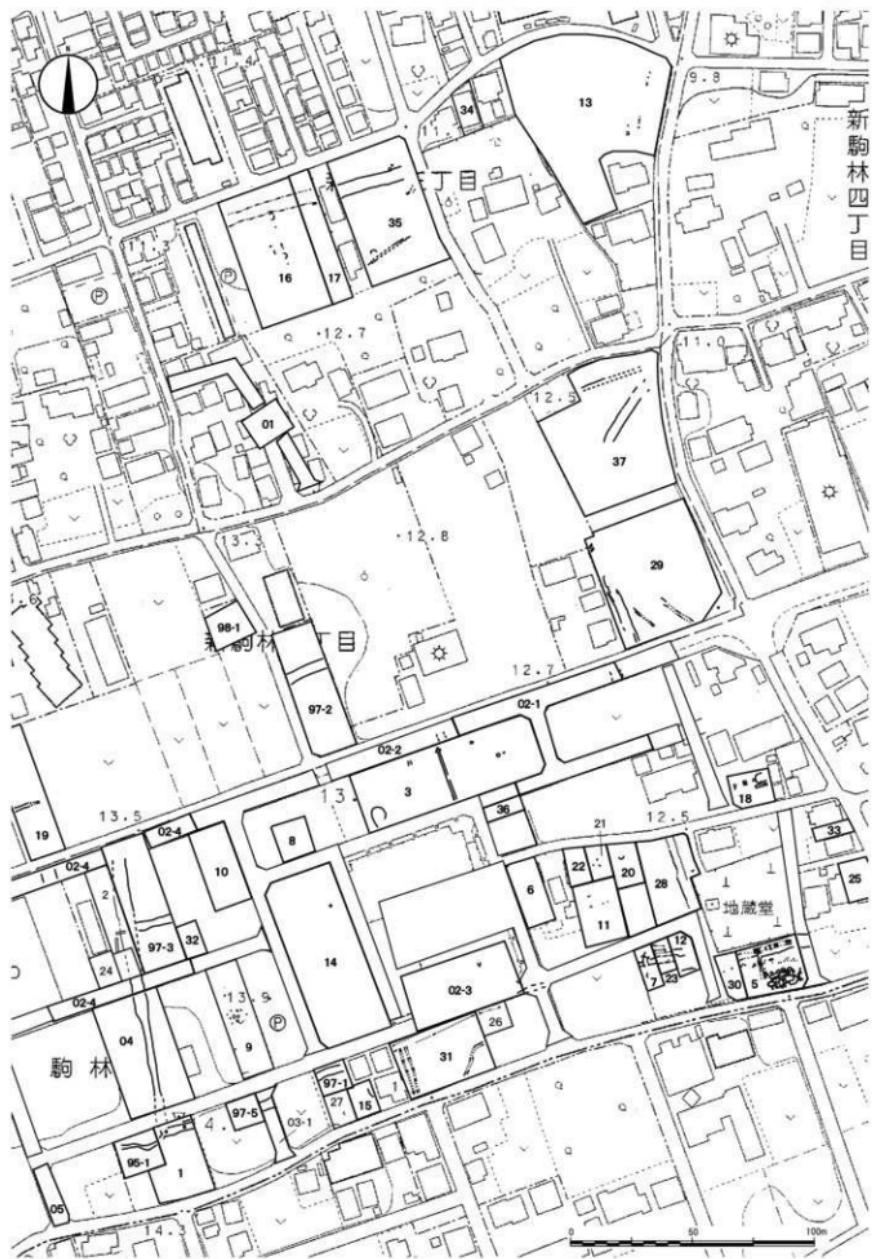
調査は宅地造成に伴うもので、原因者より2017年6月26日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。原因者と協議の結果、遺



第21図 駒林遺跡の地形と調査区(1/5,000)

第14表 駒林遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 〔は 試掘調査〕	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
86-1	駒林字南原353・354	1986.6.13～25	1,536	範囲確認	溝、土師器	埋文(IX)
91駒林 新田	駒林新田727-1-3	1991.8.3.	2,186	共同住宅	遺構遺物なし	埋文(14)
92	駒林字南原341	1992.9.16～18	987.6	共同住宅	溝遺物なし	埋文(15)
95	駒林字新田前271-2	1995.11.8～24	231	個人住宅	溝、遺物なし	埋文(18)
96	駒林本町153・3・4	1996.6.10～13	231	個人住宅	遺構遺物なし	埋文(19)
97-1	駒林新田前266-2	1997.5.8～12	132	個人住宅	溝1、遺物なし	埋文(20)
97-2	駒林字新田前223	1997.5.9～15	991.55	共同住宅	溝1、遺物なしビット1、須恵器片	埋文(20)
97-3	駒林字南原291-1・2	1997.10.6～17	991	診療所	溝1、甕、すり鉢片	埋文(20)
98	駒林字南田前312	1998.8.10	234	個人住宅	遺構なし、陶器片	埋文(21)
99-1	駒林字南原424-2・20の一部、23	1999.4.9	330.38	個人住宅	遺構遺物なし	埋文(22)
99-2	駒林字南原394-2	1999.5.25	125.91	個人住宅	遺構なし、陶器片	埋文(22)
99-3	駒林字南原420-1	1999.7.1	1,322	礼拝堂	溝1、遺物なし	埋文(22)
99-4	駒林字南原344-2	2000.1.18～20	785.79	共同住宅	溝1、遺物なし	埋文(22)
01	駒林702・711の一部	2001.8.27～9.5	300	宅地造成	遺構なし、板碑片	埋文(25)
02-1	駒林字南田前238、240～242-1の一部	2002.6.3～21	650	区画整理予定地	溝1、遺物なし	埋文(25)
02-2	駒林字新田前243～245	2002.8.9～30	275	区画整理予定地	溝1、遺物なし	埋文(25)
02-3	駒林字南田前261・263、264の一部	2002.8.30～9.19	1,120	区画整理予定地	土坑1、遺物なし	埋文(25)
02-4	駒林字南田前280～282-2、290、292-1～298	2002.11.11～27	1,150	区画整理予定地	溝4、遺物なし	埋文(25)
03-1	駒林字南原364-634箇	2003.4.25～12.22	7,278.5	土地区画整理	溝3、遺物なし	埋文(26)
03-2	駒林字南田前263、273、275	2003.5.16～21	558	土地区画整理	溝1、遺物なし	埋文(26)
04	駒林字南田前281	2005.1.7～24	1,487	範囲確認	溝1、カララケ、動物の歯、骨	埋文(27)
1	駒林地区画整理事業地内20街区4・8・9	2006.7.13～28	646	共同住宅	塙跡、系縄跡検出	市内3
2	駒林地区画整理事業地内17街区7・8の一部	2006.11.21～29	421	専用住宅	塙跡検出	市内3
3	駒林地区画整理事業地内21街区3・4の一部	2006.11.30～12.18	1,916	店舗	近世遺構建設	市内3
4	駒林B地区7街区3・4	2007.6.11～13	1,866	共同住宅	縦文・土坑1	市内4
5	大字駒林字新田前256(仮換地指定30街区2)	(2008.4.9～16)	509	分譲住宅	縦文・集石3、中世世：地下式坑1、竪穴状構造2、溝4、剖面、ビット	市内5・6
6	大字駒林字新田前248-2(仮換地1街区27号付)	(2008.8.27)	257	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
7	駒林地区画整理事業地内28街区5画地	(2009.2.3)	152	個人住宅	時期不詳の塙・溝跡2	市内6
8	大字駒林字新田前245-5	(2009.6.8)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
9	大字駒林字新田前284	(2009.7.22～30)	892	共同住宅	縦文：集石土坑1、土坑2、ビット9、溝1	市内8
10	大字駒林字新田前288-1の一部	(2010.2.17～18)	400	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
11	駒林区画整理事業地27街区2、10画地、11画地の一部	(2010.4.12～21)	689.45	個人住宅	遺構遺物なし	市内10
12	駒林字南田前258-2(28街区12画地)	(2010.7.14)	115	個人住宅	中世～近世：溝確認	市内10
13	駒林字722-1・3・4	(2010.7.27～29)	927	共同住宅	近世の土坑2、ビット11	市内10
14	駒林字新田前285～287、288-2・3(22街区区内)	(2010.9.1～8)	2,000	公園工事	遺構遺物なし	市内10
15	大字駒林字新田前266-3(24街区12号付)	(2011.2.16～17)	115	個人住宅	時期不詳の土坑1	市内10
16	駒林3-706	(2011.5.2～25)	1,454	分譲住宅	塙、溝1、井戸2、土坑2、ビット4、縦文 土器片、近世陶磁器	市内14
17	駒林3-707	(2011.5.16～19)	495	分譲住宅		
18	駒林234-2、238-2(仮換地)、31-4・5	(2011.4.28～5.2)	238	個人住宅	土坑2、近世陶磁器頃破片	市内14
19	新駒林2-305-1	(2011.11.28～12.5)	671	分譲住宅	中・近世の溝1、縦文土器	市内14
20	駒林元町1-3-13	(2012.3.5～8)	178.8	共同住宅	土坑1	市内14
21	駒林元町1-3-13の一部	(2012.3.5～8)	110	個人住宅	ビット6、倒木痕1	市内14
22	駒林元町1-3-20	(2012.3.5～8)	118	個人住宅	遺構遺物なし	市内14
23	駒林元町1丁目4番12	(2012.4.10～16)	127	専用住宅	ビット2、溝3(うち1は縦状)、遺物なし	市内15
24	駒林元町2丁目1-7	(2012.5.16)	127	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
25	駒林元町1-2丁目3番7	(2012.6.4)	212	個人住宅	遺構遺物なし、土器	市内15
26	駒林元町1-3丁目5番16	(2012.8.29～30)	136	個人住宅	ビット6、溝1、遺物なし	市内15
27	駒林元町1-5・9・10	(2012.12.21)	133	個人住宅	時期不明土坑1、遺物なし	市内15
28	駒林元町1-3-8・14～16	(2013.2.21～25)	1,208	宅地造成	中世以降塙跡、溝1、磁器片、須恵器、陶器	市内14
29	新駒林2-231-1	(2013.6.3～17)	2,200	店舗	土坑2、溝6、石器、近世陶磁器	市18
30	駒林元町1-3-7	(2013.6.19～20)	68.16	個人住宅	近世以降ビット3、陶磁器	市18
31	駒林元町1-5・5・6	(2013.9.17～27)	925	宅地造成	溝4、遺物なし	市18
32	駒林元町2-1-16	(2014.2.10)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市18
33	駒林元町1-2-2	(2016.4.11)	130	個人住宅	遺構遺物なし、土器片、須恵器	未報告
34	新駒林3-725-3	(2016.10.14)	163	共同住宅	泥面子、古鉢、陶磁器	未報告
35	新駒林709-1～4、710-1・2	(2017.7.27～28、8.21～22) 2017.8.23～9.4	1,815	分譲住宅	塙跡(古跡へ中世)溝4、土坑2(時期不明)、石器、古鉢、焼粘	市23
36	駒林元町1-7-4	(2017.9.19)	160	消防団倉庫	遺構遺物なし	未報告
37	新駒林2-216-1、217-1	(2018.3.5～7) 2018.3.12～16	2,515	店舗	塙跡(中世)、溝1(近世以降)、陶磁器片、泥面子、土器片、石器、須恵器	市23



構の存在を確認するため試掘調査を実施した。

試掘調査は既存建物の解体作業の都合上、2017年7月27・28日及び8月21・22日の2回に分けて実施した。幅約1.2～1.5mのトレント11本を設定し、重機による表土除去後入力による表面精査を行ったところ、中世以降の堀跡、土坑、時期不明の溝を検出した。現地表面から遺構確認面までの深さは30～50cmで遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を行った。

本調査は8月23日～9月4日まで実施し、堀跡部分に調査区を設定し、重機による表土除去後入力で掘削を実施した。調査の結果、堀跡1本と堀に伴うピット多数、土坑を検出した。なお、旧石器時代の調査は行っていない。

III 遺構と遺物

(1) 堀跡

調査区北側に位置する。2011年に調査を実施した第16・17地点から続く堀跡で、東西方向に走行し、東から西に向かって傾斜する。遺構の規模は上端490～556cm、下端108～173cm、深さ約258cmで、断面形は逆台形を呈する。今回の調査で確認された全長は約30mで、両端とも調査区外へ延伸する。底部に掘り込み等は認められず、平坦である。堀内の南側斜面では複数のピットが検出されており、作業用の足場として掘削された可能性が考えられる。ピットの詳細に関しては、第15表に掲載した。出土遺物は僅かに1点のみで、遺構に伴うものではない。覆土より採取した土壤サンプルについてテフラ分析を実施した結果、12世紀以降に埋没したものと考えられる。なお、土壤サンプル分析の詳細については附編として掲載した。

(2) 土坑

土坑の詳細については第16表参照。

①土坑1

調査区南西部、トレント9で確認した。土層の観察から近世以降に帰属するものと考えられる。出土遺物はない。

②土坑2

調査区北側で検出した。堀跡の北側の上端を切るように入力されている。切り合い関係から堀跡より新しいものと考えられる。出土遺物については第26図及び第18表参照。

(3) 溝

溝の詳細については第17表参照。

①溝1

調査区東側に位置する。トレント2で検出した。北東から南西方向に走行し、北東側は調査区外へ延伸する。南西側は溝4に合流するものと考えられる。出土遺物はなく、帰属時期は不明である。

②溝2

調査区南側に位置する。トレント9・10で検出した。南西から北東方向に走行し、調査区外へ延伸する。土層の観察から、近世以降のものと考えられる。出土遺物はない。

③溝3

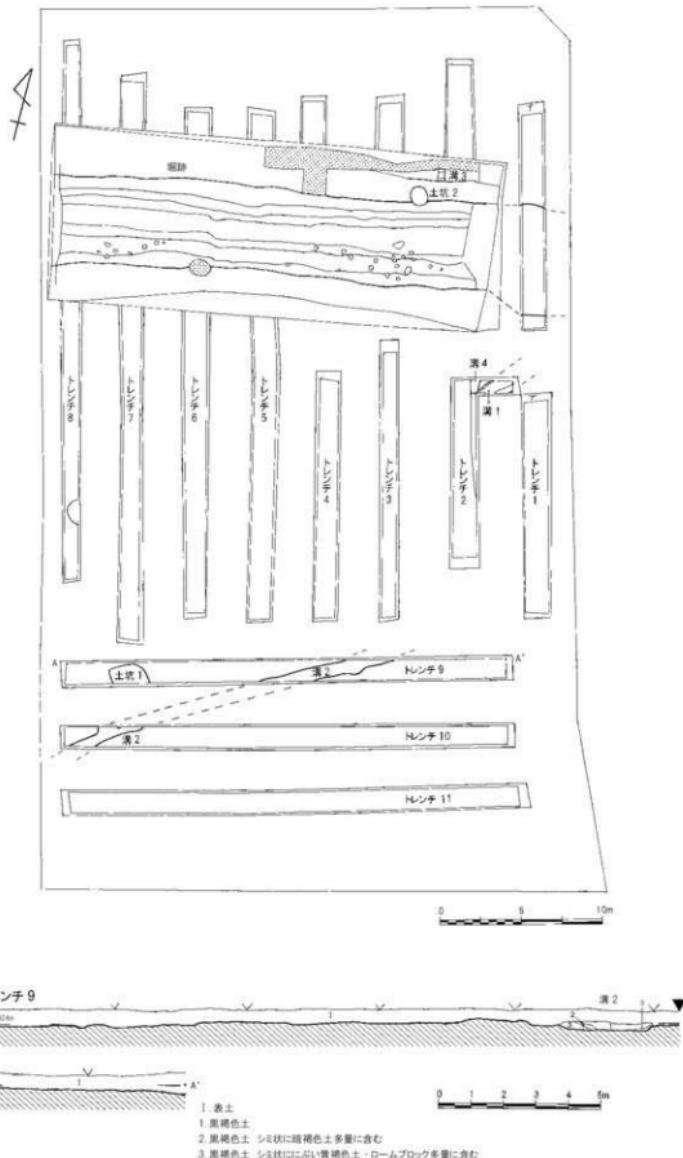
調査区北側、堀跡の北側に位置する。搅乱で破壊されているため正確な規模は不明だが、堀跡と走行方向を同じくするものと想定される。非常に浅く、また出土遺物もないため、正確な帰属時期は不明だが、比較的新しい時期のものと考えられる。

④溝4

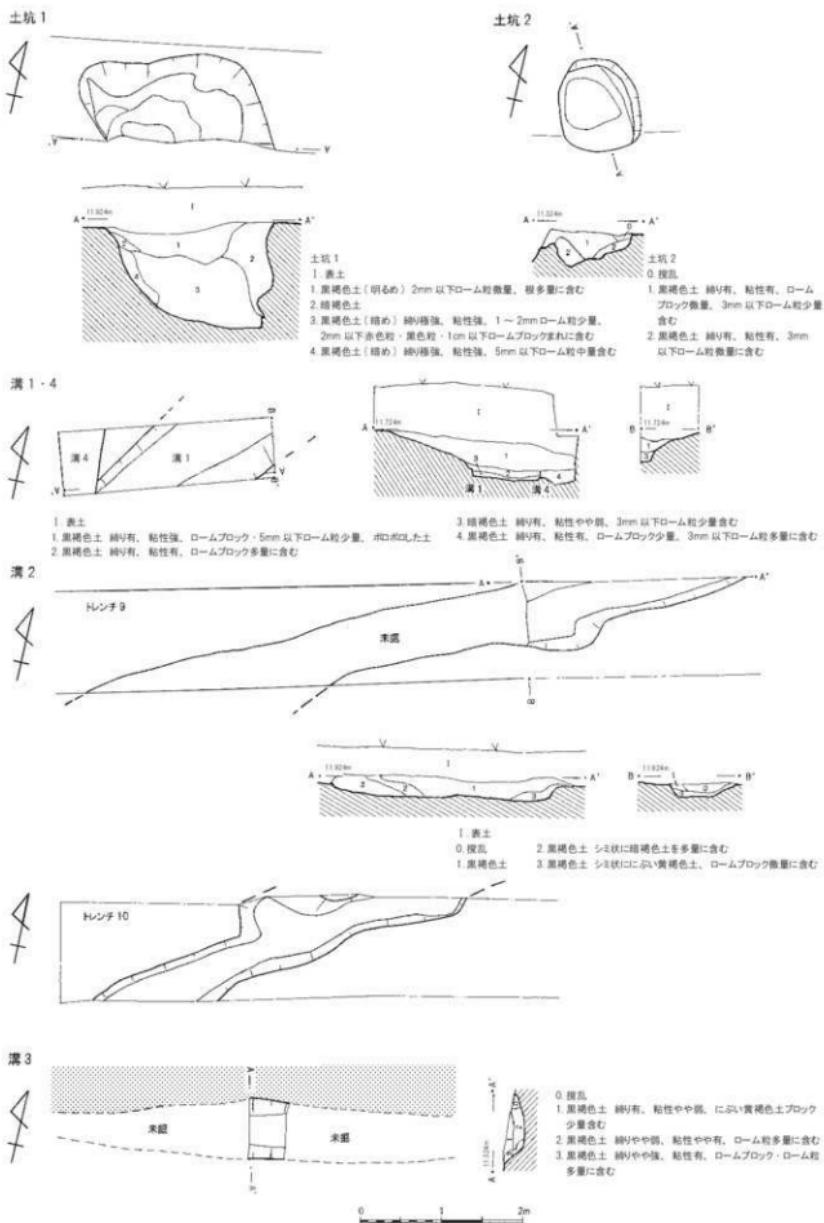
調査区東側に位置する。トレント2で検出した。走行方向は南北を指向し、調査区外へ延伸するものと考えられるが詳細は不明。途中で東側より溝1が合流する。出土遺物がないため正確な帰属時期は不明である。

(4) 出土遺物

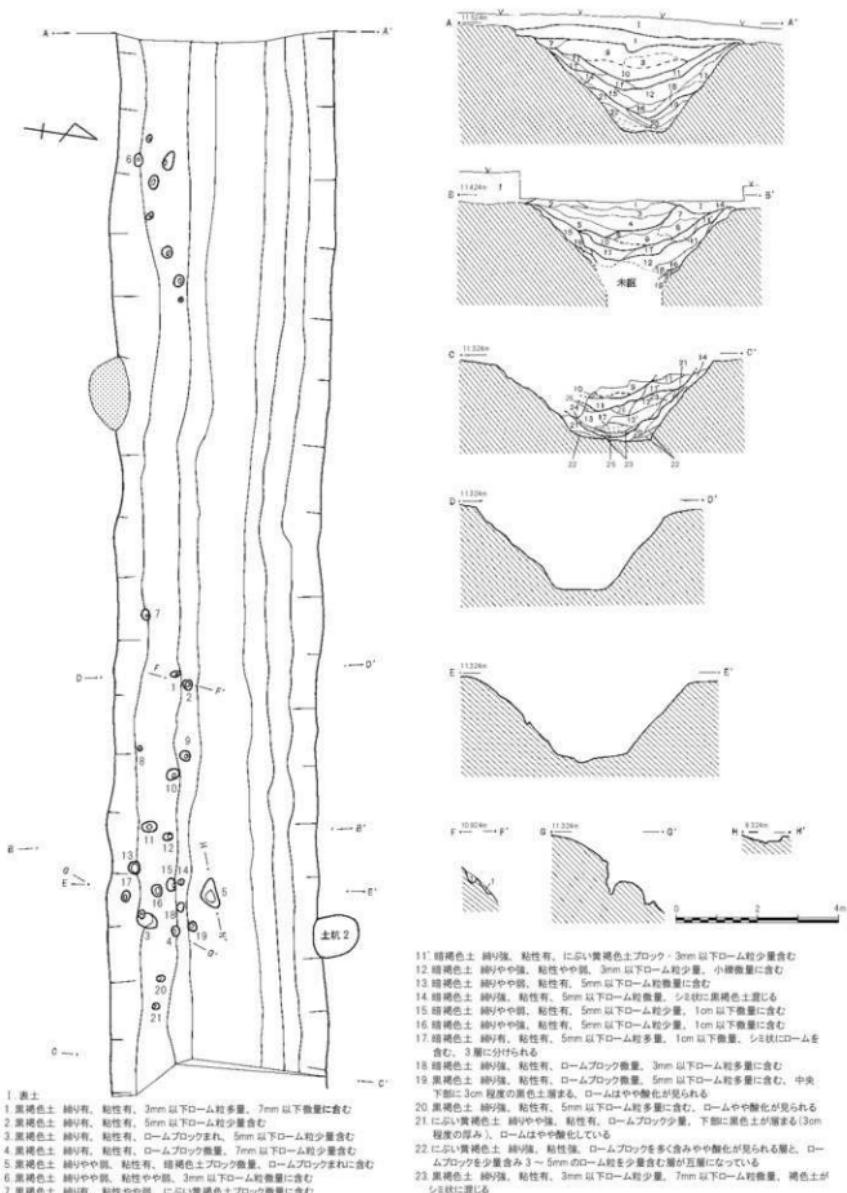
出土遺物については第26図及び第18表に掲載した。全体として出土量が少なく、遺構の時期を決定するようなものは出土していない。



第 23 図 駒林遺跡第 35 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)



第24図 駒林遺跡第35地点土坑・溝(1/60)



第 25 図 胸林遺跡第 35 地点堀跡 (1/120)

第15表 駒林遺跡第35地点堀跡内ピット一覧表(単位cm)

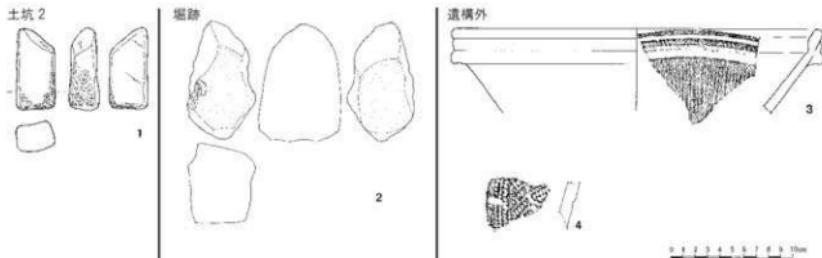
No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	25×16	7×6	33		12	方形	19×13	10×8	21.4	
2	楕円形	23×18	9×8	16		13	円形	25×24	22×19	45.6	
3	楕円形	51×36	7×6	80		14	三角形	15×11	8×6	11.2	
4	楕円形	22×19	9×8	25		15	楕円形	26×20	8×4	18	
5	隅丸三角形	76×39	30×25	14		16	楕円形	27×20	14×9	33.2	
6	楕円形	28×22	9×8	5.9		17	楕円形	29×17	12×7	17.4	
7	楕円形	26×18	8×7	24.6		18	円形	20×19	10×10	31.8	
8	円形	11×11	8×4	11.4		19	三角形	23×22	10×10	20.9	
9	楕円形	25×19	10×9	15		20	円形	18×15	9×9	23.8	
10	楕円形	31×23	11×10	28.1		21	楕円形	15×10	6×5	14.5	
11	楕円形	35×21	15×11	24							

第16表 駒林遺跡第35地点土坑一覧表(単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	221×(103)	63×(21)	133.6	
2	隅丸方形	115×97	66×64	44.1	

第17表 駒林遺跡第35地点溝一覧表(単位cm)

No	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	—	—	—	61~70	26.6
溝2	逆台形	45~90	27~37	—	14.6
溝3	U字型	70~74	34~43	—	23.2
溝4	—	—	—	40~53	59.3



第26図 駒林遺跡第35地点出土遺物(1/4)

第18表 駒林遺跡第35地点出土遺物観察表(単位cm・g)

団体番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様他	備考
第26図-1	土坑2	砾石／荒砥	6.6	3.0	2.2	87.0	全面使用	砂岩
第26図-2	堀跡	凹石	9.6	5.1	6.2	443.7	凹み1	黒雲母花崗岩
第26図-3	遺構外	炻器・壺鉢	(29.2)	-	-	-	緻織・摩呂7本単位／燒締無釉／胎土：砂粒・白褐色／口縁外帯3段、口縁内突起	甕・明石／19世紀前半
第26図-4	遺構外	織文土器・胴部					地文斜列と縱目LR／黒色粒多	加曾利E

()は推定値

第5章 駒林遺跡第37地点の調査

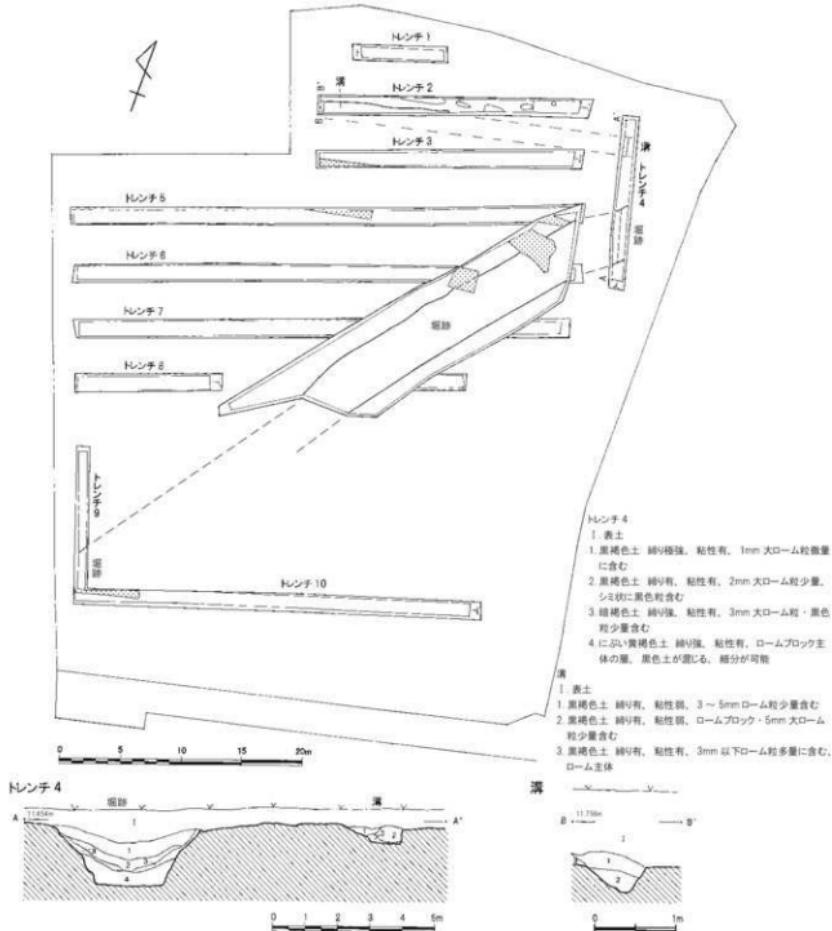
I 調査に至る経過と概要

調査は店舗建設に伴うもので、原因者より2018年2月27日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲内の東部に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、試掘調査を行った。

試掘調査は2018年3月5日～7日まで実施した。

幅約1.2～1.5mのトレンチ10本を設定し、重機による表土除去後、人力で精査を行ったところ、古代以降の堀跡、時期不明の溝を確認した。遺構確認面までの深さは約50～100cmである。建物建築予定部分に関する遺跡への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、原因者負担による本調査を実施した。

本調査は2018年3月12日～16日まで実施した。



第27図 駒林遺跡第37地点遺構配置図(1/400)、土層(1/150)、溝(1/60)

遺構への影響が生じる範囲に調査区を設定し、重機による表土除去後、人力で調査を行った。調査の結果、堀跡1本と塹に伴うピットを多数検出した。

II 遺構と遺物

(1) 塹跡

調査区の中央に位置する。走行方向はN-37°Eで、南西から北東方向に走行する。遺構の規模は上端410cm、下端130cm、深さ175cmで、断面形は逆台形を呈する。今回の調査で確認された全長は約54mで、両端とも調査区外へ延伸する。底部は、南西端から中央部にかけては比較的平坦であるが、南西端から約16m

のところで50cm程高くなる。北東端では2m四方で深く掘り込まれている。また、堀跡の両斜面ではピットを複数検出した。西側斜面に集中する傾向にある。すべてが塹に伴うものとは考えられないが、いくつかは掘削時の作業用であった可能性がある。ピットの詳細に関しては、第19表に掲載した。出土遺物は2点で、遺構に伴うものではない。覆土より採取した土壤サンプルについてテフラ分析を実施した結果、第35地点と同様に12世紀以降に埋没したものと考えられる。なお、土壤サンプル分析の詳細については附編として掲載した。

第19表 駒林遺跡第37地点ピット一覧表(単位cm)

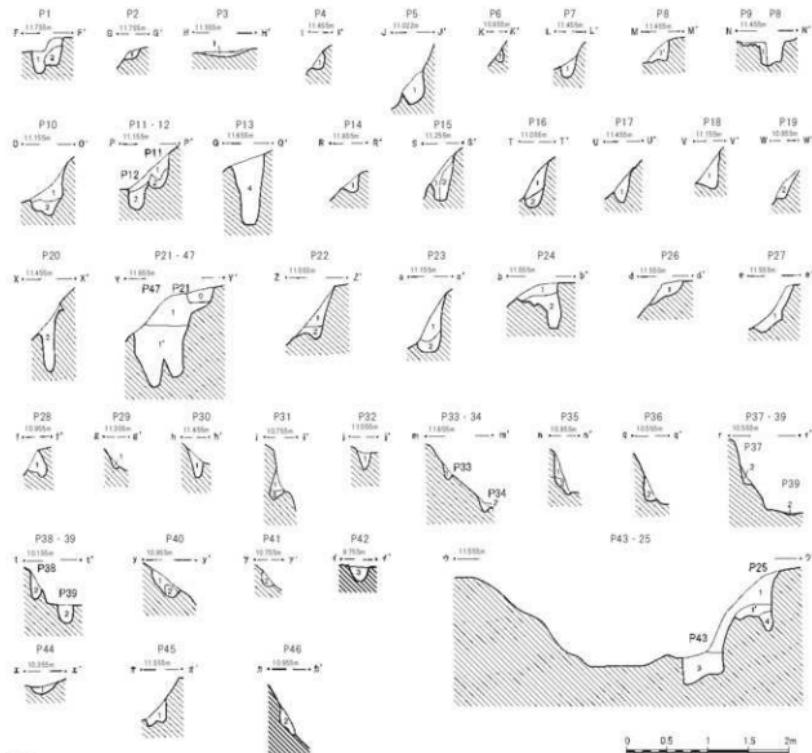
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考	No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	43×20	12×11	44		25	楕円形	68×42	10×6	73.4	
2	円形	26×26	17×17	14		26	不明	(54)×40	26×(24)	25	
3	不明	60×28	46×23	11		27	不明	(43)×34	(29)×21	53.6	
4	方形	18×13	9×7	23		28	楕円形	20×14	7×7	40	
5	楕円形	24×17	12×12	42		29	方形	18×18	11×11	18	
6	楕円形	15×6	10×4	17		30	方形	19×18	11×11	36	
7	方形	19×16	11×8	29		31	楕円形	14×10	9×8	59.9	
8	不明	25×(25)	24×14	37.4		32	方形	19×19	13×10	32.4	
9	不明	(43)×29	40×10	38.7		33	方形	19×14	11×9	18.2	
10	楕円形	48×32	23×20	76.2		34	方形	22×10	14×6	22.3	
11	楕円形	22×17	11×11	45.5		35	三角形	31×22	8×7	63	
12	楕円形	35×27	14×9	69.7		36	円形	19×18	12×11	32.2	
13	楕円形	44×22	17×9	86.7		37	楕円形	21×13	9×6	57.7	
14	方形	21×20	13×11	28.3		38	円形	20×16	9×5	29.5	
15	楕円形	32×18	21×9	66.2		39	方形	30×28	11×11	34.2	
16	方形	33×30	22×11	57.9		40	楕円形	35×24	12×7	39.7	
17	楕円形	22×18	10×7	48.4		41	円形	20×17	11×6	24.1	
18	円形	22×21	8×7	53.7		42	円形	23×23	11×10	20.3	
19	楕円形	34×20	12×11	46		43	円形	47×43	18×13	43.5	
20	円形	25×23	16×11	80.3		44	円形	30×22	11×7	17.7	
21	不整形	78×78	20×16	116.8		45	方形	27×26	10×9	31.8	
22	円形	36×34	20×14	42.1		46	楕円形	23×18	13×6	30.2	
23	方形	33×33	19×16	75.4		47	楕円形	45×26	14×14	71.1	
24	円形	64×60	9×7	53.2							

(2) 溝

溝は調査区北側に位置する。トレンチ 2 及びトレンチ 4 で検出した。東西方向に走行し、両端とも調査区外へ延伸する。上端 157 cm、下端 93 cm、深さ 52 cm を測り、断面形は U 字形を呈する。出土遺物は 1 点のみで、遺構に伴うものではない。土層の観察から近世以降に帰属するものと考えられる。

(3) 出土遺物

出土遺物については第 30 図及び第 20 表に掲載した。全体として出土量が少なく、遺構の時期を決定するようなものは出土していない。



0 深さ

1 黒褐色土 細り弱。粘性有。3~5mm ローム粒少量含む

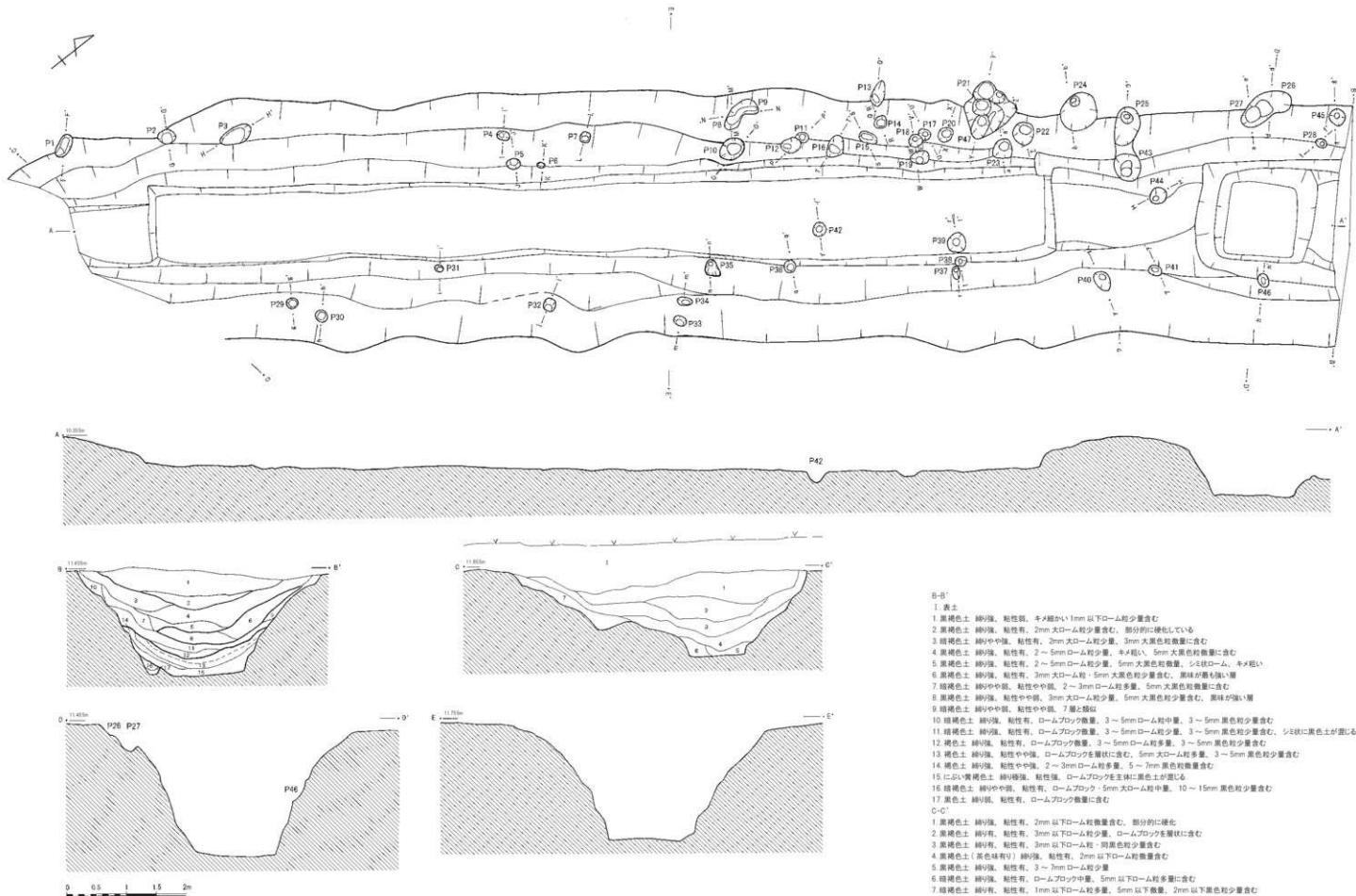
1' 1 層にコームブロックを微細に含む

2 黒褐色土 細り有。粘性有。ロームブロック - 3~5mm ローム粒少量含む

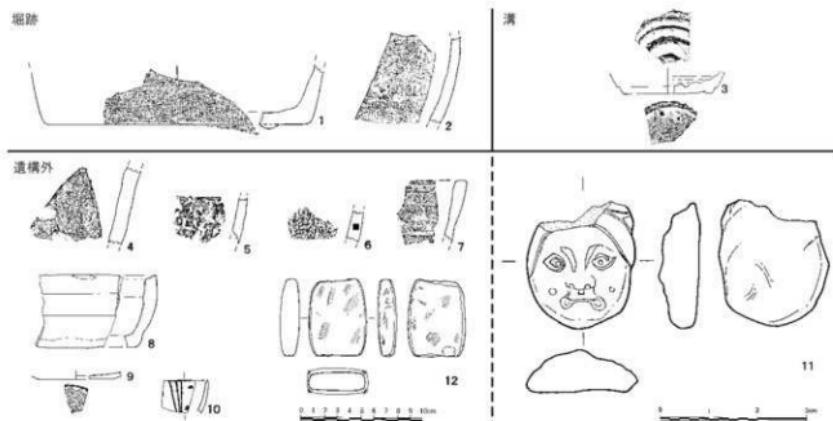
3 にじみ黄褐色土 細り弱。粘性強。ロームブロックを主体とするボロボロした土

4 黒褐色土 細り有。粘性有。3mm 以下ローム粒微量

第 28 図 駒林遺跡第 37 地点ピット群 (1/60)



第29図 駒林第37地点堀跡・ビット群(1/60)



第30図 駒林遺跡第37地点出土遺物(1/4・1/1)

第20表 駒林遺跡第37地点出土遺物観察表 (単位cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様他	備考
第30回-1	塹跡	瓦質土器・火鉢	—	(21.5)	4.9	—	輪轂成型、底面に半球状の突起をもつ、輪子による施文、外面黒色研磨	江戸近郊産 19世紀
第30回-2	塹跡	陶器・三筋壺	—	—	0.78	—	輪轂、縫跡	常滑 中世
第30回-3	溝	陶器・徳利	—	(7.3)	—	—	底部内面輪轂による沈線彫刻、系切底(回転不等形) / 高台外面釉	瀬戸・美濃系 近世
第30回-4	遺構外	須恵質・甕	—	—	—	—	白色粒多	中世
第30回-5		繩文土器・深鉢	—	—	—	—	先端鋭利な刺突具／灰白色	— 中期
第30回-6		繩文土器・深鉢	—	—	—	—	地文輪筋L / 繩維	— 後浜
第30回-7		土器・培培	—	—	—	—	輪轂成形、型押	在地系 近世
第30回-8		土器・培培	—	—	5.9	—	輪轂成形、型押／薄白・赤色粒多	在地系 近世
第30回-9		陶器・小皿	—	(5.9)	0.3	—	輪轂成型(系切底)	近世
第30回-10		磁磚・碗	—	—	0.3	—	透明白・染付	肥前系 19世紀
第30回-11		土製品・泥窓子	2.2	2.1	0.7	3.5	男性人物モチーフ／型押・型抜／明治褐色 底面に擦痕	在地系 19世紀
第30回-12		磁石・仕上延	6.3	4.7	1.5	62.2	内外面、両側面使用／凝灰岩(灰褐色) 上下面未使用 / 打製石斧再利用か	()は推定

第6章 東久保南遺跡第43地点の調査

I 遺跡の立地と環境

東久保南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐさかい川の谷頭部から、約400～500m程下った左岸に位置している。標高19～21mで、現谷底との比高差は1m以下とほぼ平坦である。さかい川は富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源をもつ伏流水で、現在は下水路となっている。なお、富士見市にも遺跡範囲は広がり、同じ東久保南遺跡で登録され、同遺跡と接して「オトウカヤマ」と呼ばれる塚がある。周辺の遺跡は、さかい川の対岸に西ノ原遺跡、下流の左岸には中沢遺跡がある。

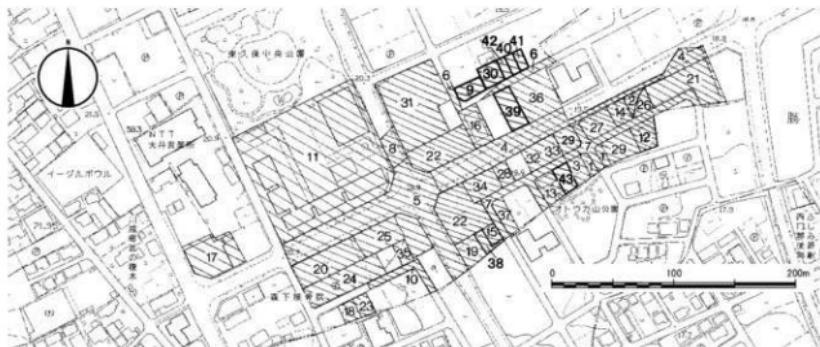
2018年3月現在43ヶ所で調査が行われ、縄文時代中期の住居跡2軒、奈良・平安時代の住居跡4軒(1軒は富士見市域内)、縄文時代の落とし穴・土坑・炉穴や時期不明の溝跡が確認されている。

II 調査に至る経過と概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2017年10月24日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。原因者と協議の結果、遺構の存在を確認するため試掘調査を行った。

試掘調査は11月1・2日に実施した。対象地の東側に関しては、第3地点として1983年に調査済みであるため、未調査の西側部分に幅約1.5～1.8mのトレチ3本を設定し、重機による表土除去後、人力で表面精査を行った。調査の結果、現地表面下約40cmのところで縄文時代の住居跡1軒、ピット4基を確認した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、遺構に影響が生じる範囲において、原因者負担による本調査を実施した。

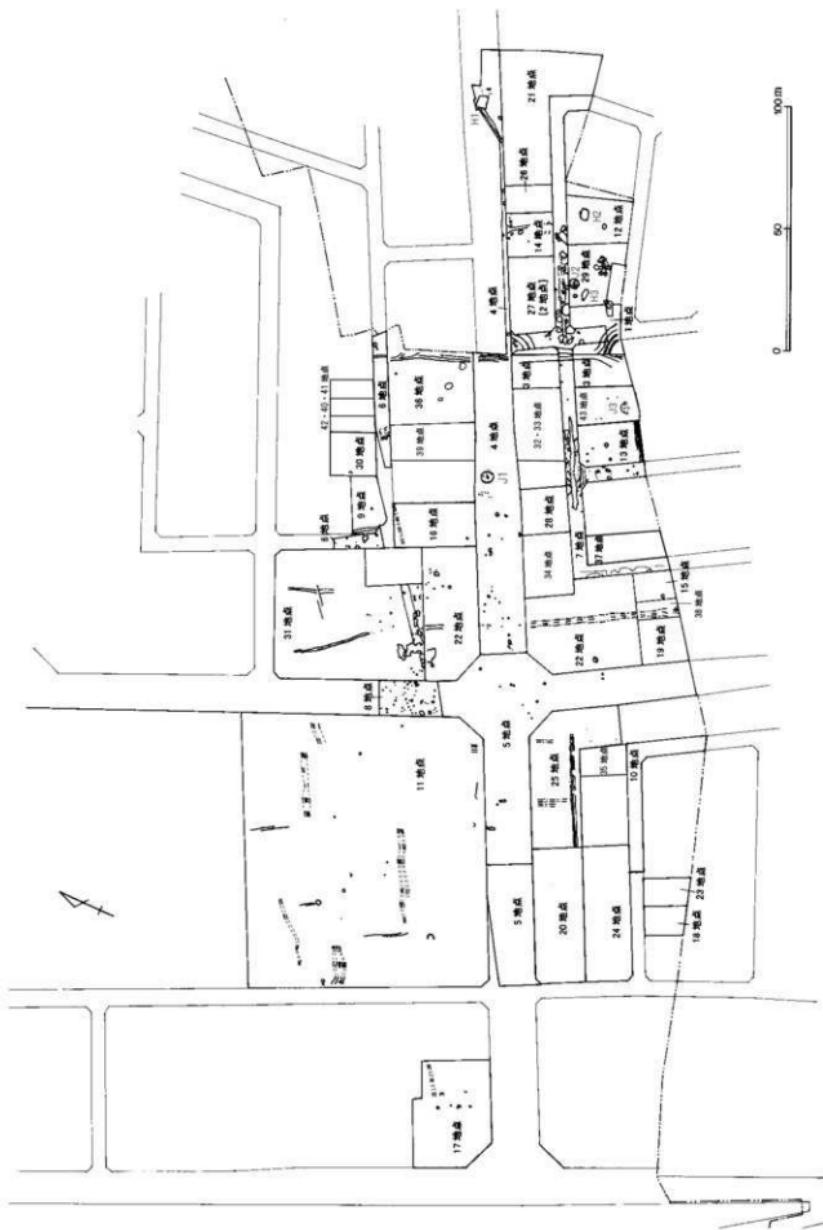
本調査は2017年11月14・15日で行い、縄文時代住居跡1軒、ピット4基、近世以降の溝1条を検出した。なお、旧石器時代の確認調査は行っていない。



第31図 東久保南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第21表 東久保南遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	東久保字東久保 547	1981.11.24 ~ 12.14	320	農地天地返し	溝1、縄文土器、石器、近世：内耳土器3	東部遺跡群Ⅲ
2	東久保字東久保 546-2	1983.5.30 ~ 6.2	264	住宅建設	ビット1	東部遺跡群Ⅴ
3	東久保字東久保 549-4	1983.6.7 ~ 7.4	326	住宅建設	溝1、縄文土器、寛永通宝1	東部遺跡群Ⅴ
4	東久保 549-1 他	1993.12.1 ~ 1994.3.18 1994.9.26 ~ 11.22	1,680 444	区画整理道路	縄文中期：住居跡1、落とし穴1、炉穴3、土坑8、ビット37、平安：住居跡1、中世以降：溝6、縄文土器等コンテナ1箱、須恵器、土師器	大井町遺跡調査会報告第14集
5	東久保 557-1・559・560 他	1994.9.26 ~ 12.19 (1996.6.17 ~ 6.21)	2,500 680	区画整理道路	縄文：土坑2、ビット12、田石器1、縄文土器片 遺構遺物なし、報告書では第4地盤の統括として掲載	大井町遺跡調査会報告第14集 町内遺跡群VI
6	東久保 551-4 他	1995.6.20 ~ 7.11 1995.11.22 ~ 12.6	480	区画整理道路	縄文：土坑3、ビット24、溝1、縄文土器片、陶磁器片	大井町遺跡調査会報告第14集
7	東久保 554 他	1995.7.12 ~ 12.5 1996.8.23 ~ 26	1,500 360	区画整理道路	縄文：落とし穴1、土坑39、ビット60、近世：溝6、骨器3枚、縄文土器片、陶磁器片	大井町遺跡調査会報告第14集
8	東久保 494 他	1995.11.16 ~ 12.13 1996.2.14 ~ 22	467 75	区画整理道路	縄文：土坑7、ビット48、縄文土器片	大井町遺跡調査会報告第14集
9	東久保 518-1	1996.7.1 ~ 3	225.02	個人住宅	縄文早期：炉穴1、ビット2、近世以降：溝1	町内遺跡群VI
10	東久保 562 他	1996.8.19 ~ 26	440	区画整理道路	ビット1	大井町遺跡調査会報告第14集
11	東久保 464・499 他	(1996.11.22 ~ 1997.1.31)	10,500	共同住宅	時期不明：ビット7、土坑1、溝8	町内遺跡群VI
12	東久保 64 街区1面地	(1997.5.8 ~ 16) (1997.5.19 ~ 6.7)	446	個人住宅	縄文：落とし穴1、平安：住居跡1、土坑1、須恵器、土師器	町内遺跡群VII
13	東久保 62 街区1・2・3面地	1997.8.25 ~ 9.1	460	個人住宅	縄文：土坑1、ビット4、溝1	町内遺跡群VII
14	東久保 63 街区2面地	(1998.6.23 ~ 7.1)	333	個人住宅	縄文：落とし穴1、屋外炉跡2、土坑1、ビット4、溝1	町内遺跡群VIII
15	東久保 60 街区6面地	(1998.7.4 ~ 9)	143	個人住宅	縄文：落とし穴1	町内遺跡群VIII
16	東久保 59 街区3面地	(1998.12.12 ~ 14)	541	共同住宅	遺構なし、縄文土器片	町内遺跡群VIII
17	東久保 46 街区9・10・17面地	(1999.1.27 ~ 2.3)	1,264	自動車ショウルーム	ビット9、溝1	町内遺跡群VIII
18	東久保 48 街区4面地	(1999.5.14 ~ 18)	202	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群IX
19	東久保 60 街区6面地	(1999.7.8 ~ 12)	466	駐車場	溝状のプラン3本確認	町内遺跡群IX
20	東久保 49 街区1面地	(1999.12.22 ~ 2000.1.15)	1,106	店舗	遺構遺物なし	町内遺跡群IX
21	東久保 64-1 街区	(2001.1.15 ~ 3.1)	1,283	共同住宅	遺構遺物なし、水成堆積した黒色土を確認	町内遺跡群X
22	東久保 60 街区1面地	(2001.2.4 ~ 15) 2001.2.14 ~ 26	2,703	中古車展示場	縄文早期：集石土坑1、炉穴14、落とし穴1、ビット11、中・近世：溝2、縄文土器、石器	町内遺跡群X、大井町遺跡調査会報告第14集
23	東久保 48 街区6面地	(2001.3.7 ~ 8)	208	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群X
24	東久保 49 街区6面地	(2001.4.2 ~ 8)	1,051	共同住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群XI
25	東久保 49 街区2・3面地	(2001.9.26 ~ 10.12)	1,388	中古車展示場	溝4、ビット33	町内遺跡群XI
26	東久保 63 街区3面地	(2001.10.30 ~ 11.1)	208	店舗	遺構遺物なし	町内遺跡群XI
27	東久保 63 街区1面地	(2002.5.29 ~ 6.7)	610	共同住宅	縄文：ビット7、溝、遺物なし	町内遺跡群XII
28	東久保 549-1・5503 (60街区3・4面地)	(2002.9.13 ~ 21)	322	共同住宅	ビット8、溝1	町内遺跡群XII
29	東久保 64-1 街区1・4面地	(2003.1.7 ~ 20) 2003.3.24 ~ 4.7	736	駐車場造成	試掘調査後本調査、縄文中期：住居跡1、炉穴12、土坑3、奈良・平安：住居跡1、中世：溝3、縄文土器、石器、土師器	大井町遺跡調査会報告第14集
30	東久保 58 街区13面地	(2003.8.4 ~ 5)	164	個人住宅	遺構・遺物なし	町内遺跡群XII
31	東久保 59 街区1・2面地	(2003.8.21 ~ 9.1) 2003.9.5 ~ 10.5	2,948	店舗	試掘調査後本調査、縄文早期：炉穴32、土坑6、ビット3、溝1、縄文土器	大井町遺跡調査会報告第14集
32	ふじみ野4-9-4の一部(60街区4面地)	(2004.1.26 ~ 29)	289	店舗	遺構遺物なし	町内遺跡群XII
33	ふじみ野4-9-4	(2004.7.8 ~ 9)	354	店舗	遺構遺物なし	町内遺跡群XII
34	ふじみ野4-9-2 (60街区2面地)	(2004.7.8 ~ 12)	555	共同住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群XII
35	ふじみ野1-5-8	(2005.1.17)	194	個人住宅	遺構遺物なし	町内遺跡群XII
36	ふじみ野4-8-7	(2005.1.21 ~ 27) 2005.2.2 ~ 15	1,005	事務所建設	縄文：落とし穴1、土坑2(風倒木痕)、溝3、縄文土器片	町内遺跡群XII、大井町調査会報告第14集
37	ふじみ野4-10-1	2005.1.7	695	駐車場	遺構・遺物なし	町内遺跡群XII
38	ふじみ野4-9-11・12	2010.10.13	177	個人住宅	遺構なし、縄文土器片、近世陶磁器片	大井町遺跡調査会報告第14集
39	ふじみ野4-8-6	(2011.8.11 ~ 16)	579	事務所	遺構遺物なし	市内遺跡群14
40	ふじみ野4-7-17	(2017.3.13)	114	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
41	ふじみ野4-7-18	(2017.5.30)	114	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
42	ふじみ野4-7-11	(2017.10.27)	114	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
43	ふじみ野4-11-2・7	(2017.11.1 ~ 2) 2017.11.14 ~ 15	469	共同住宅	縄文時代住居跡1、ビット4、近世以降溝1、縄文土器、陶磁器	市内遺跡群23



第32図 東久保南遺跡遺構分布図 (1/2,000)

III 遺構と遺物

(1) J3 号住居跡

【位置・検出状況】調査区南側に位置する。

【形状・規模】南側を擾乱によって壊されており、また住居の掘り込みが非常に浅いため、平面形態及び規模は不明であるが、長軸 480 × 短軸 360 cm 以上を測る楕円形を呈する住居であったと推測される。

【構造】ピットは 11 基検出したが、いずれも浅く支柱穴とは考えられない。住居内ピットの規模等については第 22 表に詳細を示した。

【炉】南側に位置する地床炉であると考えられる。平面形態は不整円形で、86 × 82 cm、深さ約 14 cm を測る。

【遺物出土状況】遺構確認面の時点での床面が検出されている状態だったため、出土遺物自体が少ない。住居床面直上からの出土はあまりなく、住居内ピット覆土中からの出土が多い。出土遺物の詳細については第

25 表に掲載した。

【時期】出土土器の時期が比較的加曾利 E II 式期にまとまっているため、加曾利 E II 式期前後であると推測される。

(2) ピット

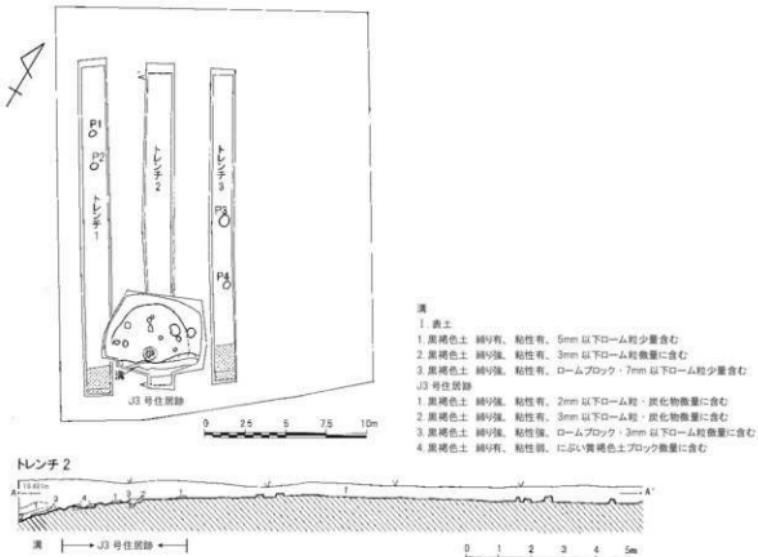
ピットの詳細については第 24 表に掲載した。土層の観察からいずれも近世以降に帰属するものと考えられる。ピット 3 で土製円盤が出土しているが、遺構に伴うものではない。

(3) 溝

調査区南側で検出した。J3 号住居跡を切って掘り込まれており、底面から南側の立ち上がりは調査区外のため確認できていない。南西から北東方向に走行し、両端とも調査区外へ延伸する。土層の観察から近世以降に帰属するものと考えられる。隣接する第 3 地点及び第 13 地点の調査でも同様の溝が検出されて

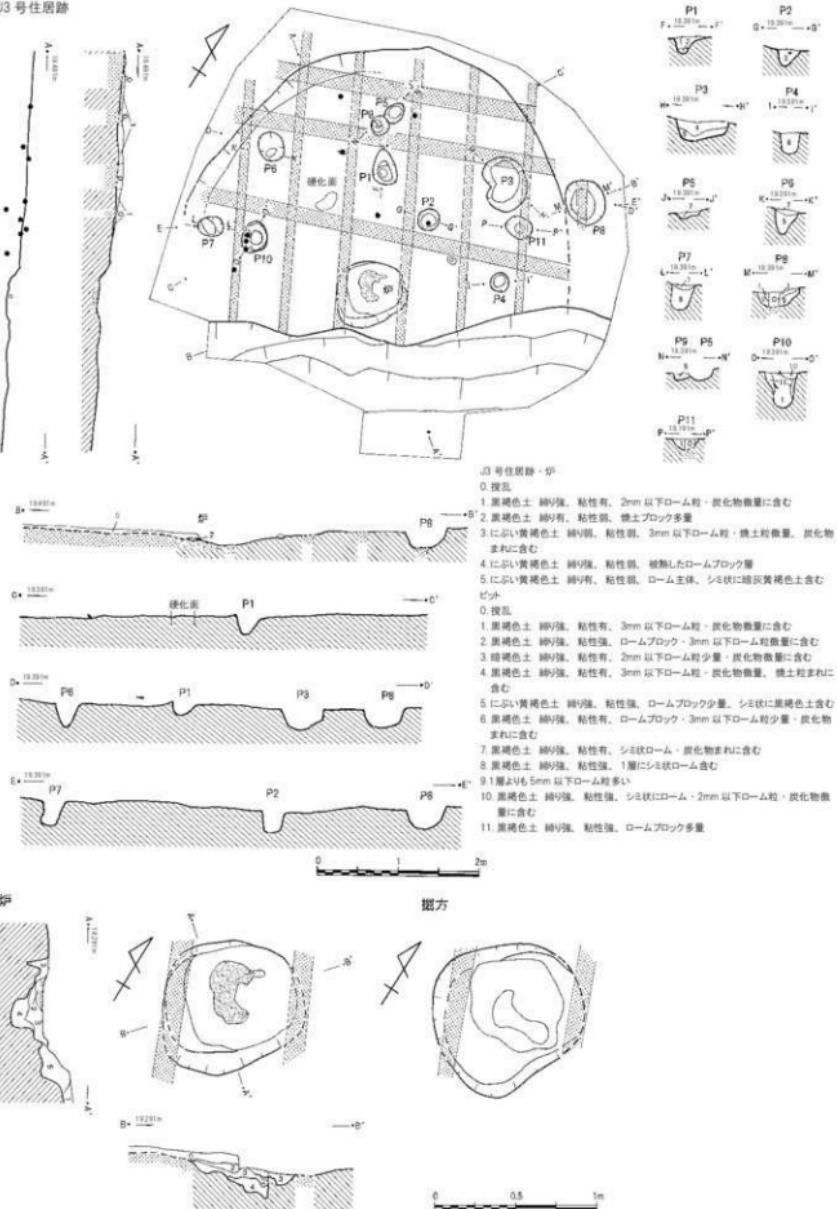
第 22 表 東久保南遺跡縄文時代住居跡一覧表 (単位 cm・g)

住居 番号	調査 年度	調査名	調査率	平面形 () は推定	規模	P ¹			埋 設 方 位	時期	備考	文献
						地床	柱体	石器				
1	1993	4 地点 J1 号住居跡	完掘	円形	445 × 490	○	○	○		加曾利 E II 中層		大井町道跡調査会 14 集
2	1993	29 地点 J2 号住居跡		楕円形	330 × 385	○	○			勝坂式新相	落とし穴と重複する。落とし穴が	大井町道跡調査会 14 集 町内道跡群 X II 本住居跡より新しいとみられる。
3	2017	43 地点 J3 号住居跡		楕円形	480 × 360	○				加曾利 E II 式前後		市内道跡群 23



第 33 図 東久保南遺跡第 43 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

J3号住居跡



第34図 東久保南遺跡第43地点 J3号住居跡・遺物出土状況(1/60)、炉・掘方(1/30)

おり、近世の根切り溝とされる。縄文土器片 1 点が出土したが、流れ込みであると考えられる。

(4) 出土遺物

出土遺物については第 35 図及び第 25 表に詳細を掲載した。全体的に出土量は少ない。

第 24 表 東久保南遺跡第 43 地点ビット一覧表
(単位 cm)

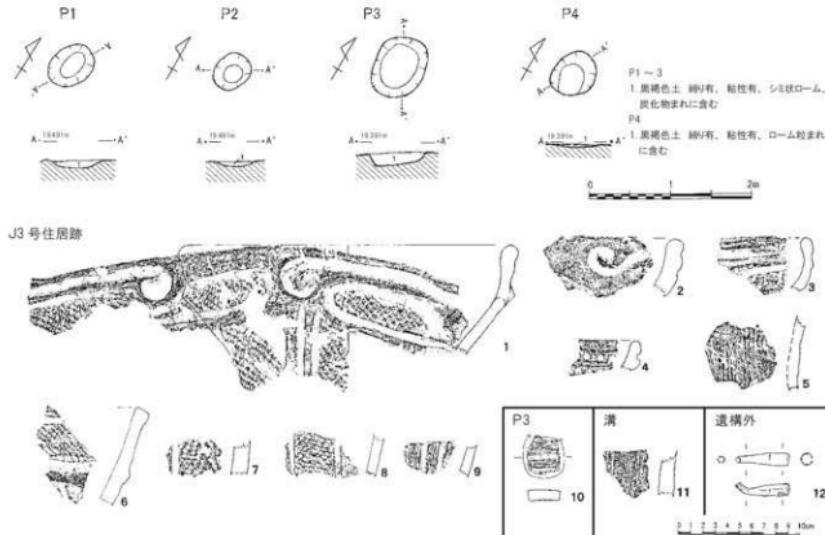
No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
P1	精円形	60×44	38×20	7.8	
P2	円形	47×40	23×20	8.8	
P3	精円形	81×66	54×42	16.2	
P4	円形	59×49	38×30	13.3	

第 23 表 東久保南遺跡第 43 地点 J3 号住居内ビット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
J3号住居P1	三角形	42×30	10×9	23.6	
J3号住居P2	円形	26×26	19×18	28.3	
J3号住居P3	たるま形	66×53	51×34	35.3	
J3号住居P4	円形	23×23	16×13	27.9	
J3号住居P5	楕円形	26×21	17×13	11.8	
J3号住居P6	円形	37×32	14×8	32.8	
J3号住居P7	楕円形	32×24	23×13	33.1	
J3号住居P8	円形	56×50	38×28	25.2	
J3号住居P9	円形	24×23	15×13	9.8	
J3号住居P10	楕円形	40×32	17×15	48.2	
J3号住居P11	円形	32×25	12×11	14.9	

第 25 表 東久保南遺跡第 43 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	器形/部位	地文/施文/胎土/備考	時期/型式
第35図-1	J3号住居跡	深鉢/口縁部～頸部	口径27cm、現存高9cm、残存40%、平坦口縁/横径LR、3本の直行懸垂、沈線渦巻文の延長で長楕円区画/橙色粒	加曾利EII
第35図-2		深鉢/口縁部	沈線による渦巻文/白色粒多・粗砂粒・明褐色	加曾利EII
第35図-3		深鉢/口縁部	沈線区画内地文LR/中砂粒・暗褐色	加曾利EII
第35図-4		深鉢/口縁部	沈線区画内地文LR/中砂粒・暗褐色	連弧文系?
第35図-5		深鉢/口縁部	沈線区画内地文LR/中砂粒・暗褐色	連弧文系
第35図-6		深鉢/口縁部	複数の輪廓状工具/粗砂粒多・暗褐色	連弧文系
第35図-7		深鉢/口縁部	沈線区画内地文標位LR/中砂粒多・内面明褐色	加曾利EII
第35図-8		深鉢/口縁部	沈線区画内地文標位RL/砂粒少	加曾利EII
第35図-9		深鉢/口縁部	沈線区画内地文標位RL/砂粒少	加曾利EII
第35図-10	P3	土製内板	土器片の三辺を直線に面取り/縫合位の櫛状工具/明褐色	連弧文系
第35図-11	溝	深鉢/口縁部	縫合位の輪廓状工具/白色微粒多・黒色砂粒・暗褐色	連弧文系
第35図-12	遺構外	銅製品・煙管・雁首	火皿欠・残存長42mm・長径0.98mm・短径0.5mm・厚さ1.02mm・合わせ目右横	



第 35 図 東久保南遺跡第 43 地点ピット (1/60)、出土遺物 (1/4)

第7章 西ノ原遺跡第158地点の調査

I 遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約300m、さかい川の谷頭部から約500m下った右岸、標高18~21mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は2~3mで、武藏野台地縁辺一段低い部分、さかい川の侵食によって作り出された低位台地上に立地する。

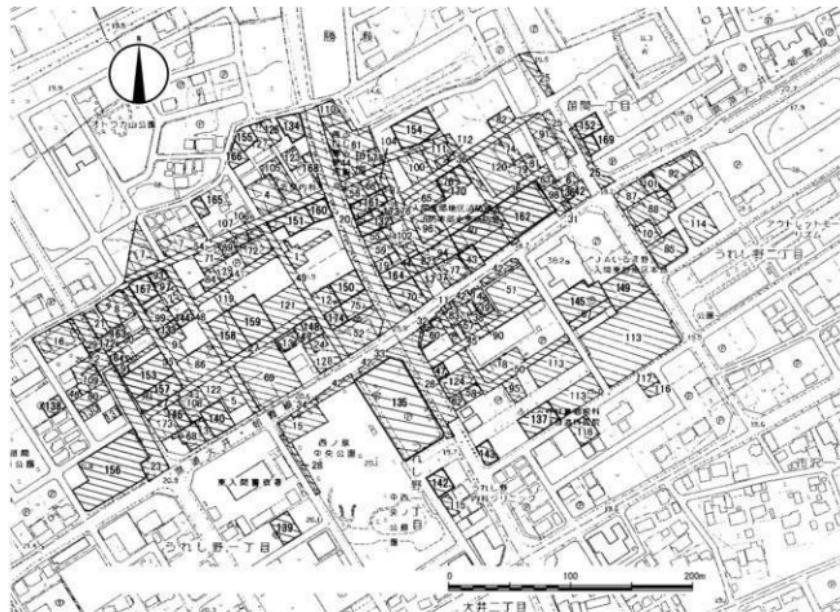
周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和40年代頃までは武藏野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴って遺跡の破壊が

進んでいる。1971年以来2018年4月現在、174地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通じ良好な大規模集落跡であったことがわかる。

II 調査に至る経過と概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より2016年12月5日付けで「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや北寄りに位置しており、2014年1月に試掘調査済みである。試掘調査の概要については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第19集『市内遺跡群18』(2016年11月刊行)に詳しいため割愛する。原因者と協議の結果、遺構への影響が避けられないため原因者負担による本調査を実施した。



第36図 西ノ原遺跡の地形と調査区(1/4,000)

第26表 西ノ原遺跡調査一覧表



第37図 西ノ原遺跡遺構分布図(1/2,000)

本調査は2017年3月23、24日の重機による表土除去後、4月4日～7月18日まで行った。残土置き場確保の関係上調査区を東西に分け、西側をA区、東側をB区とした。また南側の既存駐車場部分は工事の工程上、A区及びB区の調査終了後に実施した。その際の掘削にかかる重機等は工事主体者である株式会社住建コンサルの提供と協力を得た。

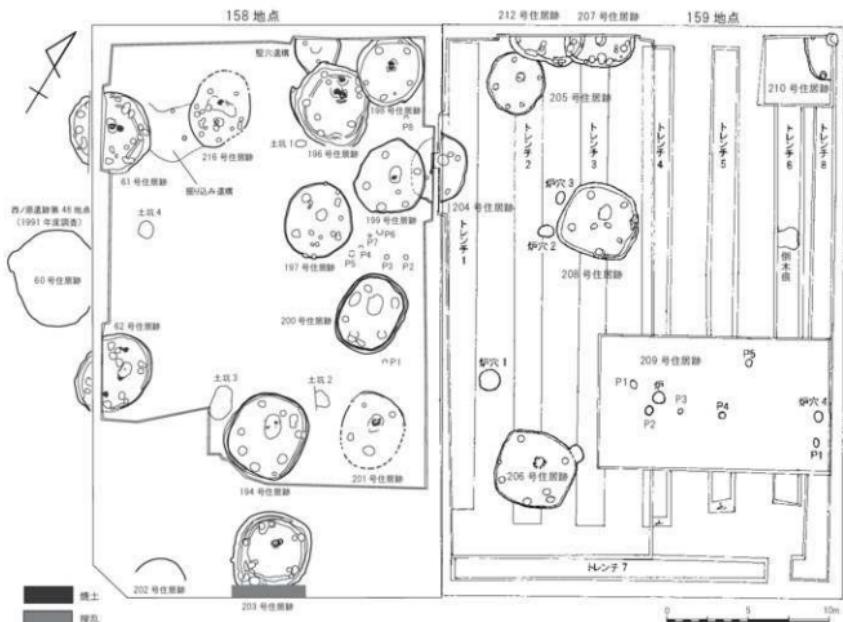
III 遺構と遺物

西ノ原遺跡では2018年3月現在、210軒を超える竪穴建物跡が検出されており、その分布は東西に双環状に広がる。この2つの環状集落には時期差があり、西側集落から東側集落へと変遷することが判明している。

本調査区は西側集落の西限に位置し、初期段階にあたると思われる竪穴建物群が検出された。標高20mのラインが調査区中央を緩断するため西から東へと緩やかな傾斜があり、調査区内での比高差は20cmほどになる。

竪穴建物跡が12軒、他に竪穴遺構1基、掘り込み遺構、土坑4基・ピット8基が検出され、遺物はコンテナで36箱を数える。出土した繩文土器は中期中葉の勝坂Ⅲ式～加曾利EⅠ式が大部分を占める。『大井町遺跡調査会報告 第6集』の西ノ原編年における西ノ原6期～10期にあたり、本章では西ノ原編年を基準に分類を行い、掲載遺物の詳細は観察表に記した。

なお、各遺構の遺物出土状況図は各遺構内すべての出土遺物を表したものではない。



第38図 西ノ原遺跡第158・159地点遺構配置図(1/300)

第28表 繩文時代中期編年対比表

大井町『西ノ原遺跡』 1996	新地平 2016	黒尾 1995	谷井他 1982	ふじみ野市報告書 2017(18集)	本書
--------------------	-------------	------------	-------------	-----------------------	----

西ノ原1期		6a	1a 中	IVb	路沢・阿玉台Ⅰb 古	
西ノ原2期	V群1類	6b	1a 新	Va	勝坂Ⅰ古・新道古・阿玉台Ⅰb新	
西ノ原3期		7a	1b	Vb	勝坂Ⅰ新・新道新・阿玉台Ⅱ古	阿玉台Ⅱ
西ノ原4期	V群2類	7b	2a 古	VI	勝坂Ⅱ古・藤内古・阿玉台Ⅱ新	
		8a	2a 新			勝坂Ⅱ
西ノ原5期		8b	2b	VII	勝坂Ⅱ新・藤内新	
西ノ原6期	V群3類	9a	3a	VIII	勝坂Ⅲ古・井戸尻・阿玉台Ⅲ古	勝坂Ⅲ新
西ノ原7期 -8期直前-		9b	3b 古		勝坂Ⅲ新・阿玉台Ⅲ新	勝坂Ⅲ
西ノ原8期	IX群1類	9c	3b 新		加曾利E I 古	加曾利E I 古
西ノ原9a期	IX群2類	10a	1a	IXa		
西ノ原9b期		10b	1b	IXb	加曾利E I 新	
西ノ原10期		10c	1c		古相	
西ノ原11期	IX群3類	11a	2a	X	中相	加曾利E I 中
西ノ原12期		11b	2b		新相	加曾利E I 新
西ノ原13期		11c	2c	XI	加曾利E II	加曾利E II
西ノ原14期	IX群4類	12a	3a	XIIa	古相	
		12b	3b	XIIb	中相	
		12c	3c	XIII	新相	
		13a	4		加曾利E III	加曾利E III
		13b		XIV	加曾利E IV	

①第61号住居跡

【位置・検出状況】 調査区北西部に東側2/3を検出。1991年度調査時に調査済みの西側1/3と合わせて調査率は100%。

【形状・規模】 西北方向にやや長い楕円形。長軸490cm×短軸440cm、深さは30cm程度である。基本的に壁はしっかり立ち上がるが、北から東にかけて、周溝の外側にある範囲では、なだらかな斜面が広く設けられ、テラス状になっている。

【構造】 ピットは22基検出された。その内、柱穴としての機能が考えられるものは15基で、構造としては6本あるいは8本主柱穴と考えられる。

周溝は東側半分のみで、ピットとの切り合いがある。

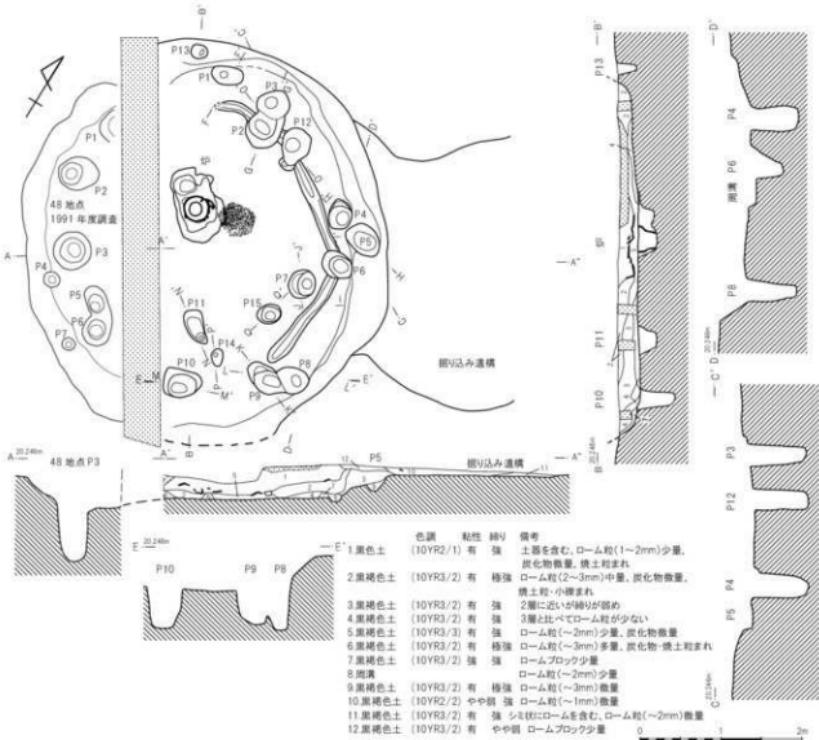
ピット同士、周溝との切り合いからは少なくとも

1回の建替え（拡張）が考えられる。

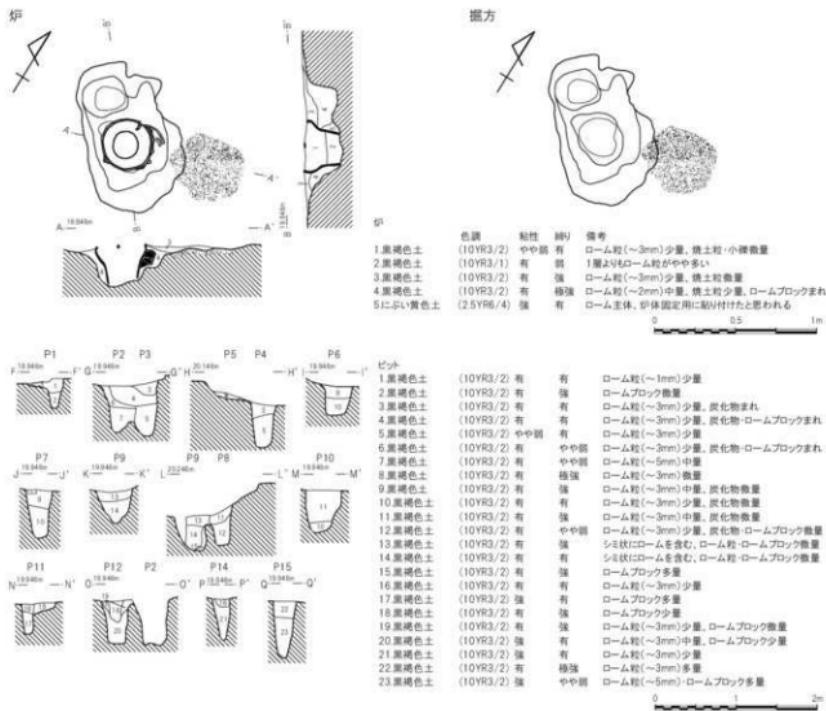
【炉】 炉体土器を持つ埋甕炉。住居中央や北西寄りに位置し、床面を20cmほど掘り込み、長軸90cm×短軸60cmを測る。南東に円形の焼土が広がる。炉体土器の脇からは、旧炉体と思われる土器の胴部破片が出土している。

【遺物】 主に覆土1層の黒色土層から出土しており、これらは住居廃絶後、5~10cm程度、覆土の堆積が始まってから廃棄されたものと考えられる。3、4、47は折り重なって出土し、5はそこから少量の土器と土の堆積を挟んで出土したが、土層に明確な違いは無く、あまり大きな時間差は無いようである。出土遺物は大部分が勝坂III式に属する。

【時期】 炉体土器から勝坂III式新段階。



第39図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡(1/60)



第40図 西ノ原遺跡第158地点 61号住居跡炉・掘方(1/30)、ピット(1/60)

第29表 西ノ原遺跡第158地点 61号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	38 × 22	9 × 7	47.3	
2	不明	(38) × 42	22 × 12	57.7	
3	楕円形	39 × 35	14 × 14	75.1	
4	楕円形	36 × 27	17 × 14	62.6	
5	楕円形	47 × 31	28 × 21	7.7	
6	楕円形	40 × 30	20 × 15	41.8	
7	楕円形	37 × 31	13 × 11	64.2	
8	不明	40 × 32	15 × 11	63.1	
9	不明	55 × 30	22 × 12	53.2	
10	楕円形	47 × 34	19 × 12	60	
11	楕円形	46 × 24	5 × 3	63.6	
12	たるま形	53 × 35	18 × 17	63.9	
13	楕円形	21 × 17	8 × 4	21.9	
14	楕円形	21 × 14	5 × 5	50.5	
15	楕円形	31 × (22)	12 × 11	70	

第30表 西ノ原遺跡第48地点 61号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	44 × (15)	18 × (15)	46	
2	楕円形	49 × 39	14 × 12	73	
3	円形	46 × 45	18 × 14	60	
4	円形	20 × 20	9 × 8	20	
5	不明	(42) × 25	12 × 10	46	
6	不明	39 × 35	15 × 15	51	
7	円形	15 × 15	8 × 7	35	測定は調査会報告書より



第41図 西ノ原遺跡第158地点61号住居跡遺物出土状況(1/30)

②第62号住居跡

【位置・検出状況】調査区西部にて東側2/3を検出。西側の1/3は1991年度調査時に調査済みであり、調査率は100%である。

【形状・規模】南北に長い楕円形。長軸475cm×短軸410cm、深さは30cm程度である。壁は急角度で立ち上がり、ほぼ垂直に近い部分もある。

【構造】ピットは13基検出され、その内柱穴として捉えられるものは9基である。住居構造は4本主柱穴であり、ピット3・4・5は人為的に埋め戻されていることから、上屋の建替えを行ったようである。

周溝は部分的に途切れながらも全周する。

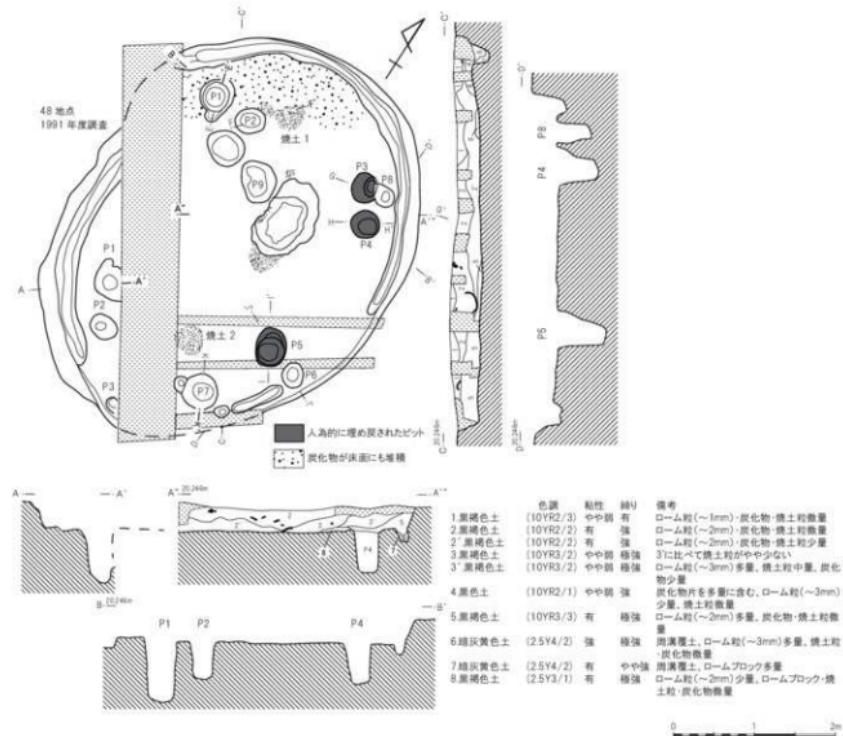
床面には炉の他に焼土が2ヶ所で検出された。また住居の北側では炭化物の碎片を多量に含む4層が堆積しており、堆積範囲の床面には炭化物が入り込むよ

どであった。焼土1はこの炭化物範囲と隣接しており、関連が窺える。

【炉】住居中央北寄りに位置し、楕円形に床面を20cmほど掘り込む地床炉。長軸96cm×短軸60cm。南側床面・西南壁面に焼土が広がる。覆土より土器片が出土しており、土器を利用していた可能性がある。

【遺物】61号住居跡同様、ほとんどの出土遺物は住居廃絶後、覆土の堆積がやや進んでもら廢棄されたものと考えられる。完形に近い浅鉢も、床面からは5cmほど浮いた状態で出土している。加曾利E I古式が主体である。曾利・大木式といった他系統も確認される。石器は他の住居跡に比べて割片石器が多い。

【時期】加曾利E I式中～新段階。

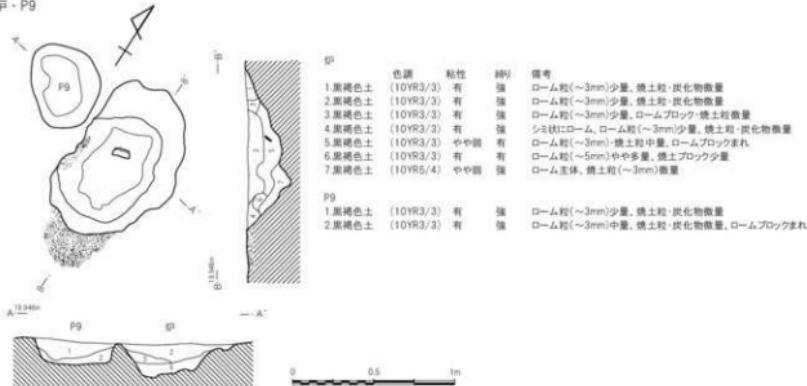


第42図 西ノ原遺跡第158地点62号住居跡(1/60)



第43図 西ノ原遺跡第158地点62号住居跡遺物出土状況(1/30)

炉・P9



第44図 西ノ原遺跡第158地点 62号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60)

第31表 西ノ原遺跡第158地点 62号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	だるま形	55×40	23×23	75.7	
2	円形	37×32	24×17	46.9	
3	不明	35×(30)	16×8	62.7	
4	円形	35×35	22×18	48.3	
5	隅丸方形	47×37	23×22	58.4	
6	円形	32×25	17×12	42.4	
7	だるま形	55×45	24×22	26.5	
8	不明	24×(22)	13×9	47	
9	橢円形	51×46	37×23	15.8	

第32表 西ノ原遺跡第48地点 62号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	50×(33)	19×18	48	深さは調査会報告書6より
2	楕円形	35×27	12×10	23	
3	不明	15×(11)	10×(8)	10.5	

③第194号住居跡

【位置・検出状況】調査区南部にて検出した。

【形状・規模】全体的に丸みを持つ隅丸長方形。長軸 520cm × 短軸 470cm、掘り込みは浅く、深くとも 15cm ほどであるが、調査区内では大型である。浅いため不明瞭だが、壁は角度を持って立ち上がる。

【構造】ピットは 10 基確認でき、柱穴と考えられるのは 6 基。やや不均等だが構造は 6 本主柱穴と考えられる。

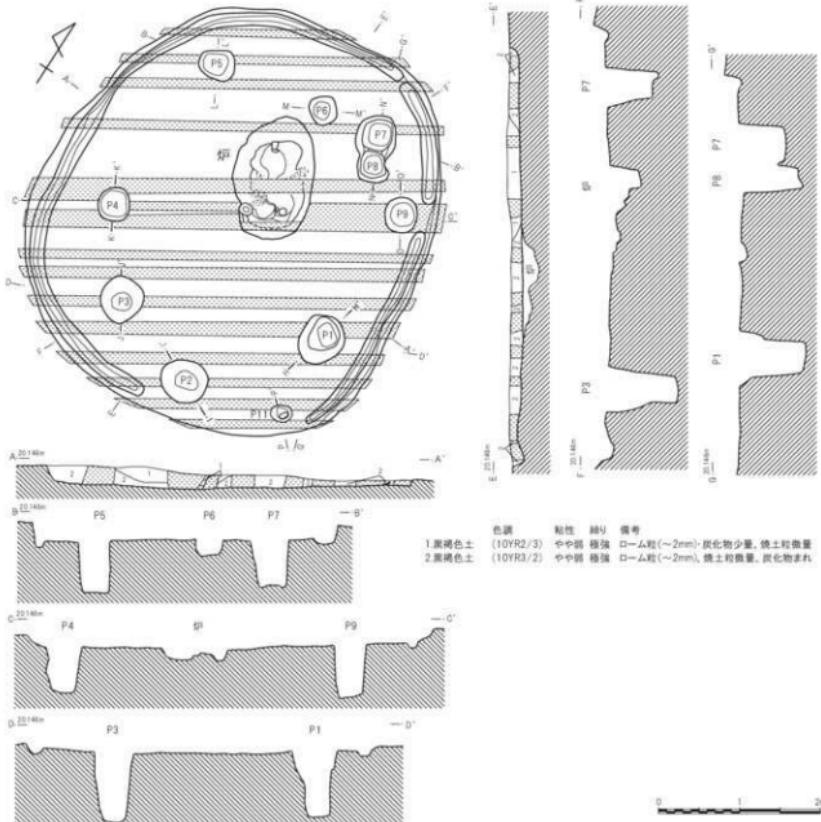
周溝は浅く、途切れながらも全周する。

【炉】住居中央北寄りに位置する。上端は橢円形で長軸 142cm × 短軸 94cm を測る。中央部が壊乱のため

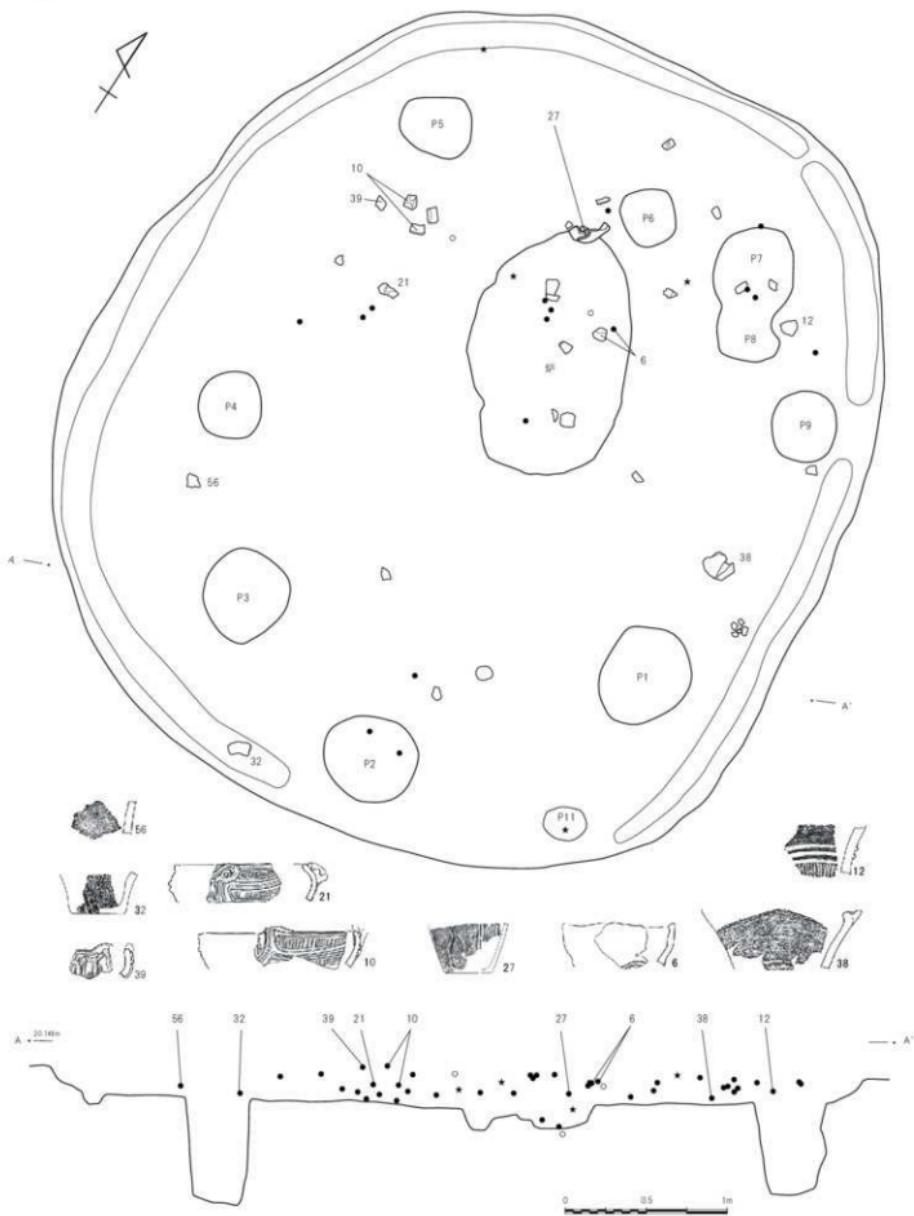
不明確だが、下端は 2ヶ所に分けられ両者の接地するくびれ部分に焼土が広がっている。構造的には炉体土器の存在がうかがわれるが、覆土中の土器は炉体とは考えにくく、作業場を設けた地床炉とみられる。

【遺物】覆土が薄いため、出土量はあまり多くない。型式別では加曾利 E I 式が大部分を占めており、地文は燃系と単節縄文、懸垂文は薩帶及び沈線によるものが混在する。

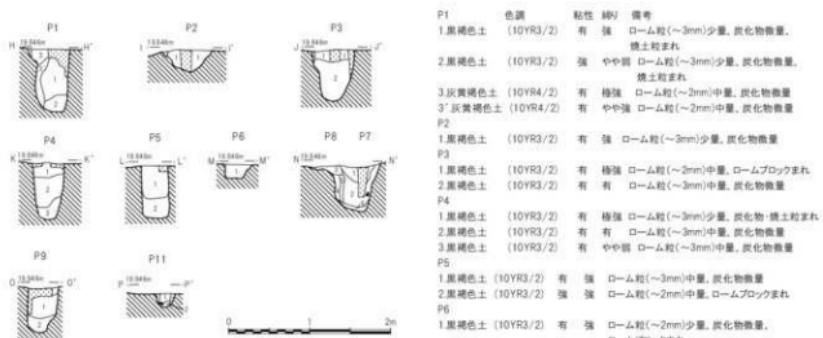
【時期】加曾利 E I 中～新段階には埋まり始める。



第45図 西ノ原遺跡第158地点194号住居跡(1/60)

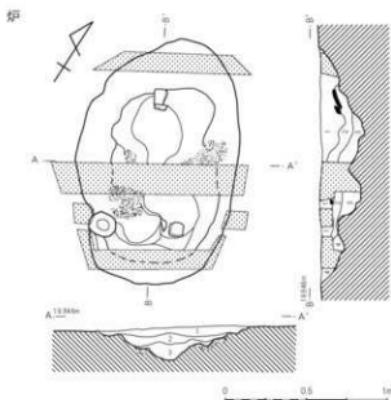


第46図 西ノ原遺跡第158地点194号住居跡遺物出土状況(1/30)



第33表 西ノ原遺跡第158地点194号住居内ピット一覧表（単位cm）

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	橢円形	63×53	26×21	81.2	
2	円形	55×53	29×21	25.2	
3	方形	58×53	25×22	87.7	
4	円形	41×39	32×30	65.1	
5	方形	44×37	30×25	63.9	
6	方形	34×31	20×20	19.1	
7	不明	(57)×50	27×26	58	
8	不明	(38)×37	23×22	76.1	
9	円形	43×40	29×28	58.9	
10欠					
11	橢円形	26×20	15×13	164	



- 1. 黒褐色土 (10YR3/2) 有 強 ローム粒(～2mm)中量、焼土粒少量、炭化物微量
- 2. 黒褐色土 (10YR3/2) 有 強 焼土粒(～2mm)中量、ローム粒・炭化物微量、焼土ブロックまれ
- 3. にがい 黑褐色土 (10YR4/3) やや強 極強 ローム粒(～2mm)多量
- 4. 黑褐色土 (10YR3/2) 有 強 ローム粒(～2mm)少量

第47図 西ノ原遺跡第158地点194号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60)

④第196号住居跡

【位置・検出状況】調査区北部にて検出。竪穴造構、198号住居跡と切り合う。198号住居跡と切り合う部分では覆土が薄く、不鮮明であったが、本造構が両者より新しいものと考えられる。

【形態・規模】隅丸長方形で長軸495cm×短軸460cm、深さは25cm程度。壁は角度を持って立ち上がるが、部分的に周溝外に浅くはみ出す。

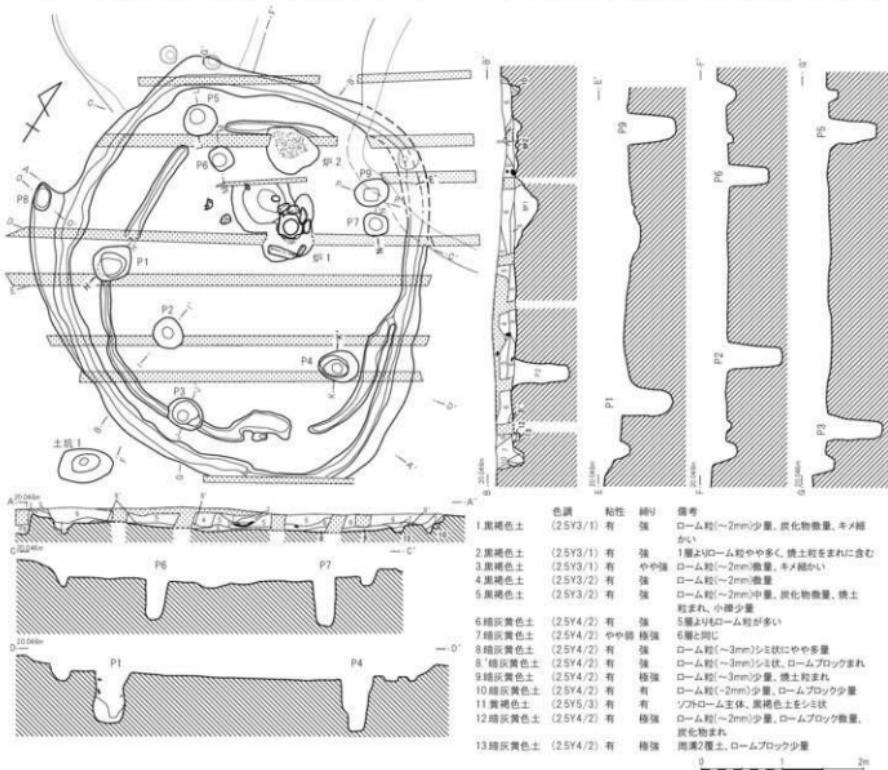
【構造】住居跡は最低1回の拡張が行われている。ビットは9基検出し、内8基が柱穴と考えられる。拡張前は4本主柱穴であったが、拡張後は5本主柱穴となっている。なお拡張前の柱穴に人為的に埋め戻された様子はない。

周溝は拡張前後1本ずつ、どちらとも全周する。

【炉】炉は住居北部に2ヶ所検出された。炉1は長軸90cm×短軸(50)cmを測り、炉体土器と、その周囲

に石匂いを伴う。拡張後住居の主要な炉であろう。石匂いの南側辺には長大な砂岩を用い、炉体土器との間に空間を持つ。擾乱のため残りは悪いが、この場所に焼土が確認できる。他にも炉内には4~7cmほどの被熱した小礫が6点ほど出土しており、石匂いに用いられていた可能性がある。西側に接する直径75cmほどの円形の掘り込みの覆土には、ローム・焼土ブロックを含む層があり拡張前の炉の可能性がある。炉2は炉1のさらに北に位置し、長軸70cm×短軸50cm、深さは15cm程度である。拡張後住居に伴うものである。

【遺物】覆土上層から下層まで幅を持って出土し、やや離れた位置での接合例がみられる。型式的には加曾利E I式が主体を占め、地文は燃系及び単節縄文、隆帶を用いるものが多数だが、沈線を用いるものも存在する。床面上直から、曾利I式の深鉢が出土したほか、

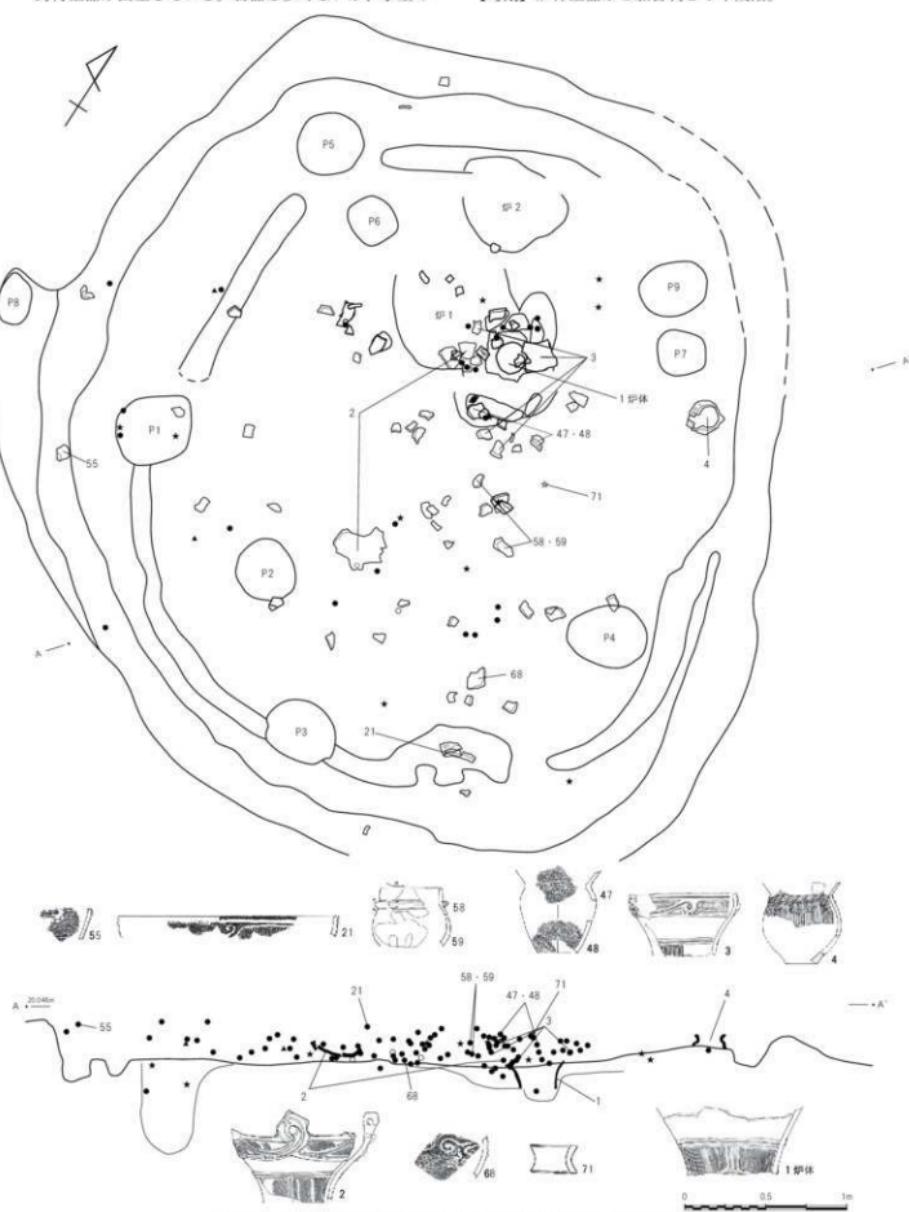


第48図 西ノ原遺跡第158地点196号住居跡(1/60)

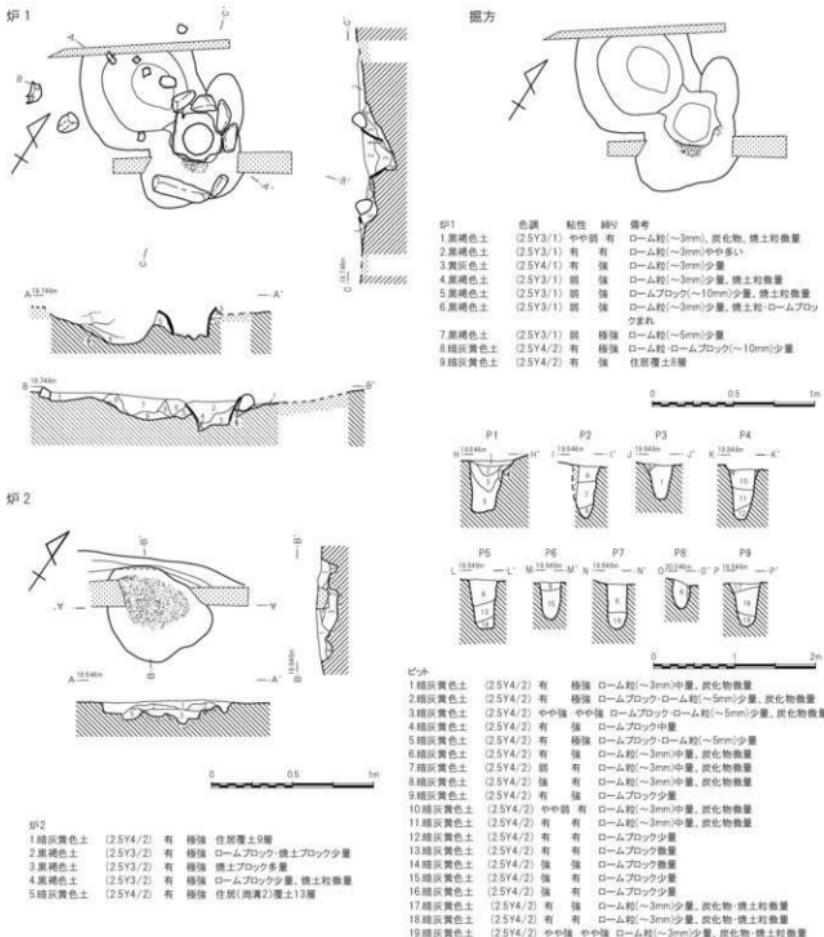
土製耳飾が覆土上層から、中層からは赤彩された有孔
釦付土器が出土している。石器は多くないが、小型の

磨製石斧が床面から出土している。

【時期】炉体土器から加曾利 E 1 中段階。



第49図 西ノ原遺跡第158地点 196号住居跡遺物出土状況(1/30)



第50図 西ノ原遺跡第158地点196号住居内炉体礫一覧表(単位cm・個数・g(%))

第34表 西ノ原遺跡第158地点196号住居内炉体礫一覧表(単位cm・個数・g(%))

No.	石材	長さ×幅×高さ(cm)	重量(g)	備考
1	中粒砂岩	35 × 12 × 10	5.88	6・7上同質
2	中粒砂岩	15 × 12 × 7	1.63	4と同質
3	細粒砂岩	18 × 8 × 10	2.22	土器と接触する部分が薄く黒化
4	細粒砂岩	20 × 11 × 6	2.35	
5	ホルンフェルス	15 × 10 × 9	1.6	
6・7	中粒砂岩	27 × 12 × 10	3.72	接合
8	細粒砂岩	13 × 9 × 7	1.05	

第35表 西ノ原遺跡第158地点196号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	楕円形	52 × 43	24 × 21	65.8	
2	円形	38 × 35	14 × 13	70.8	
3	楕円形	46 × 36	14 × 12	67.8	
4	楕円形	50 × 39	13 × 12	70	
5	円形	40 × 37	18 × 18	60.3	
6	方形	29 × 27	17 × 16	51	
7	方形	30 × 28	16 × 16	57.5	
8	楕円形	34 × 20	23 × 16	43.3	
9	楕円形	42 × 33	19 × 15	59.5	

⑤第197号住居跡

【位置・検出状況】調査区中央東寄りに検出。

【形状・規模】南北にやや長い楕円形。長軸 460cm × 短軸 420cm。深さは 30cm 程度である。壁の立ち上がりは弱く、皿状を呈する。

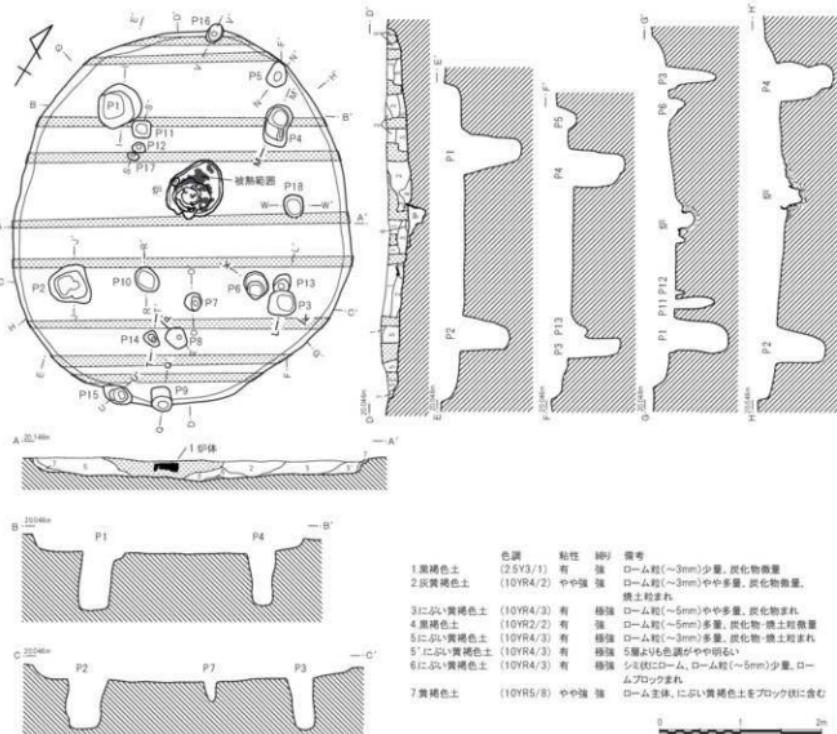
【柱穴・ピット】ピットは 18 基検出。構造は 4 本主柱穴。住居南側に住居軸に沿ったピット列があり、入口施設の存在が考えられる。

【炉】炉体土器を作成する埋甕炉。炉体を埋設した周囲、長軸 70cm × 短軸 60cm の範囲を浅く掘り込む。炉体土器内面や周囲のロームには被熱の痕跡が確認できるが、焼土は確認できず、また覆土中の堆積も僅かである。

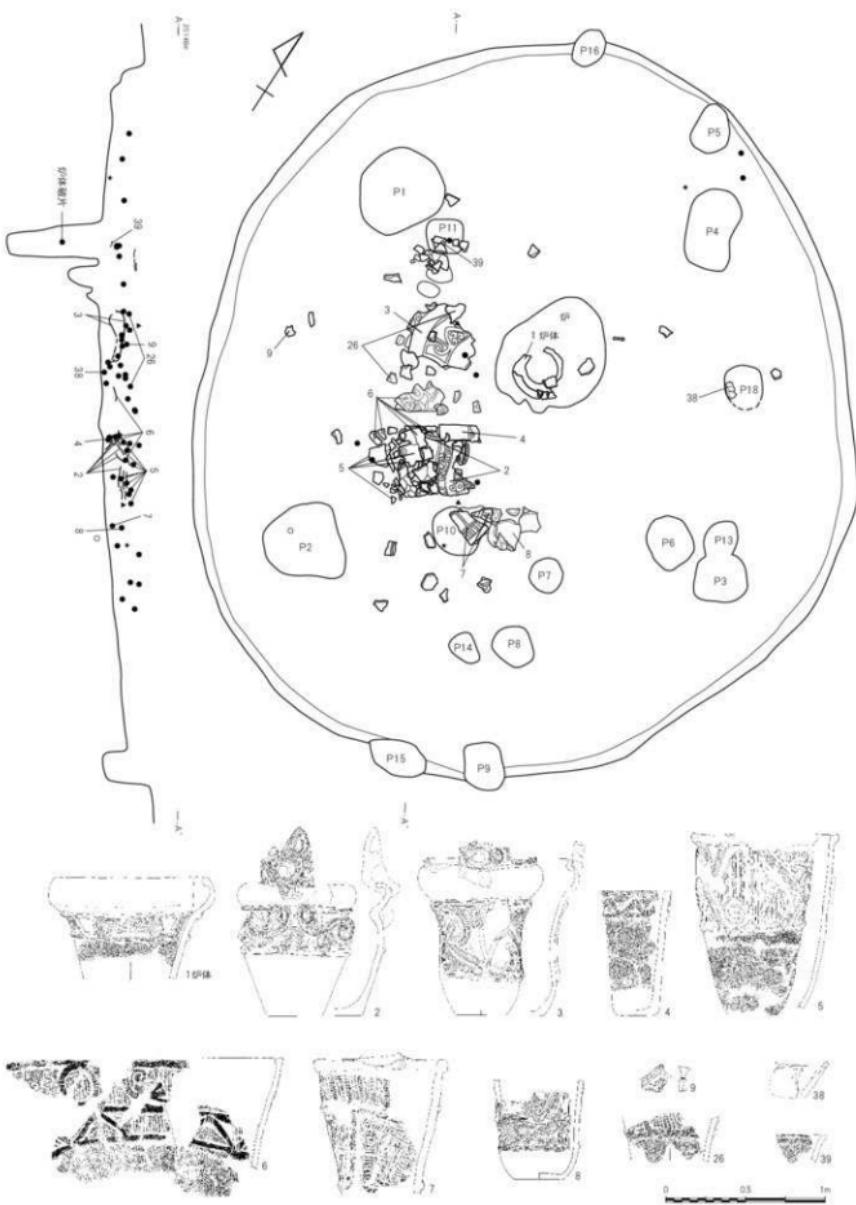
【遺物】完形に近い土器が 7 個体、住居中央西寄りに重なって出土した。床面との間に土の堆積を挟むが、土器群は短期間に廃棄されたものと見られる。

なお破片には阿玉台式から加曾利 E I 式までみられる。

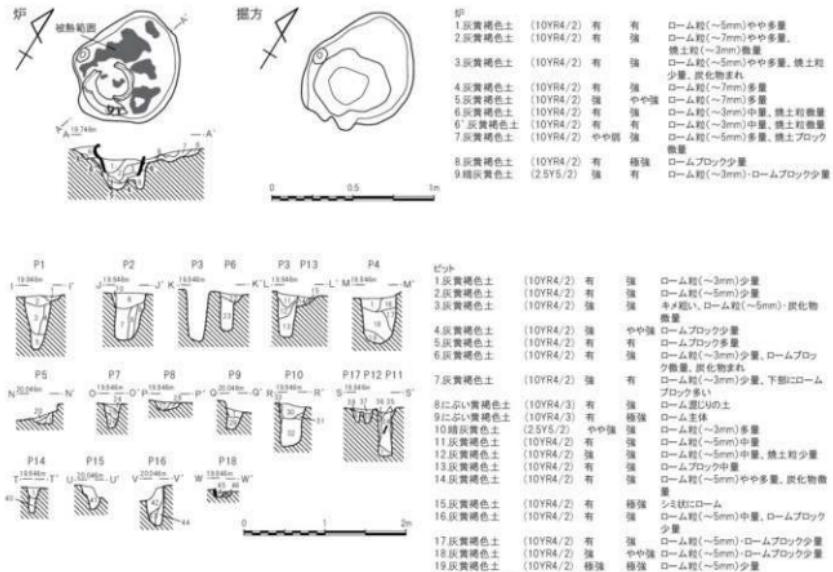
【時期】炉体土器から勝坂 III 新段階。



第 51 図 西ノ原遺跡第 158 地点 197 号住居跡 (1/60)



第52図 西ノ原遺跡第158地点197号住居跡遺物出土状況(1/30)



第36表 西ノ原遺跡第158地点197号住居内ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
1	円形	54 × 50	31 × 25	74.7	
2	方形	50 × 47	23 × 20	61.8	
3	方形	33 × 30	19 × 18	66.6	
4	だるま形	50 × 31	18 × 16	70.1	
5	円形	29 × 23	13 × 7	16.3	
6	円形	14 × 13	14 × 13	50.7	
7	円形	21 × 19	7 × 5	30.6	
8	円形	27 × 23	5 × 5	16.7	
9	だるま形	30 × 24	12 × 9	36.6	
10	円形	33 × 26	22 × 17	61.4	
11	方形	23 × 21	13 × 11	60.3	
12	横円形	16 × 12	6 × 5	18.2	
13	不明	(25) × 20	7 × 7	18.2	
14	方形	21 × 15	4 × 3	32.8	
15	不明	38 × (22)	10 × 7	30.2	
16	横円形	25 × 19	6 × 6	50.4	
17	横円形	14 × 9	6 × 3	17	
18	不明	(27) × 23	19 × 15	12	

第53図 西ノ原遺跡第158地点197号住居跡炉・掘方(1/30)、ピット(1/60)

⑥第198号住居跡

【位置・検出状況】調査区北隅に検出。南部を196号住居に浅く切られる。

【形状・規模】楕円形で長軸440cm×短軸410cm、深さ30cm程度。壁の立ち上がりは緩やかで皿状を呈する。

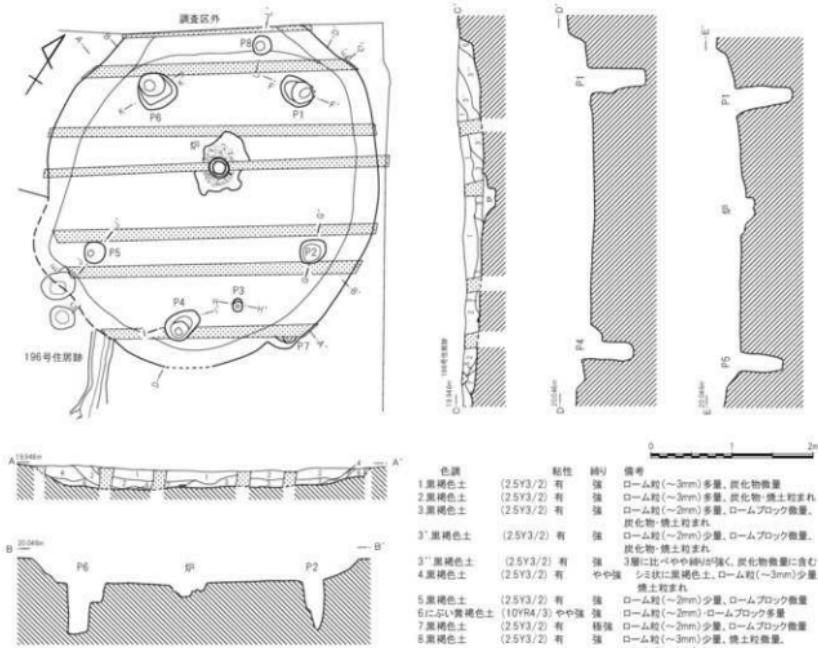
【構造】ピットは8基検出。住居構造は5本主柱穴。

【炉】中央に位置し、炉体土器を伴う埋葬炉。やや不定形の楕円状で長軸75cm×短軸60cm、深さは

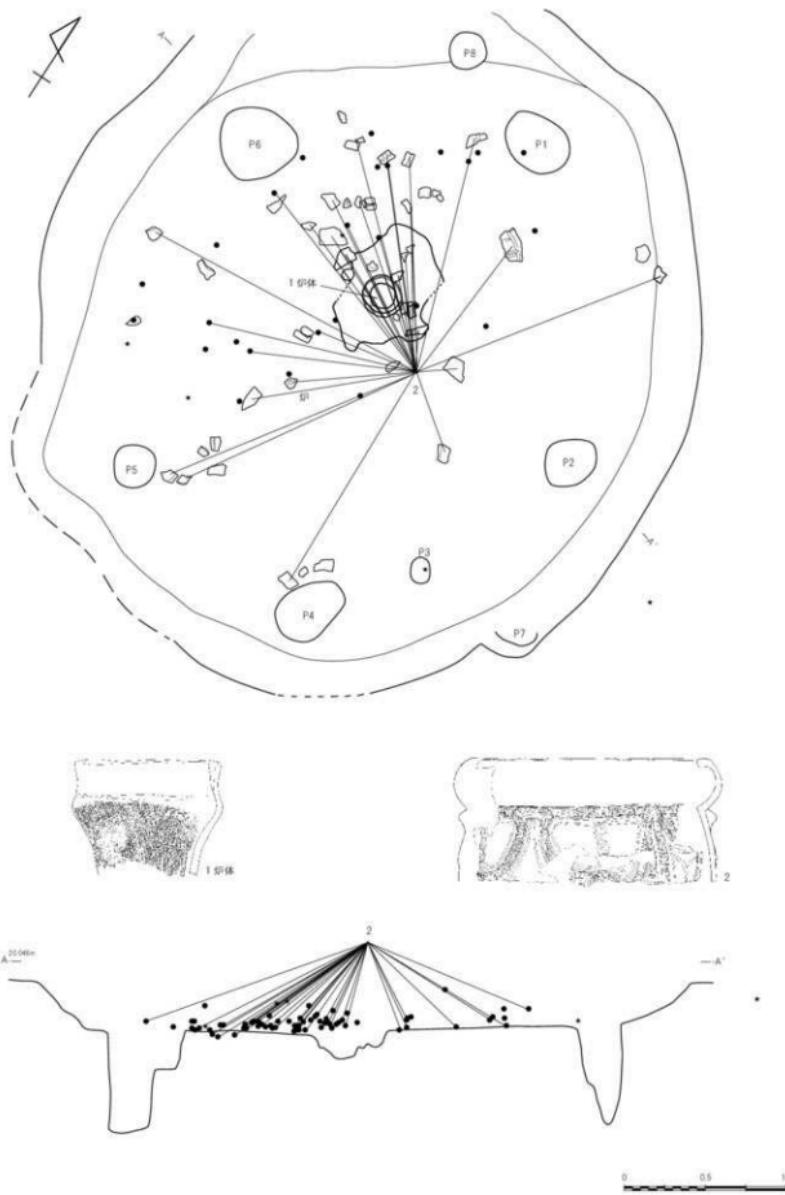
20cmほど。炉体周囲には被熱が確認される。

【遺物】住居下層に多く出土。1個体の口縁部～胴上半部が復元された。住居床面～下層、西部を中心には破片が散乱しており、廃棄状況をうかがわせる。当土器の口縁部及び胴部内面には煤の付着が見られ、また残存形状からも他の住居等で炉体として用いられていたものと考えられる。

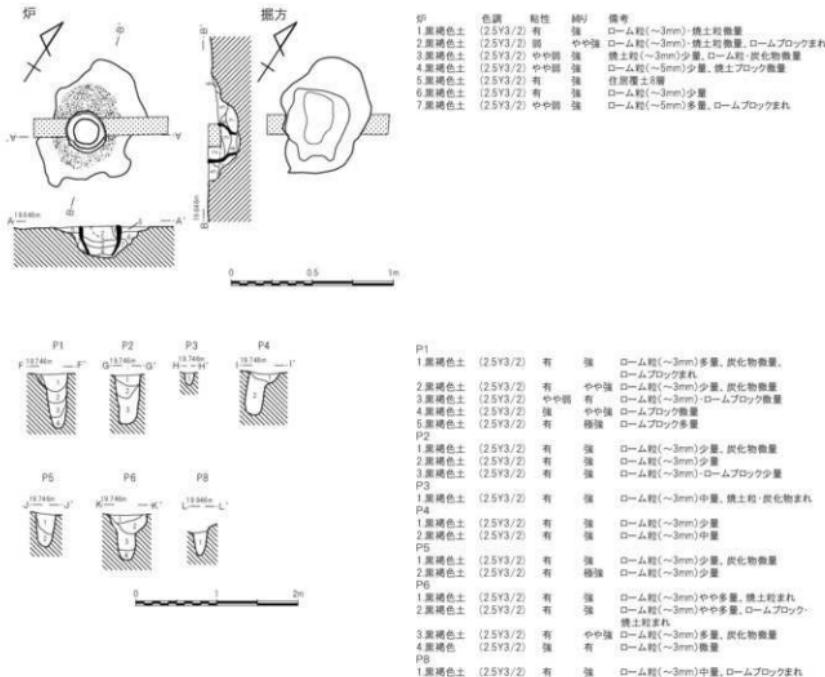
【時期】炉体土器より勝坂Ⅲ式。



第54図 西ノ原遺跡第158地点198号住居跡(1/60)



第 55 図 西ノ原遺跡第 158 地点 198 号住居跡遺物出土状況 (1/30)



第56図 西ノ原遺跡第158地点198号住居跡炉・掘方(1/30)、ピット(1/60)

第37表 西ノ原遺跡第158地点198号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
1	橢円形	44×33	15×9	71.3	
2	不明	34×29	22×20	68.3	
3	円形	15×11	4×3	17.7	
4	橢円形	44×32	8×7	61.8	
5	円形	27×25	7×6	56.6	
6	不明	46×46	13×13	63.2	
7	不明	40×(13)	6×(3)	43.1	
8	円形	23×22	11×11	38	

⑦第199号住居跡

【位置・検出状況】調査区北部に検出。204号住居跡と切り合う。掘り込みが浅く判然とはしないが、199号住居跡が新しいと思われる。

【形状・規模】壁の立ち上がりは不鮮明であったが、長軸480cm×短軸410cmの楕円形となる。深さは10cm程度。

【構造】ピットは5基検出し、構造は4本主柱穴である。

【炉】中央に位置する地床炉。楕円形で長軸100cm×短軸70cm、深さは15cm程度。

【遺物】出土数はあまり多くない。勝坂Ⅲ式をわずかに含むが、主体は加曾利E I式新段階。櫛糸地文で隆起による文様をもつものが多く、単節繩文と沈線を

用いるものも出土している。大型の浅鉢は床面から少し浮いた状態で出土した。

【時期】加曾利E I式の新段階と考えられる。

⑨第204号住居跡

【位置・検出状況】調査区北部に約1/2を検出、東側半分は2014年度調査済(第159地点)である。

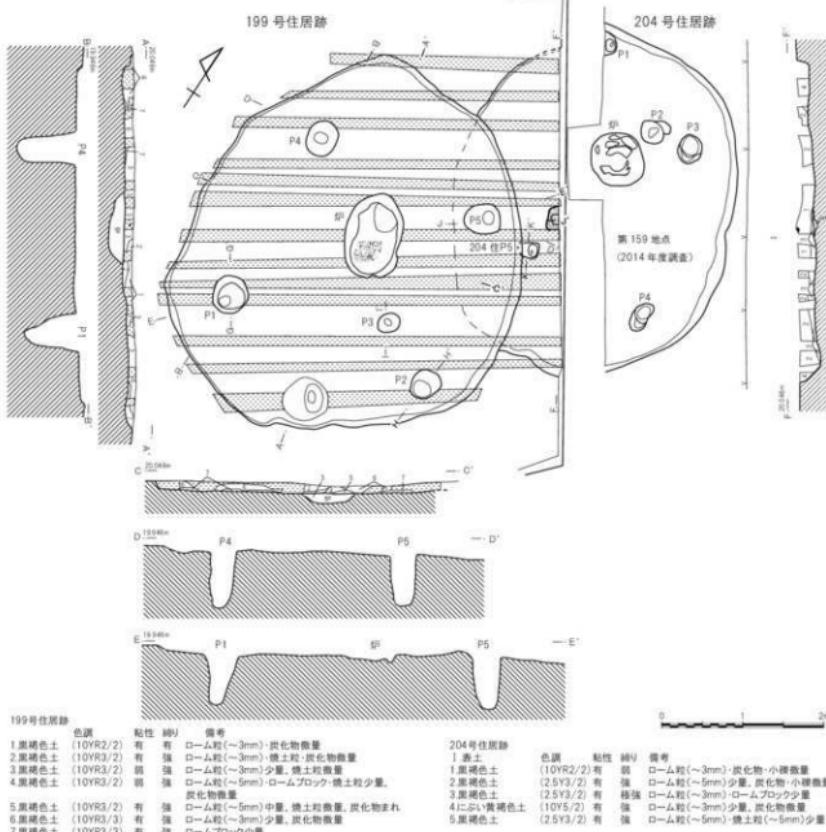
【形状・規模】南北に長い楕円形。

【柱穴・ピット・周溝】本調査では1基検出。いずれも規模は小さいが、4本主柱穴と考えられる。

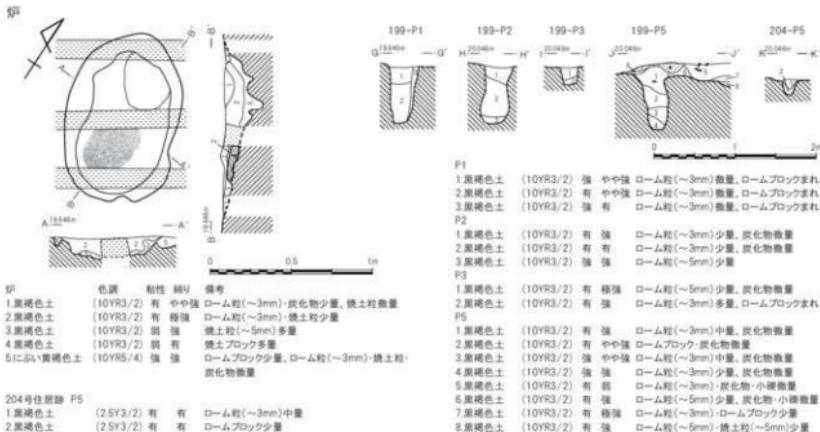
【炉】159地点にて確認。炉体土器と石回いを伴う。

【遺物】出土量は少なく、破片のみであるが、中～下層にかけて出土がみられた。

【時期】炉体土器から加曾利E I式の新段階。



第57図 西ノ原遺跡第158地点 199・204号住居跡(1/60)



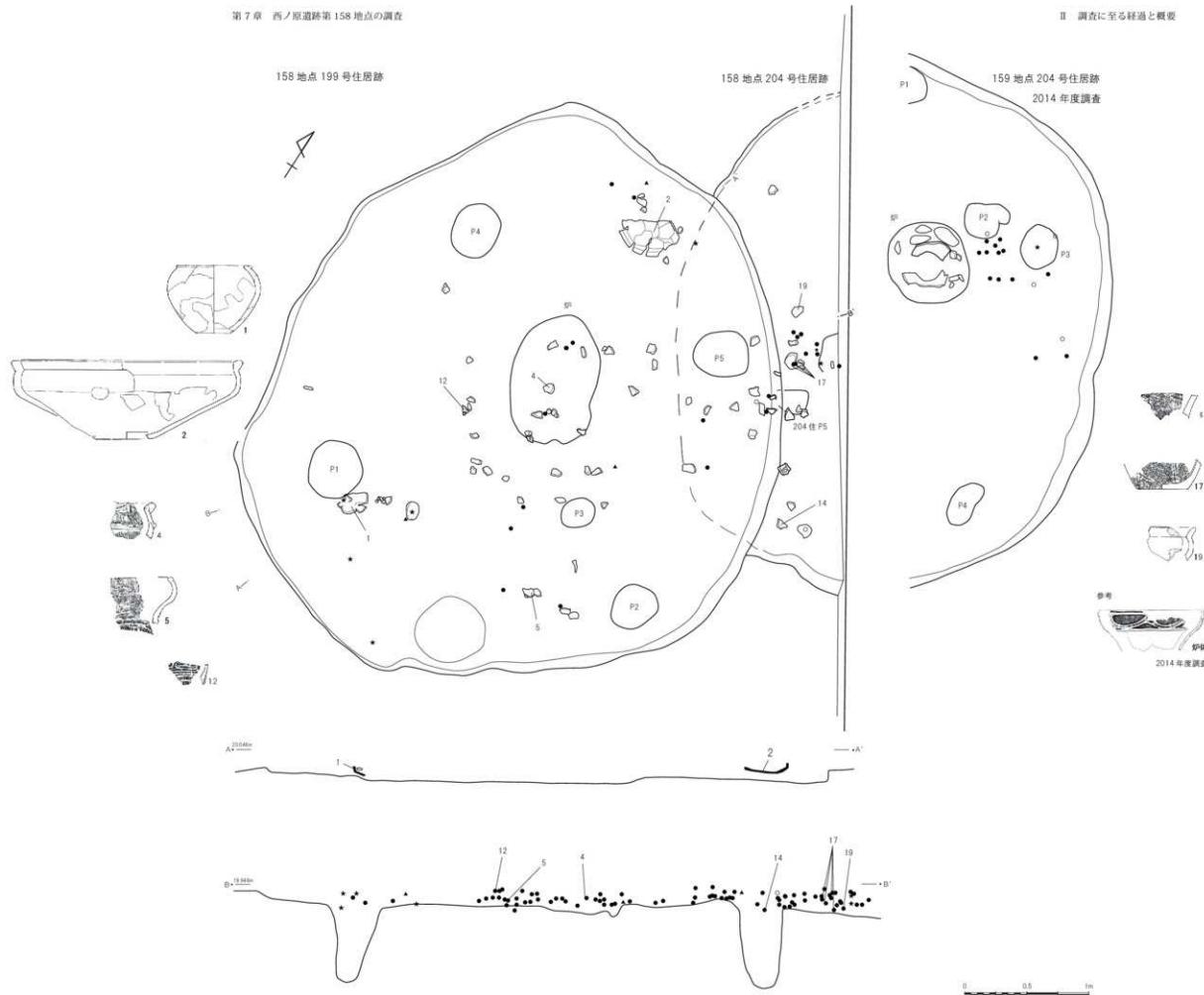
第58図 西ノ原遺跡第158地点 199号住居跡炉 (1/30)、ピット (1/60)

第38表 西ノ原遺跡第158地点 199号住居内ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	46 × 43	15 × 11	62.8	
2	円形	37 × 35	22 × 18	71.4	
3	円形	26 × 23	10 × 7	22	
4	円形	44 × 36	17 × 13	72.2	
5	橢円形	45 × 36	17 × 13	65	

第39表 西ノ原遺跡第158地点 204号住居内ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	29 × 13	6 × 3	27.8	
2	だるま形	36 × 28	13 × 9	15.7	
3	円形	(35) × 29	22 × 20	30.8	
4	橢円形	39 × 21	18 × 14	55.4	
5	不明	26 × 19	3 × 4	14.8	



第59図 西ノ原遺跡第158地点 199・204号住居跡出土状況(1/30)

⑥第 200 号住居跡

【位置・検出状況】調査区東部に検出。調査率 100%。【形状・規模】楕円に近い隅丸長方形。長軸 490cm × 短軸 390cm、深さは 40cm。深く掘り込まれ、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

【構造】ピットは 7 基確認され、主柱穴は 4 本である。周溝は 20cm 程度の深さをもって全周する。

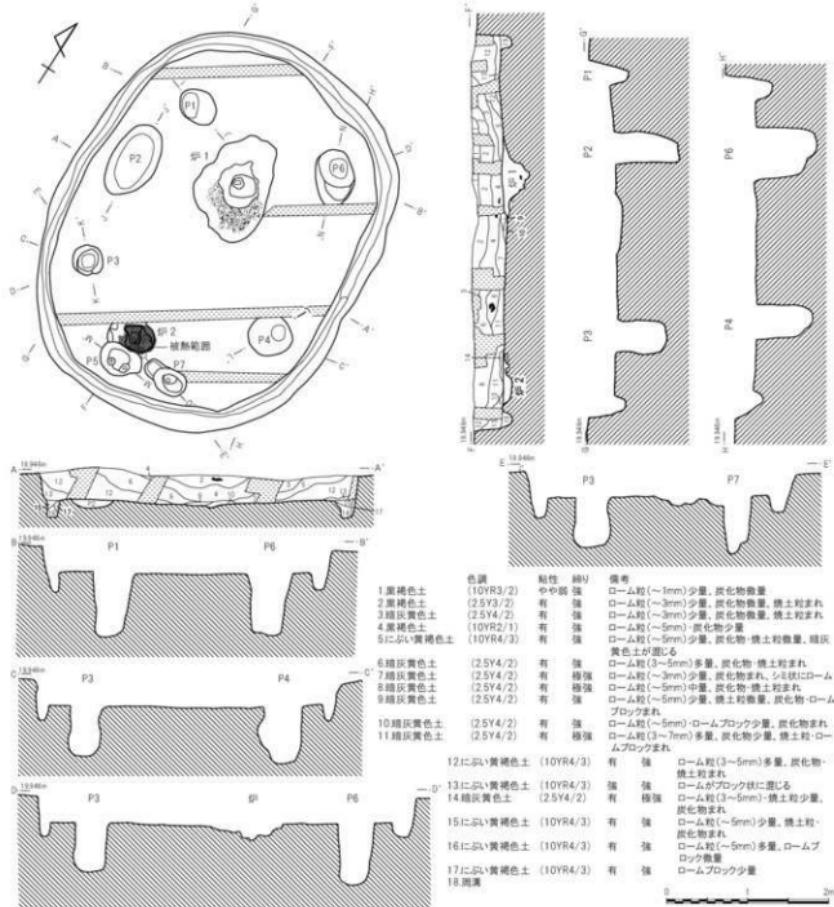
【炉】住居中央北寄りと南部に 2 基確認。両者共地床炉。炉 1 は平面は長軸 120cm × 短軸 90cm の楕円形を呈し、特に中央 50cm ほどの範囲は断面 V 字状に掘り

込まれ、深さ 30cm ほどに達する。

炉 2 は長軸 50cm × 短軸 35cm の楕円形で、深さは 5 ~ 10cm 程度で浅く掘り込まれる。

【遺物】住居中央部及び、覆土中層に多く分布し、土器・石器ともに出土量は多い。勝坂式も出土しているが、加曾利 E-I 式新段階が主体である。地文に撚糸や単節繩文を用い、隆帯により文様や懸垂文を施したものが多く、沈線による懸垂文などはみられない。石器は打製石斧が多く、ホルンフェルス製が目立つ。

【時期】加曾利 E-I 式新段階前半。



第 60 図 西ノ原遺跡第 158 地点 200 号住居跡 (1/60)



第61図 西ノ原遺跡第158地点200号住居跡遺物出土状況(1/30)

II 調査に至る経過と概要



第40表 西ノ原遺跡第158地点200号住居内ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底深	備考
1	楕円形	50 × 39	32 × 21	80.7
2	楕円形	96 × 56	71 × 37	11.9
3	円形	37 × 36	19 × 17	62.9
4	円形	51 × 51	19 × 16	71.7
5	楕円形	54 × 36	4 × 4	24
6	楕円形	67 × 46	24 × 21	76.2
7	だらま形	55 × 30	5 × 4	72.6

第62図 西ノ原遺跡第158地点200号住居跡炉(1/30)、ピット(1/60)

⑨第201号住居跡

【位置・検出状況】調査区南東に検出。調査率は100%。

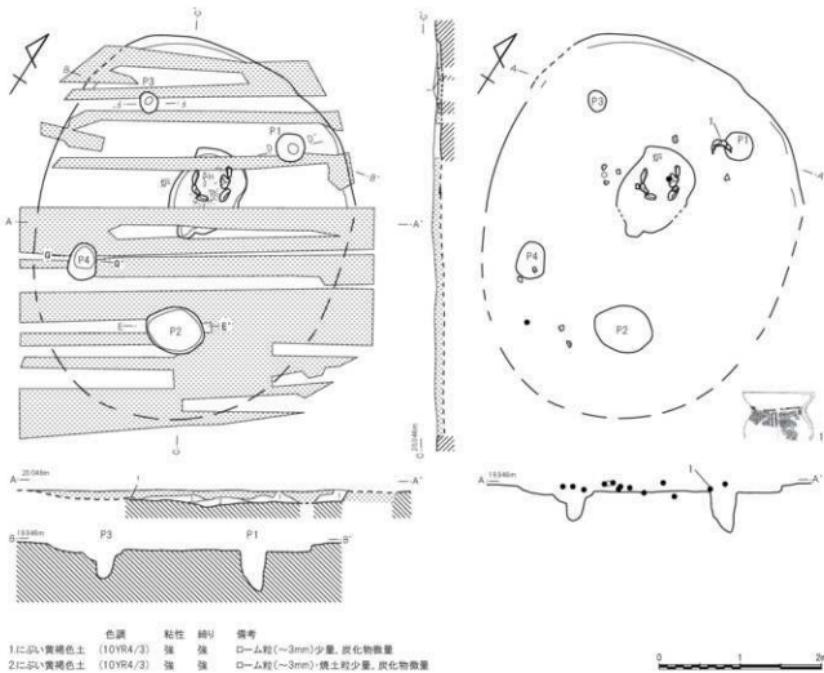
【形態・規模】振り込みが浅く、搅乱の影響も大きいため壁の立ち上がりはほとんど確認できないが、梢円形を呈し、長軸は400cm以上、短軸は350cm以上あるものと考えられる。深さは、深い箇所では20cm程度になるが、大部分は10cm以下である。

【構造】ピットは4基検出し、この内柱穴となるものは3基。配置からは4本主柱穴と考えられる。

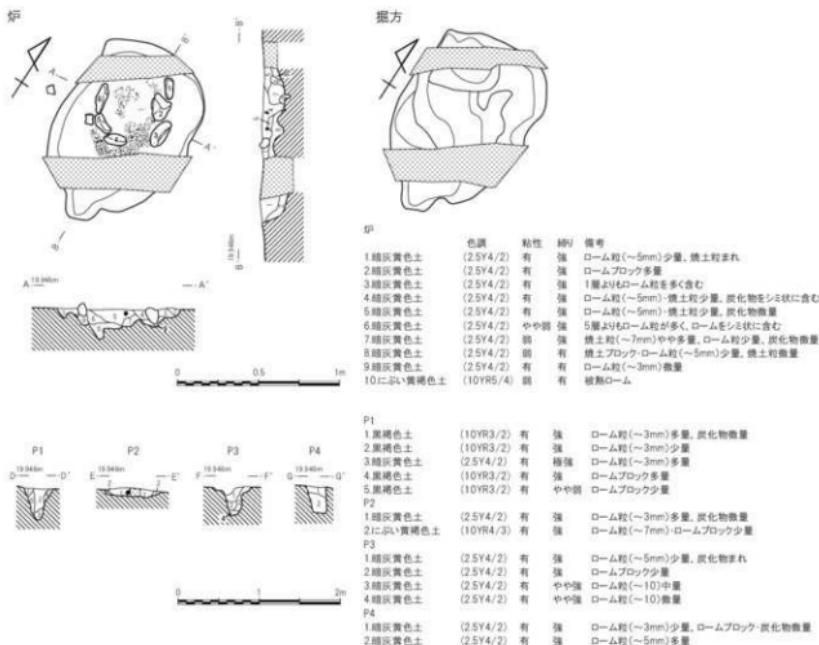
【炉】住居中央やや北寄りに検出。石囲いを伴う。長軸110cm×短軸80cmの梢円形に掘り込まれ、断面は皿状となる。石囲いは中央よりもやや北寄りに、50cm程度の円形に配置され、1~2kgの中粒砂岩、ホルンフェルスが用いられている。詳細は第41表。焼土は石囲いの内側～南部にかけて見られる。

【遺物】破片が少量出土した。床面直上から胴上部まで復元される曾利系の個体が出土している。

【時期】加曾利E I新段階。



第63図 西ノ原遺跡第158地点201号住居跡遺物出土状況(1/60)



第64図 西ノ原遺跡第158地点 201号住居跡炉・掘方 (1/30)、ピット (1/60)

第41表 西ノ原遺跡第158地点 201号住居内炉体砾一覧表 (単位cm・個数・g (%))

No.	石材	長さ×幅×高さ (cm)			重量 (kg)	備考
1	中粒砂岩	13	10	5	0.83	内側がやや赤化
2	中粒砂岩	13	13	8	2.02	被熱による割れ
3	ホルンフェルス	16	11	5	1.42	
4	中粒砂岩	15	9	5	0.8	
5	中粒砂岩	14	10	4	0.95	
6	中粒砂岩	19	9	5	1.07	2・5と同質

第42表 西ノ原遺跡第158地点 201号住居内ピット一覧表 (単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ	備考
1	円形	35 × 35	13 × 12	49.2	
2	橢円形	69 × 57	62 × 51	7	
3	円形	25 × 21	11 × 7	35.6	
4	橢円形	46 × 35	26 × 24	32.3	

⑩第203号住居跡

【位置・検出状況】調査区南端に検出。住居南端部は擾乱により滅失。なお、試掘調査時の遭撲検出土面は削平を受けており、実際の住居の壁は30cmほど高くなると思われる。

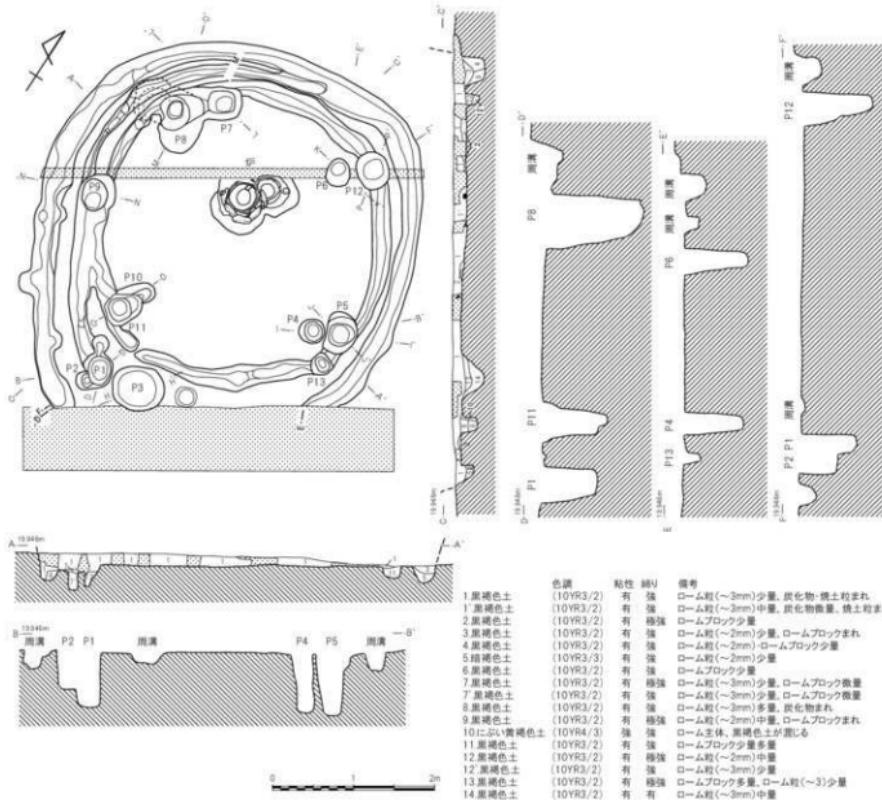
【形態・規模】隅丸長方形で長軸450cm以上×短軸470cm、現状の深さは15cm程度。壁は角度を持って立ち上がる。

【構造】ピットは13基検出し、柱穴と考えられるものは10基あり、4本主柱穴～5・6本主柱穴への変化がたどれる。周溝は全周し、西側では3重に残る。それぞれ15～20cmほどの深さを持つ。最低2回の扯張・建替えが行われている。初段階は360cm×370cmの円形。第65図参照。

【炉】住居中央北寄りに検出。2基が重複しており、新炉体土器、石臼いは旧炉体土器を一部壊して設置されている。

新炉は約60cmの円形に掘り込み、深いところは30cm程度になる。石臼いは1辺50cmほどの方形に、主に20cmほどの細長い中粒砂岩が用いられ、平坦面ではなく稜を下にし、高くなるよう設置している。炉体土器は内面南側が黒色化している。

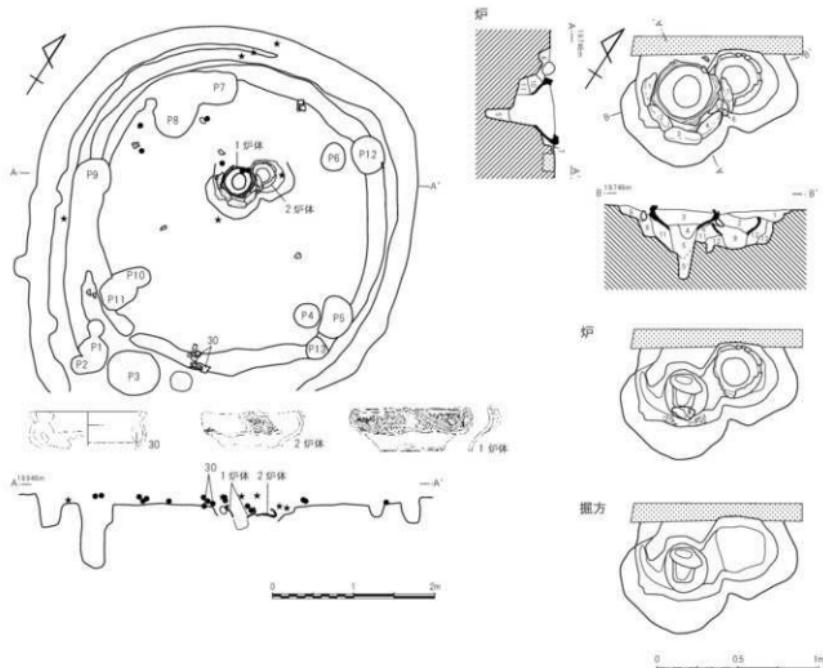
旧炉は約50cmの円形に掘り込まれたとみられる。新炉を取り上げた所、礫が出土したことから、石臼いを作っていたと考えられる。炉体土器は風化が強く胎土が脆くなっている、内面北部に黒色化がみられる。



第65図 西ノ原遺跡第158地点203号住居跡(1/60)

【遺物】覆土が下層しか残存していないため、遺物量は少ない。床面直上から浅鉢が出土している。土器の出土量のわりに石器(打製石斧)の出土量があり、他の住居跡と比べると短冊型の打製石斧が多い。

【時期】炉体土器より、加曾利E I式古段階。

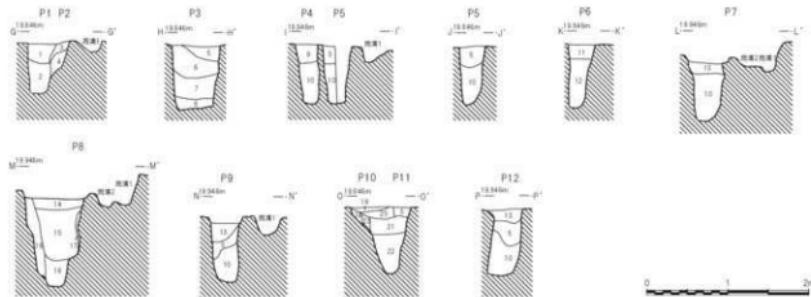


第43表 西ノ原遺跡第158地点203号住居内炉体礎一覧表

No.	石材	長さ×幅×高さ(cm)	重量(kg)	備考
1	中粒砂岩	21 11 6	1.77	
2	チャート	21 9 8	2.3	
3	中粒砂岩	21 9 10	2.6	
4	細粒砂岩	21 7 10	2.7	内側が赤化 赤化や黒色化が見られる
5	安山岩	13 8 6	0.68	
6	中粒砂岩	5 5 3	0.1	
7	中粒砂岩	23 5 7	0.88	1と同質
8	中粒砂岩	14 9 5	0.6	内側～下面 が黒色化

炉	色調	粘性	練り	備考
1.東褐色土 (10YR3/2)	有	強	○～ム粒(～3mm)少量、炭化物・焼土粒まれ	
2.黒褐色土 (10YR3/2)	有	強	○～ム粒(～3mm)・焼土粒(～5mm)少量、炭化物まれ	
3.黒褐色土 (10YR3/2)	有	やや強	○～ム粒(～3mm)少量、炭化物・焼土粒微量	
4.黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱	やや強	○～ム粒(～3mm)・(～7mm)少量、焼土粒微量	
5.黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱	やや強	○～ム粒(～2mm)微量	
5'.黒褐色土 (10YR2/3)	やや弱	弱	○～ム粒(～2mm)微量	
6.黒褐色土 (10YR3/2)	有	強	○～ム粒(～5mm)少量	
7.黒褐色土 (10YR3/2)	有	極強	○～ム粒(～3mm)・焼土粒少量	
8.黒褐色土 (10YR3/2)	有	極強	○～ム粒(～3mm)・焼土粒少量 ○ムブロック少量、ローム粒(～3mm)微量、焼土粒まれ	
9.黒褐色土 (10YR2/3)	有	有	○～ム粒(～2mm)微量	
10.黒褐色土 (10YR3/2)	有	強	○～ム粒(～3mm)・焼土粒少量	
11.黒褐色土 (10YR3/2)	弱	強	○～ム粒(～3mm)・焼土粒少量	
12.黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱	有	焼土粒(～3mm)少量、ローム粒微量 焼土粒・炭化物・ロームブロック微量	
13.黒褐色土 (10YR3/2)	やや弱	有	焼土粒・炭化物・ロームブロック微量	

第66図 西ノ原遺跡第158地点203号住居跡炉・掘方(1/30)、遺物出土状況(1/60)

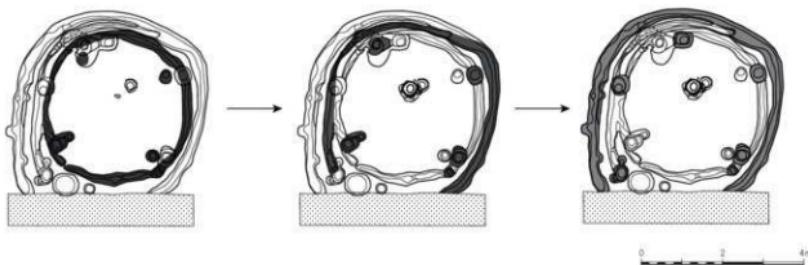


ビット	色調	粘性	種別	備考
1.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～5mm)多量	
2.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～5mm)-ロームブロック少量	
3.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)少量	
4.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)少量、ロームブロック微量	
5.黒褐色土	(10YR3/2)	やや強	ローム粒(～3mm)中量、炭化物まれ	
6.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)中量、炭化物まれ	
7.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)中量、ロームブロック微量	
8.にじむ黄褐色土	(10YR4/3)	強 強	ローム生層	
9.黒褐色土	(10YR3/2)	有 弱	ローム粒(～2mm)-ロームブロック多量	
10.黒褐色土	(10YR3/2)	有 弱	ローム粒(～3mm)-炭化物まれ	
11.黒褐色土	(10YR3/2)	有 極強	ローム粒(～3mm)-ロームブロック少量	
12.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)少量	
13.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)中量、炭化物まれ	
14.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)中量、ロームブロック微量	
15.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	炭化物まれ	
16.黒褐色土	(10YR3/2)	有 有	ローム粒(～3mm)多量	
17.黒褐色土	(10YR3/2)	有 やや弱	ローム粒(～3mm)-ロームブロック少量	
18.にじむ黄褐色土	(10YR4/3)	有 強	ローム粒(～3mm)-ロームブロック少量、炭化物まれ	
19.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)中量、炭化物・鐵土粒まれ	
20.黒褐色土	(10YR3/2)	有 強	ローム粒(～3mm)中量、ローム粒(～3mm)少量、鐵土粒・炭化物まれ	
21.黒褐色土	(10YR3/2)	やや強	ローム粒(～3mm)-ロームブロック-炭化物微量	
22.黒褐色土	(10YR3/2)	強 やや強	ローム粒(～3mm)-ロームブロック少量	
23.黒褐色土	(10YR3/2)	強 やや強	5層に近い	
24.黒褐色土	(10YR3/2)	有 極強	ローム粒(～3mm)-ロームブロック多量	

第44表 西ノ原遺跡第158地点203号住居内ビット一覧表（単位cm）

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	63×36	24×19	57.9	
2	不明	24×(18)	(8)×6	48.7	
3	円形	63×56	46×44	79.9	
4	円形	32×29	15×13	72.9	
5	椭円形	52×38	22×21	76.3	
6	楕円形	34×29	17×15	77.7	
7	不明	(42)×(40)	19×18	82.7	
8	不明	(72)×(53)	16×15	117	
9	不明	44×42	20×18	81.3	
10	不明	26×(21)	6×(4)	25.3	
11	不明	48×36	18×18	73.3	
12	円形	46×40	25×23	87.7	
13	円形	26×25	10×7	77.7	

203号住居跡変遷模式図



第67図 西ノ原遺跡第158地点203号住居跡ビット(1/60)、変遷模式図(1/120)